

平成18年度研修事業の概要

(各研修事業別個表)

① 各地域の基幹たる校長・教頭等の教職員に対する学校管理研修

1. 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修（教職員等中央研修講座）		
第1回	校長、教頭等	1
第2回	校長、教頭等	3
第3回	校長、教頭等	5
第4回	校長、教頭等	7
第5回	校長、教頭等	9
特別研修	校長、教頭等	11
2. 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修（教職員等中央研修講座）		
第1回	中堅教員	13
第2回	中堅教員	15
第3回	中堅教員	17
第4回	中堅教員	19
第5回	中堅教員	21
3. 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立高等学校）		
		23
4. 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立小・中学校）		
		25
5. 国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修（海外派遣）		
(16日)		27
(2ヶ月)		29
(3ヶ月)		31
(6ヶ月)		33
(12ヶ月)		35

② 喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の先行段階としてセンターが行う研修

1. 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修		
中央指導者研修		37
北海道・東北ブロック		39
関東・甲信越ブロック		41
東海・北陸ブロック		43
近畿・中国ブロック		45
四国・九州ブロック		47

2. 子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック	49
中部ブロック	51
西部ブロック	53
3. 環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック	55
西部ブロック	57
4. 体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック	59
西部ブロック	61
5. 生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修	63
6. キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック（基礎コース）	65
東部ブロック（応用コース）	67
西部ブロック（基礎コース）	69
西部ブロック（応用コース）	71
7. 人権教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修	73
8. 特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修 （カリキュラム・マネジメント研修）	75
9. 指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック	77
西部ブロック	79
10. 各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修	
第1回	81
第2回	83
第3回	85
11. 児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修	
東部ブロック	87
西部ブロック	89
12. 外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	91
再契約予定者研修会（A日程）	95
再契約予定者研修会（B日程）	97
13. 外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修	
管理者用コース	99
日本語指導者用コース	101
14. 児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修 ..	104
15. 健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修	106
16. 食の指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修	
Aコース	108
Bコース	110

③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

1. 産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修 （産業教育・理科教育） ……………	114
2. 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修	
農業：A-1 ……………	118
農業：A-2 ……………	120
工業：B-1 ……………	122
工業：B-2 ……………	124
商業：C-1 ……………	126
水産：D-1 ……………	128
水産：D-2 ……………	130
家庭：E-1 ……………	132
家庭：E-2 ……………	134
家庭：E-3 ……………	136
看護：F-1 ……………	138
看護：F-2 ……………	140
情報：G-1 ……………	142
情報：G-2 ……………	144
情報：G-3 ……………	146
福祉：H-1 ……………	148
福祉：H-2 ……………	150
技術：I-1-1 ……………	152
技術：I-1-2 ……………	154
技術：I-2-1 ……………	156
技術：I-2-2 ……………	158
技術：I-2-3 ……………	160
技術：I-2-4 ……………	162
家庭：J-1 ……………	164
家庭：J-2 ……………	166
3. 産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修	
農業 ……………	168
工業 ……………	170
水産 ……………	172

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第1回校長・教頭等研修)							
担当課係	研修企画課 調査係							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校教頭・幼稚園園長							
開催期日	平成18年 6月22日 (木) ～平成18年 7月 6日 (木)				15日間			
受講人数	計画人数	200	人	受講者数	124	人	参加率	62.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答			
人数 (人)	割合 (%)	99	80.5	24	19.5	0	0.0	0	0.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に濃密な研修の連続だった。2週間であれだけの講師の方々の講義を受けられたことに感謝。また演習をグループで協議できたこと、何より全国の先生方と触れあい、目から鱗状態の“生の”話が聴けて大変勉強になりました。 ・自分が持っている課題に対する解決の方法が得られる研修となり、大変ありがたいと思った。気持ち良く研修でき感謝。川柳もいいですね。 ・15日間の研修としては内容がとても多かったと思う。地域に戻り他の人に教えるには、もう少し理論・演習ともに時間をかける必要があると感じた。この研修で学んだことをきっかけとして、夏休みに学び直してみたいと思った。 ・素晴らしい研修であった。今後も多くの教職員がこの研修で資質・能力を伸ばして欲しい。そして研修の成果を全国に広げて行って欲しい。 ・研修内容は今日の課題、教職員にある者に対応するもので良かったと思う。また、講師も一流の方々ばかりですごく良かった。 ・朝のオリエンテーションの持ち方はリラックスでき、非常に良かった。また朝夕の班の演習時間設定は非常にありがたかった。殆どが班で実施するものが多いため、このように時間内の打ち合わせタイムは絶対必要である。 ・豊富な資料を頂き今後の大きな財産となった。 ・やらされている研修ではなく、何か成果を掴んで帰るという意識の徹底がなされていた。終了間際のアンケートの綿密さから改めて研修の意義を再確認した。中堅の時に比べて、やはり日程的にも内容的にもきつかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修日程の短縮化 (19日→15日) ・研修内容を5つの大きなカテゴリー (①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント) に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。 ・集合研修の効果を上げるため、演習課題を集合研修前に連絡し事前に自主研修できるようにした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第1回校長・教頭等研修(第291回)

小学校教頭・幼稚園園長

平成18年6月22日(木)～平成18年7月6日(木)

第1週	6月19日(月)	6月20日(火)	6月21日(水)	6月22日(木)	6月23日(金)	6月24日(土)	6月25日(日)
8:30～9:00				9:30～受付	8:30～10:15 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30				10:00～11:45 オリエンテーション	10:30～11:45 地方教育行財政制度 (文部科学省職員)		
午前2 10:30～11:45				13:15～13:35 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 菱村幸彦		
午後1 13:00～14:15				13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)			
午後2 14:15～15:30				15:15～17:00 オリエンテーション			
午後3 15:45～17:00					15:45～17:00 実践研究		
第2週	6月26日(月)	6月27日(火)	6月28日(水)	6月29日(木)	6月30日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～14:15 教育法規Ⅱ 田中早苗	9:15～11:45 総合的な学習の時間 吉崎静夫	9:15～11:45 ★学校組織 マネジメント 木岡一明	9:15～15:30 危機管理 伊原正俊	9:15～17:00 学校組織 マネジメント 産能大		
午前2 10:30～11:45		(幼)カリキュラム開発 神長美津子					
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 カリキュラムマネジメント 天笠 茂	13:00～15:30 危機管理 伊原正俊				
午後2 14:15～15:30	14:30～17:00 研修講師となるための 知識技術	(幼)カリキュラムマネジメント 豊田一秀					
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第3週	7月3日(月)	7月4日(火)	7月5日(水)	7月6日(木)			
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～10:45 研修講師となるための 知識技術			
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 ★生徒指導上の課題 石隈利紀	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習				
午前2 10:30～11:45	(幼)幼児教育における 評価を考える 小川博久	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～11:15 閉講式			
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 (選択講義) ・キャリア教育:竹内登規夫	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習				
午後2 14:15～15:30	・道徳教育:横山利弘 ・人権教育:森 実 ・特別支援教育:中井 滋	14:45～15:45 学校管理運営演習	14:15～15:30 学校管理運営演習				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	16:00～17:00 学校管理運営演習	15:45～17:00 学校管理運営演習	地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)			

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第2回校長・教頭等研修)					
担当課係	研修企画課 調査係					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	高等学校校長・教頭					
開催期日	平成18年 8月17日 (木) ~平成18年 8月31日 (木)	15日間				
受講人数	計画人数	200 人	受講者数	160 人	参加率	80.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	123 76.9	37 23.1	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・限られた期間の中で多くのことを学ばせて頂きありがとうございました。メニューが多めで慌ただしいと言った話も聞こえたが、私は1つでも多くのことをやって頂いて大変嬉しく思っている。 ・計画的に運営された研修で、今まで受講した研修の中では最高だった。ありがとうございました。 ・研修期間をもう少し長くして欲しい。何となく忙しく、余裕を持って望みたかった。 ・忙しい研修の中に川柳が面白い味を出して、とても良い企画だった。 ・演習は大変でしたがとても良い勉強になった。講義でもっとお話を聴き勉強したいと思った。 ・きめ細かに配慮された研修内容だった。説明も大変良くして頂きスムーズに行動できた。 ・班の分け方については妥当と思うが、場合によっては学校の種別毎に集まる機会が取れるような余裕が欲しかった。 ・上手な運営・企画だったと思う。さすがセンター。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修日程の短縮化 (19日→15日) ・研修内容を5つの大きなカテゴリー (①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント) に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。 ・集合研修の効果を上げるため、演習課題を集合研修前に連絡し事前に自主研修できるようにした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第2回校長・教頭等研修(第293回)

高校校長・教頭

平成18年8月17日(木)～平成18年8月31日(木)

第1週	8月14日(月)	8月15日(火)	8月16日(水)	8月17日(木)	8月18日(金)	8月19日(土)	8月20日(日)
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00				9:30～ 受 付	8:30～10:15 オリエンテーション	自由研修	自由研修
				10:00～11:45 オリエンテーション	10:30～11:45 地方教育行政制度 (文部科学省職員)		
				13:15～13:35 開講式	13:00～15:30 教育法規 I 北神正行		
				13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)			
				15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究		
第2週	8月21日(月)	8月22日(火)	8月23日(水)	8月24日(木)	8月25日(金)	8月26日(土)	8月27日(日)
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00	8:30～9:00 演習準備 9:15～14:15 教育法規Ⅱ 清水幹裕	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 ★学校組織 マネジメント 小松郁夫	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 ★カリキュラムマネジメント 蛭田政弘	8:30～9:00 演習準備 9:15～15:30 危機管理 伊原正俊	8:30～9:00 演習準備 9:15～17:00 学校組織 マネジメント 産能大	自由研修	自由研修
		13:00～15:30 総合的な学習の時間 澁澤文隆	13:00～15:30 危機管理 伊原正俊				
	14:30～17:00 研修講師となるための 知識技術						
		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第3週	8月28日(月)	8月29日(火)	8月30日(水)	8月31日(木)			
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 生徒指導上の課題 金澤純三	8:30～9:00 演習準備 9:45～10:45 学校管理運営演習	8:30～9:00 演習準備 9:45～10:45 学校管理運営演習	8:30～10:45 研修講師となるための 知識技術			
		11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～11:15 閉講式			
	13:00～15:30 キャリア教育 鹿嶋研之助	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習				
		14:45～15:45 学校管理運営演習	14:15～15:30 学校管理運営演習				
	15:45～17:00 実践研究	16:00～17:00 学校管理運営演習	15:45～17:00 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)				

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第3回校長・教頭等研修)		
担 当 課 係	研修企画課 調査係		
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。		
受 講 対 象	小学校校長・中学校校長		
開 催 期 日	平成19年 1月11日 (木) ~平成19年 1月25日 (木)	15日間	
受 講 人 数	計画人数	150 人	受講者数 97 人 参加率 64.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	76 79.2	20 20.8	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習が多いことは自ら学ぶ場面が多く、大変良いと感じました。 ・研修内容が演習を通して明確に具体化・具現化され、実感を持って身に付くと思いました。参加型で主体的な研修ができました。 ・演習が入ることによって立ち止まり、フィードバック思考と実行と熟するものがあります。また、講師との関わり・仲間との関わりと主体的な学びが入ってきますので是非続けてください。 ・演習を通して学んだことは大変良かったと思います。自分が活動の主体となれました。緊急記者会見での校長役は、その場に立ってみないと分からない事もあると実感しました。この方式を多く取り入れて欲しいと思います。 ・講義だけだと、その時は理解できても後で分からなくなることが多い。演習したことでしっかり残り、今後活用できそうな気がします。 ・実際体験・経験することによって、言葉が映像化したり、強く印象に残るので良いと思います。 ・他校の実践、他の校長の考え方等を得る事ができてとても良かった。 ・始めはどうなるのかなと思ったが、事前のオリエンテーションがあったので迷うことなく研修ができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修日程の短縮化 (19日→15日) ・研修内容を5つの大きなカテゴリー (①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント) に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。 ・集合研修の効果を上げるため、演習課題を集合研修前に連絡し事前に自主研修できるようにした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第3回校長・教頭等研修(第298回)

小学校・中学校校長

平成19年1月11日(木)～平成19年1月25日(木)

第1週	1月8日(月)	1月9日(火)	1月10日(水)	1月11日(木)	1月12日(金)	1月13日(土)	1月14日(日)
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00				9:30～ 受付 10:00～11:45 オリエンテーション 13:15～13:35 開講式 13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員) 15:15～17:00 オリエンテーション	8:30～10:15 オリエンテーション 10:30～11:45 地方教育行政制度 (文部科学省職員) 13:00～15:30 教育法規 I 坂田 仰 15:45～17:00 実践研究	自由研修	自由研修
第2週	1月15日(月)	1月16日(火)	1月17日(水)	1月18日(木)	1月19日(金)	1月20日(土)	1月21日(日)
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 研修講師となるための知識技術 13:00～15:30 総合的な学習の時間 相澤秀夫 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～14:15 教育法規Ⅱ 田中早苗 14:30～17:00 生徒指導上の課題 菅野 純	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 学校組織 マネジメント 木岡一明 13:00～15:30 危機管理 伊原正俊 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～15:30 危機管理 伊原正俊 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～17:00 学校組織 マネジメント 産業能率大学	自由研修	自由研修
第3週	1月22日(月)	1月23日(火)	1月24日(水)	1月25日(木)			
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 ★カリキュラムマネジメント 天笠 茂 13:00～15:30 (選択講義) ・キャリア教育:菊池武烈 ・人権教育:福田 弘 ★特別支援教育:上野一彦 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:45～10:45 学校管理運営演習 11:00～12:00 学校管理運営演習 13:30～14:30 学校管理運営演習 14:45～15:45 学校管理運営演習 16:00～17:00 学校管理運営演習	8:30～9:00 演習準備 9:45～10:45 学校管理運営演習 11:00～12:00 学校管理運営演習 13:30～14:30 学校管理運営演習 14:15～15:30 学校管理運営演習 15:45～17:00 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	8:30～8:50 演習準備 9:00～11:00 道徳教育 小寺正一 11:20～11:35 閉講式			

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第4回校長・教頭等研修)					
担当課係	研修企画課 調査係					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	中学校教頭・指導主事・教育センター指導主事					
開催期日	平成19年 2月 5日 (月) ~平成19年 2月20日 (火)	16日間				
受講人数	計画人数	200 人	受講者数	186 人	参加率	93.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答				
人数 (人)	割合 (%)	154	83.2	31	16.8	0	0.0	0	0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・細かいところに手が届き、研修そのものに集中できるシステムには驚いています。研修者が生かされ、指導の先生方の意欲も感じられました。施設・設備も先駆的で非常に勉強になりました。 ・随時オリエンテーションがあり、研修の主旨・流れ・生活のこと等がとても理解しやすかった。 ・研修講座の前に、その目的や狙いを説明して頂き、講座の始めに全体像を示した上で中身に入り、講座の最後に再び講座全体を総括したり、評価するという研修スタイルは大変勉強になりました。 ・殆どの講座に於いて事前に資料が配付されたので、目を通してから講義を受けることができとても有り難かった。 ・研修内容は大変良かった。新教育基本法も施行されたばかりでしたので、大変目標を持って研究できました。 ・研修生が気持ちよく研修ができるような配慮がなされており、大変有り難く感じました。 ・1週目、2週目の組み立てが良かった。オリエンテーションも最初に丁寧にやって頂きとても良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修日程の短縮化 (19日→15日) ・研修内容を5つの大きなカテゴリー (①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント) に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。 ・集合研修の効果を上げるため、演習課題を集合研修前に連絡し事前に自主研修できるようにした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第4回校長・教頭等研修(第299回)

中学校教頭・指導主事・センター指導主事

平成19年2月5日(月)～平成19年2月20日(火)

第1週	2月5日(月)	2月6日(火)	2月7日(水)	2月8日(木)	2月9日(金)	2月10日(土)	2月11日(日)
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00	9:30～受付 10:00～11:45 オリエンテーション ★地方教育行財政制度 宮腰英一 13:15～13:35 開講式 13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員) 15:15～17:00 オリエンテーション	8:30～10:15 オリエンテーション 10:30～11:45 ★地方教育行財政制度 宮腰英一 13:00～15:30 教育法規Ⅰ 菱村幸彦 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～14:15 教育法規Ⅱ 清水幹裕 14:30～15:30 文部科学省講話 (文部科学省職員) 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 カリキュラムマネジメント 八尾坂修 13:00～15:30 総合的な学習の時間 吉崎静夫 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～17:00 学校組織 マネジメント 産業能率大学	自由研修	自由研修
第2週	2月12日(月)	2月13日(火)	2月14日(水)	2月15日(木)	2月16日(金)	2月17日(土)	2月18日(日)
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00	自由研修	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 学校組織 マネジメント 小松郁夫 13:00～15:30 危機管理 伊原正俊 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～15:30 危機管理 伊原正俊 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:45～10:45 学校管理運営演習 11:00～12:00 学校管理運営演習 13:30～14:30 学校管理運営演習 14:45～15:45 学校管理運営演習 16:00～17:00 学校管理運営演習	8:30～9:00 演習準備 9:45～10:45 学校管理運営演習 11:00～12:00 学校管理運営演習 13:30～14:30 学校管理運営演習 14:15～15:30 学校管理運営演習 15:45～17:00 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)	自由研修	自由研修
第3週	2月19日(月)	2月20日(火)					
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 生徒指導上の課題 石隈利紀 13:00～15:30 (選択講義) ・キャリア教育:三村 隆男 ・道徳教育:藤永芳純 ★・人権教育:森 実 ・特別支援教育:佐々木和義 15:45～17:00 実践研究	8:30～10:45 研修講師となるための 知識技術 11:00～11:15 閉講式					

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第5回校長・教頭等研修)					
担当課係	研修企画課 調査係					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	小学校教頭・指導主事・教育センター指導主事					
開催期日	平成19年 2月22日 (木) ~平成19年 3月 8日 (木)	15日間				
受講人数	計画人数	150 人	受講者数	135 人	参加率	90.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	104 77.0	31 23.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・オリエンテーションが分割して行われ、その時点で必要なことを丁寧に説明して頂き、見通しを持って研修を進めることができた。
 ・短い期間でしたが効果的な研修計画と内容により大変良い勉強になりました。現場を離れ、このような素晴らしい研修に参加させて頂き大変感謝しております。
 ・以前より短くなったということで、講座の中にはもう少し詳しく勉強したいものもあったが、全体として充実しておりとても良かった。
 ・講師の先生もきちんと時間を意識して守られ時間にゆとりがありました。
 ・この研修を受けて更に自ら学びたいという意欲が沸きました。短い期間の中で大変密度の濃い研修が受けられたと思います。ここから先は1つ1つ丹念に勉強していきたいと考えています。
 ・全体的に短い期間で多くのことが盛り込まれていたと思います。どれもなるほどと感心する講義・演習ばかりで、さすが中央研修だと思いました。一流の講師陣の講義を拝聴でき、最先端の内容が学べるということが中央研修の利点だと思います。地方ではとてもできないところです。

III 研修内容・方法の見直し等

・研修日程の短縮化 (19日→15日)
 ・研修内容を5つの大きなカテゴリー (①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント) に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。
 ・集合研修の効果を上げるため、演習課題を集合研修前に連絡し事前に自主研修できるようにした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第5回校長・教頭等研修(第300回)

小学校教頭・指導主事・センター指導主事

平成10年2月19日(木)～平成19年3月8日(木)

第1週	2月19日(月)	2月20日(火)	2月21日(水)	2月22日(木)	2月23日(金)	2月24日(土)	2月25日(日)
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00				9:30～受付 10:00～11:45 オリエンテーション 13:15～13:35 開講式 13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員) 15:15～17:00 オリエンテーション	8:30～10:15 オリエンテーション 10:30～11:45 地方教育行財政制度 宮腰英一 13:00～15:30 ★教育法規 I 坂田 仰 15:45～17:00 実践研究	自由研修	自由研修
第2週	2月26日(月)	2月27日(火)	2月28日(水)	3月1日(木)	3月2日(金)	3月3日(土)	3月4日(日)
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00	8:30～9:00 演習準備 9:15～14:15 教育法規Ⅱ 松崎 勝 14:30～15:30 いじめ等問題行動への取組 (文部科学省職員) 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 カリキュラムマネジメント 安彦忠彦 13:00～15:30 総合的な学習の時間 嶋野道弘 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 学校組織 マネジメント 長尾彰夫 13:00～15:30 危機管理 伊原正俊 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～15:30 危機管理 伊原正俊 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:15～17:00 学校組織 マネジメント 産業能率大学 15:45～17:00 実践研究	自由研修	自由研修
第3週	3月5日(月)	3月6日(火)	3月7日(水)	3月8日(木)			
8:30～9:00 午前1 9:15～10:30 午前2 10:30～11:45 午後1 13:00～14:15 午後2 14:15～15:30 午後3 15:45～17:00	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 生徒指導上の課題 有村久春 13:00～15:30 (選択講義) ・キャリア教育:三村隆男 ・道徳教育:七條正典 ・人権教育:福田 弘 ・特別支援教育:十一元三 15:45～17:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備 9:45～10:45 学校管理運営演習 11:00～12:00 学校管理運営演習 14:45～15:45 学校管理運営演習 16:00～17:00 学校管理運営演習	8:30～9:00 演習準備 9:45～10:45 学校管理運営演習 11:00～12:00 学校管理運営演習 14:15～15:30 学校管理運営演習 15:45～17:00 学校管理運営演習	8:30～10:45 研修講師となるための知識技術 11:00～11:15 閉講式			

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (特別研修)		
担当課係	研修企画課 調査係		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。		
受講対象	東京都、神奈川県、埼玉県の小学校・中学校教頭		
開催期日	平成18年 8月17日 (木) ~平成18年 8月30日 (水)	10日間	
受講人数	計画人数	— 人	受講者数 74 人 参加率 —
開催場所	お茶の水女子大学、筑波大学東京キャンパス、ホテル聚楽		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	61 83.6	12 16.4	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

- ・夏季休業中の実施は大変ありがたかった。
- ・「基本的な講義→演習→まとめ」の構成であり、また演習も「説明→演習→まとめ」の構成となっていて大変まとめやすかった。
- ・講義と演習がバランス良く組まれていた。
- ・1日1日の内容が濃密で長く感じなかった。印象としては良く内容が練られた研修であると思った。
- ・教頭として通いの研修であることが良かった。時期も夏季休業中の実施ということが良かった。
- ・都内で実施してくださったことで「よし、参加するぞ」「やっと参加できる」という思いを持ち参加できた。
- ・ロールプレイを頂点に法令でクールダウンする構成。とても良かった。
- ・夏季休業中に10日間という設定がありがたかった。グループ演習を徐々に増やして頂いたこと、関わりを深めやすかった。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・地方開催 (非宿泊型研修)
- ・研修内容を5つの大きなカテゴリー (①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント) に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。
- ・集合研修の効果を上げるため、演習課題を集合研修前に連絡し事前に自主研修できるようにした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

特別研修 校長・教頭等研修(第294回)

小学校教頭・中学校教頭

平成18年8月17日(木)～平成18年8月30日(水)

第1週	8月14日(月)	8月15日(火)	8月16日(水)	8月17日(木)	8月18日(金)	8月19日(土)	8月20日(日)
9:30～9:45				9:30～受付	オリエンテーション 9:30～10:45		
午前1 9:45～11:00				10:00～11:30 オリエンテーション	11:00～15:00 法規演習 I 坂田 仰		
午前2 11:00～12:15				13:00～13:30 開講式			
午後1 13:30～14:45				13:40～14:40 教育改革の推進 (文部科学省職員)			
午後2 14:45～16:00				15:00～16:30 オリエンテーション	15:15～16:30 実践研究		
16:00～16:30							
第2週	8月21日(月)	8月22日(火)	8月23日(水)	8月24日(木)	8月25日(金)	8月26日(土)	8月27日(日)
9:30～9:45	9:30～10:45 研修講師となるための知識技術	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
午前1 9:45～11:00		9:45～11:45 学校経営の課題 (学習指導の充実) 北 俊夫	9:45～12:15 (全員) 学校組織 マネジメント マーサー	9:45～16:30 (A) 危機管理 石川慶子	9:45～16:30 (B) 危機管理 石川慶子		
午前2 11:00～12:15	11:00～16:30 教育法規 II						
午後1 13:30～14:45	石津廣司	13:00～15:00 リーダーとマネジメント 古賀正一	13:30～15:00 (全員) 危機管理 石川慶子	(B) 学校組織 マネジメント マーサー	(A) 学校組織 マネジメント マーサー		
午後2 14:45～16:00							
16:00～16:30		15:15～16:30 実践研究	15:15～16:30 実践研究				
第3週	8月28日(月)	8月29日(火)	8月30日(水)				
9:30～9:45	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明				
午前1 9:45～11:00	9:45～15:30 カリキュラムマネジメント 児島邦宏	9:45～10:45 全体講義 (文部科学省職員)	9:30～16:00 学校管理運営演習				
午前2 11:00～12:15		11:00～16:30 学校管理運営演習					
午後1 13:30～14:45							
午後2 14:45～16:00							
16:00～16:30	9:45～16:30 実践研究		16:15～16:30 閉講式				

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第1回中堅教員研修)					
担当課係	研修企画課 調査係					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	高等学校教員					
開催期日	平成18年 5月 9日 (火) ~平成18年 6月 2日 (金)	25日間				
受講人数	計画人数	200 人	受講者数	161 人	参加率	80.5%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	132 83.0	27 17.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・細かい配慮の行き届いた研修運営に大変感謝している。長期間にあるにもかかわらず、モチベーションを維持して望むことができた。

・各方面にわたる研修ができて今回参加して大変良かったと思っている。この研修で学んだことを、校内・地域に伝えていきたいと考えている。

・研修日程は大変ハードだった。研修期間が短縮された分やむを得ない。ただし、研修内容から見てこれ以上短縮されるべきではないと思う。日程的にはハードだが内容は充実していた。

・研修の内容によってはもう少し時間が少なくても良いもの、もう少し時間をかけても良いものがあったと感じるが、概ね良かったと思う。

・実践研究の発表や意見交換については、校種毎にグループ編成をして頂きたい。

・運営方法に常に改善する工夫が見られ非常に良かった。

・課題等も思っていたよりも多く、毎日忙しく過ごした日々だったが、1日1日が充実した研修の連続で意義ある研修となった。

・プログラムが非常にシステムチックであり、受講生として貴センターの運営に敬意を表したい。

III 研修内容・方法の見直し等

・研修日程の短縮化 (30日→25日)

・研修内容を5つの大きなカテゴリー (①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント) に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第1回中堅教員研修(第290回)

高校教諭

平成18年5月9日(火)～平成18年6月2日(金)

第1週	5月8日(月)	5月9日(火)	5月10日(水)	5月11日(木)	5月12日(金)	5月13日(土)	5月14日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:15 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30		9:30～ 受付		9:30～10:15 実践研究	9:15～11:45 ★国際理解教育 平野次郎		
午前2 10:30～11:45		10:00～12:00 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 (文部科学省職員)	10:30～17:00 教育法規Ⅱ 松崎 勝		自由研修	自由研修
午後1 13:00～14:15		13:15～13:35 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 坂田 仰		13:00～15:30 研修講師となるための 知識技術		
午後2 14:15～15:30		13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)					
午後3 15:45～17:00		15:30～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究		
第2週	5月15日(月)	5月16日(火)	5月17日(水)	5月18日(木)	5月19日(金)	5月20日(土)	5月21日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導上の課題 丸山 隆	9:15～11:45 生徒指導上の課題 石橋昭良	9:15～11:45 キャリア教育 田中秀利	9:15～11:45 危機管理 上地安昭	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45						自由研修	自由研修
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導上の課題 下田博次	13:00～15:30 道徳教育 藤永芳純	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	5月22日(月)	5月23日(火)	5月24日(水)	5月25日(木)	5月26日(金)	5月27日(土)	5月28日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 総合的な学習の時間 村川雅弘	9:15～15:30 学習指導と評価 工藤文三	9:15～15:30 特色ある カリキュラム編成 (選択)	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 蛭田政弘	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産能大		
午前2 10:30～11:45			情報教育:林徳治 ボランティア教育:長沼豊 健康教育:野津有司 環境教育:市川智史			自由研修	自由研修
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第4週	5月29日(月)	5月30日(火)	5月31日(水)	6月1日(木)	6月2日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:30 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 ★人権教育 福田 弘	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 研修講師となるための 知識・技術		
午前2 10:30～11:45		11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～11:15 閉講		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 上野一彦	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習			
午後2 14:15～15:30		14:45～15:45 学校管理運営演習	14:45～15:45 学校管理運営演習	14:15～15:30 学校管理運営演習			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	16:00～17:00 学校管理運営演習	16:00～17:00 学校管理運営演習	15:45～17:00 学校管理運営演習	15:45～17:00 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)		

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第2回中堅教員研修)		
担当課係	研修企画課 調査係		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。		
受講対象	小学校教員		
開催期日	平成18年 7月18日 (火) ~平成18年 8月11日 (金)	25日間	
受講人数	計画人数	160 人	受講者数 182 人 参加率 113.8%
開催場所	独立行政法人教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	152 84.0	29 16.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・オリエンテーション等で週毎・講座毎の見通しが持ててやりやすかった。
 ・内容が多岐にわたり底辺からしっかりと鍛えられたという感じがある。ここセンターでなければ出来ない演習で、得るものがとても多かった。班・グループだけでないグループ分けも良かった。多くの県の方と触れあうことができた。
 ・担当主事の対応も良く、安心して研修させて頂きました。また、講義によってグループ編成が違っており、いろいろな方と交流することができて良かった。
 ・事前課題を適切に出して下さったのは予習ポイントの参考になりとてもありがたかった。研修内容を効率よく主体的に学習できる工夫がなされていると思った。
 ・実践研究の時間がとても有意義だった。
 ・設備・講師とも素晴らしく大変勉強になった。全国から集まった先生方、演習(学校管理運営演習)の先生方と交流を深めることができた。
 ・教育をより広い見地から見直すきっかけとなった。

III 研修内容・方法の見直し等

・研修日程の短縮化(30日→25日)
 ・研修内容を5つの大きなカテゴリー(①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント)に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第2回中堅教員研修(第292回)

小学校教諭

平成18年7月18日(火)～平成18年8月11日(金)

第1週	7月17日(月)	7月18日(火)	7月19日(水)	7月20日(木)	7月21日(金)	7月22日(土)	7月23日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:15 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30		9:30～ 受付		9:30～10:15 演習打合せ	9:15～11:45 国際理解教育 森本 敏		
午前2 10:30～11:45		10:00～12:00 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 (文部科学省職員)	10:30～17:00 教育法規Ⅱ 清水幹裕		自由研修	自由研修
午後1 13:00～14:15		13:15～13:35 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 伊勢呂裕史		13:00～15:30 研修講師となるための 知識技術		
午後2 14:15～15:30		13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)					
午後3 15:45～17:00		15:30～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 演習打合せ		15:45～17:00 実践研究		
第2週	7月24日(月)	7月25日(火)	7月26日(水)	7月27日(木)	7月28日(金)	7月29日(土)	7月30日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導上の課題 金澤純三	9:15～11:45 生徒指導上の課題 柏女霊峰	9:15～11:45 ★キャリア教育 三村隆男	9:15～11:45 危機管理 飯野真幸	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45						自由研修	自由研修
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 ★生徒指導上の課題 國分康孝	13:00～15:30 道徳教育 横山利弘	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	7月31日(月)	8月1日(火)	8月2日(水)	8月3日(木)	8月4日(金)	8月5日(土)	8月6日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 ★カリキュラム マネジメント 八尾坂修	9:15～15:30 総合的な学習の時間 村川雅弘	9:15～15:30 特色ある カリキュラム編成 (選択)	9:15～15:30 学習指導と評価 清水静海	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産能大		
午前2 10:30～11:45			情報教育:鈴木克明 ボランティア教育:興祖 寛 健康教育:和唐正勝 環境教育:小澤紀美子			自由研修	自由研修
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第4週	8月7日(月)	8月8日(火)	8月9日(水)	8月10日(木)	8月11日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 有村久春	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 研修講師となるための 知識・技術		
午前2 10:30～11:45		11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～11:15 閉講		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 佐々木和義	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習			
午後2 14:15～15:30		14:45～15:45 学校管理運営演習	14:45～15:45 学校管理運営演習	14:15～15:30 学校管理運営演習			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	16:00～17:00 学校管理運営演習	16:00～17:00 学校管理運営演習	15:45～17:00 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)			

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第3回中堅教員研修)					
担当課係	研修企画課 調査係					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	小学校教員					
開催期日	平成18年 9月 4日 (月) ~平成18年 9月29日 (金)	26日間				
受講人数	計画人数	260 人	受講者数	94 人	参加率	36.2%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	88 93.6	6 6.4	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修及び演習・講義の細部に至るまで丁寧かつ親切なご配慮を頂きありがとうございました。学校教育現場において、この思いやり・優しさの心は学んだこととして実践に生かして行こうと思います。 ・一流の講師陣による講義でどれも素晴らしかった。また、様々な形式で演習でき、他県との情報交換もできて良かった。 ・施設が集中しており移動等がスムーズに行えて良かった。また、施設も素晴らしい。運営においても適切になされていた。 ・常に一流の講師陣による講義と演習は大変刺激的であり、充実していた。また、全国の先生方との実践発表や情報交換も大きな財産となった。今後も是非継続して頂きたい。 ・研修方法、内容、日程等、私たち受講生のことを大変良く考えて頂いていることが良く分かった。 ・講座の配列が良く工夫されていると感心した。細やかな配慮にも感謝です。 ・研修のグループ構成が多様であったので、いろいろな学校の様子を知ることができて良かったと思う。 ・危機管理、総合的な学習の時間等々、講師の先生が研修室に来てくださり、普段疑問に感じていること等が質問できとても良かったと思う。もう少し時間が長く確保されていると更に良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修日程の短縮化 (30日→25日) ・研修内容を5つの大きなカテゴリー (①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント) に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第3回中堅教員研修講座(第295回)

小学校教諭

平成18年9月4日(月)～平成18年9月29日(金)

第1週	9月4日(月)	9月5日(火)	9月6日(水)	9月7日(木)	9月8日(金)	9月9日(土)	9月10日(日)	
8:30～9:00	9:30～受付 10:00～12:00 オリエンテーション 13:15～13:35 開講式 13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員) 15:30～17:00 オリエンテーション	8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:15 オリエンテーション 9:30～10:15 演習打合せ	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 国際理解教育 佐藤郡衛	8:30～9:00 演習準備 9:15～11:45 人権教育 梅野正信	自由研修	自由研修	
午前1 9:15～10:30		10:15～11:45 地方教育行財政制度 (文部科学省職員)	10:30～17:00 教育法規Ⅱ 清水幹裕	13:00～15:30 研修講師となるための知識技術	13:00～17:00 ★道徳教育 押谷由夫			
午前2 10:30～11:45		13:00～15:30 教育法規Ⅰ 伊勢呂裕史						
午後1 13:00～14:15								
午後2 14:15～15:30								
午後3 15:45～17:00			15:45～17:00 演習打合せ	15:45～17:00 実践研究				
第2週	9月11日(月)	9月12日(火)	9月13日(水)	9月14日(木)	9月15日(金)	9月16日(土)	9月17日(日)	
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修	
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 ★生徒指導上の課題 菅野 純	9:15～11:45 生徒指導上の課題 玉井邦夫	9:15～15:30 カリキュラム マネジメント 児島邦宏	9:15～11:45 危機管理 上地安昭	9:15～17:00 危機管理 石川慶子			
午前2 10:30～11:45								
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導上の課題 國分康孝		13:00～17:00 危機管理 石川慶子				
午後2 14:15～15:30								
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究					
第3週	9月18日(月)	9月19日(火)	9月20日(水)	9月21日(木)	9月22日(金)	9月23日(土)	9月24日(日)	
8:30～9:00	自由研修	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修	
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 ★総合的な学習の時間 嶋野道弘	9:15～15:30 特色ある カリキュラム編成 (選択)	9:15～15:30 学習指導と評価 北俊夫	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産能大			
午前2 10:30～11:45			情報教育:鈴木敏恵 ボランティア教育:長沼豊 健康教育:西岡伸紀 環境教育:市田則孝					
午後1 13:00～14:15								
午後2 14:15～15:30								
午後3 15:45～17:00			15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第4週	9月25日(月)	9月26日(火)	9月27日(水)	9月28日(木)	9月29日(金)			
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	研修講師となるための 知識・技術 閉講		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 キャリア教育 三村隆男	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習			
午前2 10:30～11:45		11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～11:15 閉講			
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 中井滋	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習				
午後2 14:15～15:30		14:45～15:45 学校管理運営演習	14:45～15:45 学校管理運営演習	14:15～15:30 学校管理運営演習				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	16:00～17:00 学校管理運営演習	16:00～17:00 学校管理運営演習	15:45～17:00 学校管理運営演習				
				15:45～17:00 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)				

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第4回中堅教員研修)					
担当課係	研修企画課 調査係					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	中学校教員					
開催期日	平成18年10月16日(月)～平成18年11月10日(金)	26日間				
受講人数	計画人数	180人	受講者数	153人	参加率	85.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	132 87.4	19 12.6	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・良く練られたプログラムで感心しました。自ら体験することで研修会や授業でも活用できる知識や技法が身に付きました。

・講義内容に基づいて各自が課題を挙げたり解決策を練ったりしたものを、グループで再討議し講師から評価・改善の視点を頂けるという演習システムは大変良かった。

・有効に機能していると感じます。交流の前後に、個人で取り組む時間をもう少し確保できるとより効果的かと感じました。

・班で活動できたのはとても良かった。ずっと共に活動するので安定感(安心感)のようなものがあった。

・演習形式を取り入れることでとても実践的な研修だと感じました。

・5週間の内容を4週間でという話でしたが、これだけ素晴らしい内容なので期間は長い方が良いと思います。

・演習の中でこれからの運営についてはワークショップ型の研修を始め、BS法からKJ法を通して、多くの要望、検討材料をうまく引き出すことの重要性を感じ、実際に取り組んでみたいと思った。

・すごく勉強になりました。事前にもう少し学習しておけば良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

・研修日程の短縮化(30日→25日)

・研修内容を5つの大きなカテゴリ(①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント)に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第4回中堅教員研修講座(第296回)

中学校教諭

平成18年10月16日(月)～平成18年11月10日(金)

第1週	10月16日(月)	10月17日(火)	10月18日(水)	10月19日(木)	10月20日(金)	10月21日(土)	10月22日(日)
8:30～9:00	9:30～受付 10:00～12:00 オリエンテーション 13:15～13:35 開講式 13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員) 15:30～17:00 オリエンテーション	8:30～9:45 オリエンテーション	8:30～9:15 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		10:00～11:45 地方教育行財政制度 宮腰英一	9:30～10:15 演習打合せ	9:15～11:45 ★国際理解教育 森本 敏	9:15～11:45 ★カリキュラム マネジメント 児島邦宏		
午前2 10:30～11:45		13:00～15:30 教育法規 I 伊勢呂裕史	10:30～17:00 教育法規 II 松崎 勝	13:00～15:30 研修講師となるための 知識技術			
午後1 13:00～14:15		15:45～17:00 演習打合せ		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							
第2週	10月23日(月)	10月24日(火)	10月25日(水)	10月26日(木)	10月27日(金)	10月28日(土)	10月29日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 総合的な学習の時間 村川雅弘	9:15～11:45 生徒指導上の課題 河村茂雄	9:15～11:45 キャリア教育 竹内登喜夫	9:15～11:45 危機管理 新福知子	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45		13:00～15:30 生徒指導上の課題 濱上公彦	13:00～17:00 道徳教育 横山利弘	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後1 13:00～14:15	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究					
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							
第3週	10月30日(月)	10月31日(火)	11月1日(水)	11月2日(木)	11月3日(金)	11月4日(土)	11月5日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導上の課題 金澤純三	9:15～15:30 特色ある カリキュラム編成 (選択) 情報教育:浅井宗海 ボランティア教育:池田幸也 健康教育:川畑徹朗 環境教育:三島次郎	9:15～15:30 ★学習指導と評価 清水静海	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産能大			
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							
第4週	11月6日(月)	11月7日(火)	11月8日(水)	11月9日(木)	11月10日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	研修講師となるための 知識・技術 閉講	
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 森 実	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習		
午前2 10:30～11:45	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～11:15 閉講		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 佐々木和義	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習			
午後2 14:15～15:30		14:45～15:45 学校管理運営演習	14:45～15:45 学校管理運営演習	14:15～15:30 学校管理運営演習			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	16:00～17:00 学校管理運営演習	16:00～17:00 学校管理運営演習	15:45～17:00 学校管理運営演習			
				15:45～17:00 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)			

I 研修概要

研修名	各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修 (第5回中堅教員研修)					
担当課係	研修企画課 調査係					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	小学校教務主任、中学校教務主任、高等学校教務主任					
開催期日	平成18年11月20日(月)～平成18年12月15日(金)	26日間				
受講人数	計画人数	300人	受講者数	240人	参加率	80.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答				
人数(人)	割合(%)	222	93.7	15	6.3	0	0.0	0	0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議によって、いろいろな物の見方や考え方があること、また各学校の取り組みの様子や自校との違いが分かりとても良かった。悩みや願いは全国どの学校も先生方も同じであることが分かったことが一番の収穫だった。 ・演習形式だと課題を自らのものとして受け止め、主体的に取り組むことができとても有意義でした。 ・研修に参加するまでは大きな不安を抱えていた。しかし、講師の先生方の丁寧な指導のためスムーズに入っていくことができた。研修全体の計画も周到に考えられていることが分かった。 ・県内の研修会ではできない内容のもの(模擬記者会見等)や、あまり計画されないものの演習等はとても値打ちがあった。著名な講師の講義も良かった。 ・講義、演習、まとめの講義の流れは良かったと思う。 ・講義と演習のバランスが考えられていて、適度の緊張感の中で研修ができた。 ・演習中心の研修が多くあり、とても良かったと思います。 ・演習の中で各校の、あるいは各教務主任の実践の内容・願い等に触れ、協議・報告の上でアドバイスを頂くことができ大変勉強になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修日程の短縮化(30日→25日) ・研修内容を5つの大きなカテゴリー(①リーガルマインド・コンプライアンス、②カリキュラムマネジメント、③危機管理、④喫緊の教育課題、⑤学校組織マネジメント)に分類し、学びやすいカリキュラム配置とした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修日程表

第5回中堅教員研修(第297回)

(教務主任)小学校・中学校・高校教諭

平成18年11月20日(月)～平成18年12月15日(金)

第1週	11月20日(月)	11月21日(火)	11月22日(水)	11月23日(木)	11月24日(金)	11月25日(土)	11月26日(日)
8:30～9:00	9:30～受付	8:30～9:45 オリエンテーション	8:30～9:15 オリエンテーション③	自由研修	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		10:00～11:45 地方教育行財政制度 窪田真二	9:30～10:15 演習打合せ②		9:15～11:45 国際理解教育 平野次郎		
午前2 10:30～11:45		13:15～13:35 開講式	10:30～17:00 教育法規Ⅱ 清水幹裕		13:00～15:30 研修講師となるための知識技術		
午後1 13:00～14:15		13:40～14:40 ★教育改革の推進 (文部科学省職員)	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 菱村幸彦		15:45～17:00 演習打合せ		
午後2 14:15～15:30		15:30～17:00 オリエンテーション					
午後3 15:45～17:00							
第2週	11月27日(月)	11月28日(火)	11月29日(水)	11月30日(木)	12月1日(金)	12月2日(土)	12月3日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導上の課題 丸山隆	9:15～11:45 ★生徒指導上の課題 河村茂雄	9:15～11:45 高校:道徳教育 七條正典 小中:キャリア教育 三村隆男	9:15～11:45 ★危機管理 上地安昭	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導上の課題 小:玉井邦夫 中:高:石橋昭良	13:00～17:00 小中:道徳教育 小寺正一 高校:キャリア教育 鹿嶋研之助	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究					
第3週	12月4日(月)	12月5日(火)	12月6日(水)	12月7日(木)	12月8日(金)	12月9日(土)	12月10日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラム マネジメント 小・中:天笠 茂 高:蛭田政弘	9:15～15:30 総合的な学習の時間 小中:吉崎静夫 高:角屋重樹	9:15～15:30 特色ある カリキュラム編成 (選択) ★情報教育:鈴木克明 ボランティア教育:興裕 寛 健康教育:野津有司 環境教育:サンガ	9:15～15:30 学習指導と評価 小・中:北 俊夫 高:二井正浩	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産能大		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第4週	12月11日(月)	12月12日(火)	12月13日(水)	12月14日(木)	12月15日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	研修講師となるための知識・技術 閉講	
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 梅野正信	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習	9:45～10:45 学校管理運営演習		
午前2 10:30～11:45		11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～12:00 学校管理運営演習	11:00～11:15 閉講		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 中井 滋	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習	13:30～14:30 学校管理運営演習			
午後2 14:15～15:30		14:45～15:45 学校管理運営演習	14:45～15:45 学校管理運営演習	14:15～15:30 学校管理運営演習			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	16:00～17:00 学校管理運営演習	16:00～17:00 学校管理運営演習	15:45～17:00 学校管理運営演習			
				15:45～17:00 地方教育行政制度の改善 (文部科学省職員)			

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立高等学校）							
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研 修 目 的	学校管理運営、教育課題等に関する高度・専門的な知識を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受 講 対 象	高等学校及び特殊教育諸学校の事務長及び同等の事務職員で、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な者として期待される者							
開 催 期 日	平成18年10月 2日（月）～平成18年10月 6日（金）				5 日間			
受 講 人 数	計画人数	180	人	受講者数	166	人	参加率	92.2%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	70	83	6	0	5
		44.0	52.2	3.8	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・管理職として学ばなければならないことや、方策を立てる際の考え方の方向性が見えてきて、有意義だった。 ・互いの課題を話し合い、情報交換をできたことが有意義だった。 ・課題協議の進め方を明確にして欲しかった。 ・今後の仕事に生かしたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の実施状況を踏まえた講師との事前打合せにより、学校組織マネジメント演習を事務長にわかりやすい内容とすることができた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立高等学校）日程表

10月2日 (月)	13:00	13:30	13:40	14:00	15:40	16:00	16:30	17:00
	受付	開会式	オリエンテーション	講義・演習① 「教育改革の流れと取り組み」 文部科学省 初等中等教育局 合田 隆史 審議官	休憩	課題協議の進め方について	課題協議① 自校の取組	
会場	教員研修センター（つくば） 第2研修棟2階							

10月3日 (火)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:00	14:15	15:40	17:00
	受付	講義・演習② 信頼される開かれた学校づくり 東京都立つばさ総合高等学校 校長 山上 隆男	休憩	講義・演習③ 「学校評価と運営の改善」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 学校評価室長 岸本 哲哉	昼食	講義・演習④ 「特別支援教育の推進・支援体制整備について」 文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特殊教育調査官 丹羽登	休憩	課題協議② 「学校運営の課題と改善策等について」 事例発表 東京都大江戸高等学校 校長 小久保 正己 岐阜県立岐阜商業高等学校 校長 小川 信幸 東京都立文京盲学校 校長 澤田 晋 ※事例発表を踏まえての協議	
会場	教員研修センター（つくば） 第2研修棟2階				第2研修棟2階・プレゼンテーションルーム				

10月4日 (水)	9:00	12:00	13:00	17:00
	受付	講義・演習⑤-1 「学校組織マネジメント」 国立教育政策研究所 研究員 加藤 崇英 全国公立高等学校事務職員協会	昼食	講義・演習⑤-2 「学校組織マネジメント」 国立教育政策研究所 研究員 加藤 崇英 全国公立高等学校事務職員協会
会場	教員研修センター（つくば） 第2研修棟2階			

10月5日 (木)	9:00	11:00	11:15	12:00	13:00	17:00
	受付	講義・演習⑥ 「学校における危機管理」 パームコンサルティンググループ 代表 伊原 正俊	休憩	課題協議③-1 特色ある学校の運営を支える事務長の役割	昼食	課題協議③-2 特色ある学校の運営を支える事務長の役割
会場	教員研修センター（つくば） 第2研修棟2階					

10月6日 (金)	9:00	11:15	11:30	12:00
	受付	課題協議発表 特色ある学校の運営を支える事務長の役割	休憩	演習② 「研修を生かした学校運営の充実を図る方策」
会場	教員研修センター（つくば） 研修棟1・2階<全教室>		第2研修棟2階	

※課題協議については、原則として以下に分かれて実施

1. 特色ある学校の運営（普通科）
2. 特色ある学校の運営（専門学科）
3. 特色ある学校の運営（総合学科）
4. 特色ある学校の運営（特殊教育諸学校）

I 研修概要

研 修 名	各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立小・中学校）					
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係					
研 修 目 的	学校管理運営、教育課題等に関する高度・専門的な知識等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。					
受 講 対 象	小学校及び中学校の幹部事務職員で、原則として学校事務職員の経験が20年以上の者で、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な者として期待される者					
開 催 期 日	平成19年 1月29日（月）～平成19年 2月 2日（金）			5日間		
受 講 人 数	計画人数	180 人	受講者数	178 人	参加率	98.9%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	112 64.0	63 36.0	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・自校の取組み等への関心が強まり、学校運営の一員としての自覚を意識する研修となった。 ・自らの仕事に対する考え方を確認するとともに、今後に対する意欲がわく研修内容でした。 ・系統立てて企画されていて良いと感じた。 ・時間が不足しており、消化不良の部分があった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の実施状況を踏まえた講師との事前打合せにより、学校組織マネジメント演習を事務職員にわかりやすい内容とすることができた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修（公立小中学校）日程表

1 月 29日 (月)	受	12:30	13:00	13:10	14:00	15:30	15:40	17:00	17:30				
	受	受	開 講 式	テ オ リ シ ョ ン	講 義 ・ 演 習① 「教育 改革の 流れと 取組」 文部科学省 初等中等 教育局 視学官 宮崎活志	休 憩	休 講 義 ・ 演 習② 「財政 制度に ついて」 文部科学 省初等 中等教 育局 企画官 杉浦久 弘	資料 交換 会					
会 場 独立行政法人教員研修センター（つくば本部）					講 堂								
1 月 30日 (火)	受	8:30	10:00	10:10	11:40	12:40	13:40	13:50	14:30	15:10	15:50	16:00	17:00
	付	課題協議① 「自校紹介～ 運営の状況 ほか～」	休 憩	講 義 ・ 演 習③ 「特別 支援教 育の推 進・支 援体制 整備に ついて」 文部科学 省初等 中等教 育局 特別支 援教育 課 特別支 援教育 調査官 樋口一 宗	昼 休 食 憩	講 義 ・ 演 習④ 「学校 評価と 運営の 改善」 文部科学 省初等 中等教 育局 初等中 等教育 企画課 学校評 価室長 岸本哲 哉	休 憩	実 践 事 例 発 表 「これ からの 教育改 革と学 校運営」 ①特別 支援教 育の体 制の整 備 ②学校 評価の 運営 ③学校 の安全 管理	町田市立 山崎小 学校 校長 廣瀬由 美子 杉並区 立松溪 中学 校長 石井良 典 大阪教 育大学 附属 池田小 学校 副校長 津田一 司	休 憩	研 究 協 議 「これ からの 教育改 革と学 校運営」		
会 場 研修棟1.2階・第二研修棟1.2階			講 堂			講 堂			研修棟1.2階・第二研修棟1.2階				
1 月 31日 (水)	受	8:30	10:00	10:10	11:30	12:30	17:00						
	付	講 義 ・ 演 習⑤- 1 「学校 組織マ ネジメ ント」 講 義⑤-1 国立教 育政策 研究所 研究員 加藤崇 英	休 憩	演 習⑤-1	昼 休 食 憩	講 義 ・ 演 習⑤- 2 「学校 組織マ ネジメ ント」 講 義⑤-2 国立教 育政策 研究所 研究員 加藤崇 英	演 習⑤-2	講 義⑤-2 国立教 育政策 研究所 研究員 加藤崇 英					
会 場 第二研修棟2階													
2 月 1日 (木)	受	8:30	11:30	12:30	17:00								
	付	講 義 ・ 演 習⑥ 「学校 におけ る危機 管理」 バーム コンサル ティン ググル ープ 代表 伊原正 俊	昼 休 食 憩	課 題 協 議② 「今日 の教育 改革に 対する 自校の 取組を 支える 学校事 務職員 の役割」									
会 場 講 堂			研修棟1.2階・第二研修棟1.2階										
2 月 2日 (金)	受	8:30	9:00	10:25	10:35	11:15	12:00						
	付	自由 研究	課 題 協 議 発 表 「特色 ある学 校の運 営を支 える学 校事務 職員の 役割」 9:25 Aグループ 9:30 移動 9:55 Bグループ 10:00 移動 Cグループ	休 憩	演 習 「研修 を生か した学 校運営 の充実 を図る 方策」	閉 講 式							
会 場 研修棟1.2階・第二研修棟1.2階			講 堂										

I 研修概要

研修名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (16日以内コース)								
担当課係	基幹研修事業課 研修第二係								
研修目的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。								
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。								
開催期日	別紙のとおり			16日					
受講人数	計画人数	510	人	受講者数	563	人	参加率	110.4%	
開催場所	別紙のとおり								

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答				
人数(人)	割合(%)	435	82.2	93	17.6	1	0.2	0	0.0	11

2. 研修内容に関する主な意見

・学校訪問数が多く、様々な授業、施設を見られたのはよかったが、一つの学校を登校時から下校時まで、じっくりと見ることもしたかった。
 ・訪問校の校種のバランスを参加者の校種に合わせて欲しかった。
 ・訪問先機関での質疑は、教育全般になりがちで専門的な質問をする時間が確保しにくかった。参加者の専門について深く研修できるようなプログラムがあると更によかった。
 ・ホームビジット(家庭滞在)を行い、現地の家庭での子どもの様子を知ることができ、有意義であった。

III 研修内容・方法の見直し等

・訪問先学校の一般教員との意見交換の時間を十分に確保した。
 ・研修テーマに応じ、一都市のみに滞在し研修を実施する、二都市を訪問し比較しながら研修を実施するなど、研修形態の多様化を図った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための
海外派遣研修（16日以内コース） ブロック団 一覧表

ブロック	団名	地域	研修国	研修都市	研修者数	出発日	帰国日	
A (北海道、東北)	A1-11Y	欧州	フィンランド	ヘルシンキ	25	11月24日(金)	12月9日(土)	
	B1-09A	アジア	ベトナム	フエ	17	9月28日(木)	10月13日(金)	
	B2-10Y	欧州	イタリア	シエナ、ミラノ	21	10月6日(金)	10月21日(土)	
	B3-10U	北米	米国	ミネアポリス	17	10月19日(木)	11月3日(金)	
	B (関東)	B4-10C	北米	カナダ	キングストン	20	10月26日(木)	11月10日(金)
		B5-10O	オセアニア	ニュージーランド	ネピア	18	10月26日(木)	11月10日(金)
		B6-11Y	欧州	フィンランド	タンペレ	20	11月7日(火)	11月22日(水)
		B7-11U	北米	米国	シアトル	17	11月10日(金)	11月25日(土)
B8-11Y	欧州	スペイン	バルセロナ	19	11月16日(木)	12月1日(金)		
D (東海)	D1-09O	オセアニア	オーストラリア	パース	20	9月5日(火)	9月20日(水)	
	D2-10Y	欧州	オランダ、ベルギー	マーストリヒト、ブリュッセル	21	10月9日(月)	10月24日(火)	
	D3-10O	オセアニア	オーストラリア	サンシャインコースト	21	10月13日(金)	10月28日(土)	
	D4-10U	北米	米国	モンゴメリカウンティ	19	10月25日(水)	11月9日(木)	
	D5-11Y	欧州	スペイン	シウダレアル	19	11月2日(木)	11月17日(金)	
	D6-11Y	欧州	ポルトガル	リスボン、ナザレ、ポルト	19	11月7日(火)	11月22日(水)	
	D7-11U	北米	米国	セーラム	19	11月10日(金)	11月25日(土)	
E (近畿)	E1-09Y	欧州	イギリス	サウザンプトン	18	9月25日(月)	10月10日(火)	
	E2-10C	北米	カナダ	オシャワ	18	10月13日(金)	10月28日(土)	
	E3-10U	北米	米国	サンノゼ	17	10月26日(木)	11月10日(金)	
	E4-11U	北米	米国	レキシントン、ケンブリッジ	17	11月1日(水)	11月16日(木)	
	E5-11Y	欧州	ドイツ	シュベリン、ハンブルグ	20	11月10日(金)	11月25日(土)	
F (四国)	F1-10C	北米	カナダ	バンクーバー	24	10月25日(水)	11月9日(木)	
	F2-11Y	欧州	ドイツ	レーゲンスブルク	29	11月9日(木)	11月24日(金)	
	F3-09Y	欧州	フィンランド	エスポー	24	9月28日(木)	10月13日(金)	
G (中国、九州)	G1-10O	オセアニア	ニュージーランド	ロトルア、オークランド	23	10月27日(金)	11月11日(土)	
	G2-11U	北米	米国	サンディエゴ	18	11月8日(水)	11月23日(木)	
	G3-11Y	欧州	イタリア	ペローナ、フィレンツェ	20	11月9日(木)	11月24日(金)	
	G4-11Y	欧州	ドイツ	ヴュルツブルク	23	11月9日(木)	11月24日(金)	
	全ブロック数				563			

I 研修概要

研 修 名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (3か月以内コース：留学コース(2か月))							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第二係							
研 修 目 的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり				2ヶ月			
受 講 人 数	計画人数	49	人	受講者数	58	人	参加率	118.4%
開 催 場 所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数(人)	割合(%)	38	69.1	17	30.9	0	0.0	0	0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・熱意のある講師陣でとても良かった。反面、全ての要望に応えようとして個々の内容が若干中途半端になってしまった感がある。 ・短期の研修なので、即実践に生かせる内容の研修があってもよいと感じた。 ・中学と高校とで講義を分けた方が良い内容もあった。 ・日本の現状に合う内容が研究され、提供されたと思う。用意された資料等も優れており、充実した研修であった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修開始を1週間程度早め、派遣先大学のプログラムにおいて一連の研修課程に参加することを可能とした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 国際的な視野, 識見を有する中核的教員を育成
 するための海外派遣研修(3ヶ月以内コース・留学コース)
 派遣団一覧

派遣国	大 学	経費 人数	派 遣 期 間
イギリス	エクセター大学	12	7月8日(土)～ 9月4日(月)
アメリカ	ワシントン大学	12	7月22日(土)～ 9月18日(月)
	デンバー大学	12	7月25日(日)～ 9月21日(火)
オーストラリア	ラ・トローブ大学	12	7月21日(金)～ 9月17日(日)
ニュージーランド	マッセー大学	10	7月21日(金)～ 9月17日(日)
計		58	

I 研修概要

研 修 名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (3か月以内コース：一般コース(3か月))							
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第二係							
研 修 目 的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる25歳以上、35歳以下の者とする。							
開 催 期 日	別紙のとおり					3ヶ月		
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	25	人	参加率	83.3%
開 催 場 所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	23	2	0	0	0
		92.0	8.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の受け入れ姿勢に大変熱意が感じられ、コンセプトも一貫しており、このプログラムの重要性を実感できた。 ・10月と11月の学校研修の間に中間評価があり、実践と検証を通して体験的に学ぶことができた。 ・大規模校と小規模校異なった環境の学校で研修を経験できたのがとても良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修先の学校での授業実践時間数の増加を図った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成
 するための海外派遣研修（3ヶ月以内コース・一般コース）
 派遣団一覧

団名		人数	派遣期間
WI	米国：ウイスコンシン州団	8	平成18年9月20日 ～12月18日
OH	米国：オハイオ州団	8	平成18年9月18日 ～12月16日
SA	オーストラリア：南オーストラリア州団	9	平成18年9月25日 ～12月23日
計		25	

I 研修概要

研修名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (6か月以内コース)							
担当課係	基幹研修事業課 研修第二係							
研修目的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる50歳以下の者とする。							
開催期日	別紙のとおり				6ヶ月			
受講人数	計画人数	26	人	受講者数	27	人	参加率	103.8%
開催場所	別紙のとおり							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答				
人数(人)	割合(%)	23	88.5	3	11.5	0	0.0	0	0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・教授陣、講師陣の教え方は素晴らしいが、資料の中に若干古いものがあった。 ・プロジェクトの作成は非常に勉強になったが、それに費やされる時間が多く、もう少し負担の軽減をするなど再考の余地があるのではと考えた。 ・学校訪問において、訪問先校の教員と意見交換をする時間がもう少し多いとよかった。 ・教授法に関する研修の内容は申し分ないが、日本人のみの授業であった。他国の学生と講義を受ける時間があってもよかったのでは。 ・前半の語学研修の内容が、後半の英語教授法の研修を受ける際に非常に役立った。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・前半の語学研修において、一般的な語学力向上の内容に加え、学術論文の読解・作成、教育専門用語など、後半で行う英語教授法研修のための専門的な研修内容を取り入れた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 国際的な視野, 識見を有する中核的教員を育成
 するための海外派遣研修(6ヶ月以内コース)
 派遣団一覧

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所(大学)	人数	派遣期間
イギリス	エセックス大学	ベルランゲッジスクール ホウソープホールノルッチ	5	6月15日(木)～ 12月14日(木)
		ベルランゲッジスクール サロンウォルデン	4	
	ノッティンガム大学	スクールオブイングリッシュ スタディーズフォルクストン	5	6月8日(木)～ 11月29日(水)
		レジエントオックスフォード	4	
カナダ	オタワ大学	トロント大学	4	6月22日(木)～ 12月14日(木)
		ヨーク大学	5	
計			27	

I 研修概要

研修名	国際的な視野、識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修 (12か月以内コース)					
担当課係	基幹研修事業課 研修第二係					
研修目的	各地域の中核的な教員等を諸外国に派遣し、派遣先国の教育関係機関・学校現場及び大学・研究機関等において、各国の教育行財政制度と教育改革の動向、学校の管理運営システム、学習指導・生徒指導の改善・充実、環境教育、国際理解教育等の各種教育課題への実践的取り組みを理解・実体験することを通じ、国際的視野に立った識見の獲得、当該教員の実践的指導能力の向上、さらにはそれらの他の教員等への波及を図り、もって我が国の教育改革、学校改革の推進に資する。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特殊教育諸学校等の教員等で、優れた調査研究課題を有し、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適應できる50歳以下の者とする。					
開催期日	別紙のとおり			12ヶ月		
受講人数	計画人数	2人	受講者数	3人	参加率	150.0%
開催場所	別紙のとおり					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・受入先の体制が整っており、非常に満足しました。

III 研修内容・方法の見直し等

・語学研修において、4技能（読む、書く、話す、聞く）の分野の研修のバランスを取った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 国際的な視野, 識見を有する中核的教員を育成
 するための海外派遣研修(12ヶ月以内コース)
 派遣団一覧

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間
イギリス	バーミンガム大学	3	4月25日(火)～ (H19)3月19日(月)
計		3	

I 研修概要

研修名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (中央指導者研修)							
担当課係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、「道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成18年 6月 5日（月）～平成18年 6月 9日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	220	人	受講者数	238	人	参加率	108.2%
開催場所	独立行政法人教員研修センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答				
人数(人)	割合(%)	171	75.0	57	25.0	0	0.0	0	0.0	4

2. 研修内容に関する主な意見

・文部科学省の先生方のお話や全国の実践等を聞くことができ、とても意義深い研修になりました。

・研修内容はもちろんですが、道徳教育を推進する立場の者のネットワークが図れるということは、我が国の道徳教育を推進していく上でとても大切なことだと思います。

・課題協議やシンポジウム、演習等を通して求めんとする課題をはっきりと自覚させて頂いたり、深い理解に導いて頂いたりすることができました。また、熱意あふれる調査官等の先生方のお姿に心を打たれました。

・1週間のカリキュラムの中で1コマを立場別（行政、管理職、教諭等）で課題協議や演習があってもよかった。

・高等学校における道徳教育の大切さは理解できたが、同時に導入や位置づけの難しさも再認識した。

III 研修内容・方法の見直し等

・実践活動や体験活動を通じた道徳教育について、特別活動担当の教科調査官に講師を依頼した。

・テーマ演習（演習2、3）において、班をさらに6名程度のバズグループに分け、話し合いの内容が深まるよう改善した。

・学習指導案づくりや模擬授業において、各グループの人数を減らし、話し合いの内容が深まるよう改善した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修（中央指導者研修）

日 程 表

第1日目

6月5日 (月)	10:20	10:50	12:00	13:00	14:40	14:55	16:30	16:40	17:00
	受 付	開 講 式	休 休 み	課題協議1 「道徳教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄 ◎目的：全国的な視点から道徳教育の現状と課題 について理解する	休 休 み	演習1 「道徳教育の問題点・課題」 —生命の尊重をテーマ とした教育の実践— —研修講師となるための 地域ネットワークづくり— ◎目的：生命の尊重をテーマとした教育 について課題をもつ	休 休 み		

第2日目

6月6日 (火)	9:00	10:40	10:55	12:35	14:00	17:00
	課題協議2 「実践活動や体験活動を通じた道徳 教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動等における体験活動の重要性 について理解する	休 休 み	課題協議3 「子どもが未来を拓く道徳教育」 大阪教育大学 教授 藤永芳純 ◎目的：道徳教育全般について理解を深める	休 休 み	シンポジウム 「学校、家庭、地域社会の積極的な連携による道徳教育の推進に向けて」 <コーディネーター> 八洲学園大学教授 生越詔二 <シノビスト> 大阪教育大学教授 藤永芳純 地域代表 和田真由美 川崎市立下沼部小学校長 小野寺京子 北九州市立千代中学校長 大峯一純 茨城県立岩井西高等学校教諭 石山 巖 ◎目的：学校、家庭、地域社会の連携の在り方について理解を深める	

第3日目

6月7日 (水)	9:00	12:00	13:00	16:15	16:30	17:00		
	演習2 「学校全体で取り組む道徳教育（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 <指導助言者> 1班：鳴門教育大学附属小学校副校長 大宮俊恵 4班：仙台市教育センター指導主事 佐藤郷美 7班：岡山市立旭竜小学校長 鳥越小百合 10班：東京都荒川区立諏訪台中学校長 峯川一義 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休 休 み	演習3 「道徳の授業づくりと道徳教育の評価」 2班：福岡市立田村小学校長 小楠 徹 5班：東京都教職員研修センター統括指導主事 鈴木邦夫 8班：山梨県教育委員会指導主事 菟原 桂 11班：広島県教育委員会指導主事 山田幸治	休 休 み	演習6 「学習指導 要領の趣旨 を生かした 道徳の時間 の充実への 取組」 ◎目的：演習7 の準備等を行う			
高等学校部会	9:00	10:40	10:55	12:30	13:30	15:10	15:25	17:00
高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する 教育の展開」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田増幸 ◎目的：高等学校における道徳教育とは何かを 理解する	休 休 み	演習4 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての 在り方生き方に関する教育の展開」 <指導助言者> 高1グループ：千葉科学大学講師 大谷いづみ 高2グループ：広島県教育委員会指導主事 奥田浩明 高3グループ：鳴門教育大学教授 兼松儀郎 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休 休 み	演習5 「人間としての在り方生き方に関する教育の 各教科等における具体的な教材研究・実践」 ◎目的：演習7 の準備等を行う				

第4日目

6月8日 (木)	9:00	10:40	10:55	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
	小・中学校部会協議 「学習指導要領の趣旨を生かした 道徳の時間の充実への取組」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄 ◎目的：「道徳の時間」について理解を深め、 学習指導案作成等に生かす	休 休 み	演習7 「具体的な道徳教育実践への取組方法等—道徳の時間の学習指導案の作成—」 ◎目的：「道徳の時間」の学習指導案作成と進め方等について知識・方法を得る	休 休 み	演習9 「具体的な道徳教育実践への取組方法等 —模擬授業の発表・協議—」 ※高等学校部会は小・中の模擬授業を聴講し、 協議に参加する。 (小中部会) ◎目的：作成した学習指導案等について理解し合う (高校部会) ◎目的：小中の取組例を知る			
高等学校部会	9:00	10:00	10:15	12:00	13:00			
事例発表 「高等学校における道 徳教育の充実」 <事例発表> 石川県立金沢錦丘高等 学校教諭 瀧陽一郎 ◎目的：先進校の取組を知る	休 休 み	演習8 「高等学校における人間としての在り 方生き方に関する教育の充実に向けて」 <指導助言者> 高1グループ：千葉科学大学講師 大谷いづみ 高2グループ：広島県教育委員会指導主事 奥田浩明 高3グループ：鳴門教育大学教授 兼松儀郎 ◎目的：高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を得る	休 休 み	発表・講評 「高等学校における人間としての在り 方生き方に関する教育の充実に向 けて」				

第5日目

6月9日 (金)	9:00	10:20	10:35	11:40	12:40	14:25	14:40
	課題協議4 「子どもに聴く」 京都市総合教育センター 副所長 柴原弘志 ◎目的：教育全般について視野を広げる	休 休 み	演習10 「道徳教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元 内容・方法等について課 題をもつ	休 休 み	課題協議5 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田増幸 ◎目的：道徳教育についての理解を深め、各自が 本研修の成果等をまとめる	閉 講 式	

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (北海道・東北ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者		
開 催 期 日	平成18年 8月21日 (月) ～平成18年 8月23日 (水)	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 132 人 参加率 ※
開 催 場 所	仙台エクセルホテル東急 (宮城県仙台市)		

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,130人 受講者数978人 参加率86.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	78 60.5	51 39.5	0 0.0	0 0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・改めて道徳教育の意義と重要性を認識しました。研修者に考えさせる部分が多い内容となっており、自分の取り組み、役割を見つめ直す機会となりました。 ・小グループ化での話し合いは、密な話し合いになりやすく、自分たちで自ずと課題とそれをどうしたらよいかという方向が見えてきやすかった。 ・演習形式はそれなりの意味ある形式ではあるが、限られた時間なので、もっとテーマを絞る必要があると思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・部会別演習の司会を開催教育委員会が担当し、小グループでの話し合い内容の発表後、協議が深められるよう改善した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 道德教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修(北海道・東北ブロック)

日 程 表

第1日目

8月21日 (月)	10:00		11:00	12:30	13:40	15:15	15:30	17:00
	受 付	開講式	課題協議 1 「道德教育の現状と課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田繁雄 ◎目的：全国的な視点から道德教育の現状と課題について理解する	昼 休 み	演習 1 「道德教育の問題点・課題 ー生命をテーマとした道德教育の実践ー」 ◎目的：生命の尊重をテーマとした教育について課題をもつ	休 憩	課題協議 2 「児童生徒の心に響く道德教育の展開」 香川大学教授 七條正典 ◎目的：道德教育全般について理解を深める	

第2日目

8月22日 (火)	小・中部会	9:00	12:30	13:40	15:25	15:40	17:00	
		協議 1 「中央研修で学んだこと」 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習 2 「学校全体で取り組む道德教育（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 休 憩	昼 休 み	演習 3 「道德教育の授業づくりと道德教育の評価」 休 憩	発表・協議		
高部会	9:00	15:45	16:00	17:00				
	協議 1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」 休 憩	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (事例発表者) 石川県立金沢錦丘高校教諭 瀧陽一郎	昼 休 み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開による道德教育の充実」 休 憩	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の教材研究の進め方と具体的な実践について」 休 憩	発表	協議 2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	
(講師・指導助言者) 千葉科学大学講師 大谷いつみ								
◎目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る								

第3日目

8月23日 (水)	9:00	10:00	10:15	12:00	12:15			
	演習 4 「道德教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ	休 憩	課題協議 3 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課 教科調査官 谷田増幸 ◎目的：道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式				

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (関東・甲信越ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者		
開 催 期 日	平成18年 8月23日 (水) ~平成18年 8月25日 (金)	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 235 人 参加率 ※
開 催 場 所	三井ガーデンホテル千葉 (千葉県千葉市)		

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,130人 受講者数978人 参加率86.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	136 59.6	90 39.5	2 0.9	0 0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

・各地域によって、学校、子どもの姿は異なる。その実態や課題に応じて、どう道徳教育を取り組むのかという点が特に参考になった。
 ・講演、協議とも、学ぶことが非常に多かった。道徳教育に熱意を持って取り組んでいる先生方の気持ちに触れ、私の中にも何か熱いものがこみ上げてきたことが何よりの収穫です。
 ・特別活動や各教科等との有機的な関連のあり方について、方向性を見出すことができた。
 ・高校にとって、道徳の授業を実施することに対し、まだ体系化されていないことが理解できたとともに道徳の授業の必要性も感じられた。
 ・経験年数や道徳への取り組みにかなり差がありました。よい面もありますが、経験豊かな人たちにとってはもの足りなさがあったのではないかと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

・部会別演習の司会を開催教育委員会が担当し、小グループでの話し合い内容の発表後、協議が深められるよう改善した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修(関東・甲信越ブロック)

日 程 表

第1日目

8月23日 (水)		10:00	11:00	12:30	13:40	15:15	15:30	17:00
	受 付	開講式	課題協議 1 「道徳教育の現状と課題」 関西学院大学教授 横山利弘 ◎目的：全国的な視点から道徳教育の現状と課題について理解する	昼 休 み	演習 1 「道徳教育の問題点・課題 -生命をテーマとした道徳教育の実践-」 ◎目的：生命の尊重をテーマとした教育について課題をもつ	休 憩	課題協議 2 「実践活動や体験活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動等における体験活動の重要性について理解する。	

第2日目

8月24日 (木)	小・中部会	9:00		12:30	13:40			17:00
		協議 1 「中央研修で学んだこと」 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休 憩	演習 2 「学校全体で取り組む道徳教育（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 昼 休 み	演習 3 「道徳教育の授業づくりと道徳教育の評価」 休 憩	発表・協議		
高部会	9:00	10:30	10:45	12:00	13:10	15:45	16:00	17:00
	協議 1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」 ◎目的：高等学校における道徳教育とは何かを理解するとともに、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休 憩	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 茨城県立岩井西高等学校 教諭 石山巖、曳埜伸 (講師・指導助言者) 鳴門教育大学教授 兼松儀郎	昼 休 み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 休 憩	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 発表	休 憩	協議 2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」

第3日目

8月25日 (金)		9:00	10:00	10:15	12:00	12:15	
		演習 4 「道徳教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ	休 憩	課題協議 3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 永田繁雄 ◎目的：道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式		

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (東海・北陸ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者		
開 催 期 日	平成18年 8月 7日 (月) ～平成18年 8月 9日 (水)	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 178 人 参加率 ※
開 催 場 所	ルブラ王山(愛知県名古屋市)		

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,130人 受講者数978人 参加率86.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	64 37.4	106 62.0	1 0.6	0 0.0	6

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の推進にあたっての中央での流れ、その方向等、また、現在の課題、そして各校で行われている体験と結びつけてのすばらしい道徳授業の実践、何より各地で多くの先生方が意欲的に使命感・情熱を持ってその実践や推進にあたられている様子等をうかがうことができ大変有意義なものとなりました。 ・文部科学省の最新の情報を得ることができた。県外の幅広い実践を聴き、話し合うことができ大変有意義でした。 ・道徳教育の大切さをあらためて感じられた。それを学校にもち帰って、実践へと結び付けていかなければならないという使命感も生まれ有意義であった。 ・高校における在り方、生き方の授業で計画性を持ち、組織的に実施していかねばならないこと、それには教職員の意識改革を図り、教育課程の編成を再編し実施していく必要がある。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・部会別演習の司会を開催教育委員会が担当し、小グループでの話し合い内容の発表後、協議が深められるよう改善した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 道德教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修(東海・北陸ブロック)

日 程 表

第1日目

8 月 7 日 (月)		10:00	11:00	12:30	13:40	15:15	15:30	17:00
	受 付	開講式	課題協議 1 「道德教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 谷田増幸 ◎目的：全国的な視点から道德教育の現状と課題について理解する	昼 休 み	演習 1 「道德教育の問題点・課題 －生命をテーマとした道德教育の実践－」 ◎目的：生命の尊重をテーマとした教育について課題をもつ	休 憩	課題協議 2 「『つながり』に焦点を当てて道德教育を考え直す」 麗澤大学教授 岩佐信道 ◎目的：道德教育全般について理解を深める	

第2日目

8 月 8 日 (火)	小・中部会	9:00	9:30	9:45	12:30	13:40	15:25	15:40	17:00	
		協議 1 「中央研修で学んだこと」 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休 憩	演習 2 「学校全体で取り組む道德教育（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」	昼 休 み	演習 3 「道德教育の授業づくりと道德教育の評価」	休 憩	発表・協議		
高部会	9:00	10:30	10:40	11:40	12:50		15:45	16:00	17:00	
	協議 1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	休 憩	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (事例発表者) 石川県立金沢錦丘高校教諭 瀧陽一郎	昼 休 み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	休 憩	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表	休 憩	協議 2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」
(講師・指導助言者) 鳴門教育大学教授 兼松儀郎										
◎目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る										

第3日目

8 月 9 日 (水)		9:00	10:00	10:15	12:00	12:15	
		演習 4 「道德教育の充実に 向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ	休 憩	課題協議 3 「研修講師となるために」 昭和女子大学教授 押谷由夫 ◎目的：道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式		

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (近畿・中国ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者		
開 催 期 日	平成18年 8月 8日 (火) ~平成18年 8月10日 (木)	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 195 人 参加率 ※
開 催 場 所	メルパルク広島(広島県広島市)		

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,130人 受講者数978人 参加率86.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	89 48.4	94 51.1	1 0.5	0 0.0	10

2. 研修内容に関する主な意見

・すばらしい講師陣、適切な指導助言、自分の教育実践を見つめ直さざるを得ない講話、さらには今後の実践意欲をかき立てる実践発表等どれをとっても最高であったと思います。この研修で得たことを自分のものとし地域にしっかりと広めたい。
 ・道徳教育に対する熱い思いを持っておられる先生方と共にグループ演習を通して語り合うことができ、自分自身をふり返り、道徳教育に対する思いを高めることができた。
 ・いろんな立場の方がいらっしやっただので、多用な考えを伺うことができた。他府県との方の交流ができ、皆さんの熱い思いを感じることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

・部会別演習の司会を開催教育委員会が担当し、小グループでの話し合い内容の発表後、協議が深められるよう改善した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 道德教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修(近畿・中国ブロック)

日 程 表

第1日目

8月8日 (火)	10:00		11:00		12:30		13:40		15:15		15:30		17:00	
	受 付	開講式	課題協議 1 「道德教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 永田繁雄 ◎目的：全国的な視点から道德教育の現状と課題について理解する			昼 休 み	演習 1 「道德教育の問題点・課題 －生命をテーマとした道德教育の実践－ ◎目的：生命の尊重をテーマとした教育について課題をもつ			休 憩	課題協議 2 「豊かな心とその教育」 淑徳大学名誉教授 新宮弘識 ◎目的：道德教育全般について理解を深める			

第2日目

8月9日 (水)	小・中部会	9:00		9:30		9:45		12:00		13:10		13:50		15:30		15:45		17:00	
		協議 1 「中央研修で学んだこと」		休 憩	演習 2 「学校全体で取り組む道德教育（体験活動「心のノート」の生かし方も含めて）」			昼 休 み	事例発表 「心に響く道德の時間を狙って」		演習 3 「道德教育の授業づくりと道德教育の評価」			休 憩	発表・協議				
◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る																			
高部会	9:00		10:30		10:45		12:00		13:10		15:45		16:00		17:00				
	協議 1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」		休 憩	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 広島県立松永高等学校 教諭 前田里佳			昼 休 み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」		休 憩	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」		発表	休 憩	協議 2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」				
(講師・指導助言者) 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 谷田増幸 ◎目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る																			

第3日目

8月10日 (木)	9:00		10:00		10:15		12:00		12:15	
	演習 4 「道德教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ		休 憩	課題協議 3 「研修講師となるために」 関西学院大学教授 横山利弘 ◎目的：道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる			閉 講 式			

I 研修概要

研 修 名	道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修 (ブロック別指導者研修) (四国・九州ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研 修 目 的	道徳教育を推進する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者		
開 催 期 日	平成18年 8月 8日 (火) ~平成18年 8月10日 (木)	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 238 人 参加率 ※
開 催 場 所	福岡リーセントホテル(福岡県福岡市)		

※ブロック別指導者研修： 計画人数1,130人 受講者数978人 参加率86.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	120 54.8	98 44.7	1 0.5	0 0.0	8

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生方の話がどれも大変わかりやすく心にひびきました。 ・実践を持ちよったことと、グループ協議が同じメンバーだったことで、いろいろな課題や悩みをより具体的に話せたことが、とてもよかったと思います。 ・本研修を通して、人間としての在り方生き方に関する教育という観点から、日常における学校での教育活動について見直すことができた。研修のあり方として、事前の課題の提出や演習などでは問題意識と緊張感をもって参加したおかげで、非常に研修が深められた。多くの先生方と出会えてよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・部会別演習の司会を開催教育委員会が担当し、小グループでの話し合い内容の発表後、協議が深められるよう改善した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修(四国・九州ブロック)

日 程 表

第1日目

8月8日 (火)	10:00		11:00	12:30	13:40	15:15	15:30	17:00
	受 付	開講式	課題協議 1 「道徳教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 谷田増幸 ◎目的：全国的な視点から道徳教育の現状と課題について理解する	昼 休 み	演習 1 「道徳教育の問題点・課題 -生命をテーマとした道徳教育の実践-」 ◎目的：生命の尊重をテーマとした教育について課題をもつ	休 憩	課題協議 2 「豊かな心を育むこれからの道徳教育」 京都市総合教育センター顧問 小寺正一 ◎目的：道徳教育全般について理解を深める	

第2日目

8月9日 (水)	小・中部会	9:00		12:30	13:40	17:00				
		協議 1 「中央研修で学んだこと」	休 憩	演習 2 「学校全体で取り組む道徳教育（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	昼 休 み	演習 3 「道徳教育の授業づくりと道徳教育の評価」 ◎目的：道徳教育の授業づくりと道徳教育の評価について課題をもつ	休 憩	発表・協議		
8月9日 (水)	高部会	9:00		10:30	10:45	12:00	13:10	15:45	16:00	17:00
		協議 1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	休 憩	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 熊本県立荒尾高等学校 教頭 星子悦郎 教諭 本田雄二 教諭 松本弘士 (講師・指導助言者) 日本教育文化研究所長(元文部省視学官) 金井 肇	昼 休 み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ◎目的：高等学校における道徳教育とは何かを理解するとともに、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休 憩	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 ◎目的：道徳教育の授業づくりと道徳教育の評価について課題をもつ	休 憩	協議 2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」

第3日目

8月10日 (木)	9:00		10:00	10:15	12:00	12:15
	演習 4 「道徳教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ	休 憩	課題協議 3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 永田繁雄 ◎目的：道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式		

I 研修概要

研修名	子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 (東部ブロック)							
担当課係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研修目的	体育の授業において児童生徒が自ら積極的に運動に親しみ、体力を高めるため、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた指導、体を動かす意識を持たせる学習指導等について、必要な知識技術等の習得を図るとともに、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の教員であつて、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 なお、演習・実技の⑨及び⑩においては、中学校、高等学校及び中等教育学校の部活動指導者を含むことができる。							
開催期日	平成18年 5月23日 (火) ～平成18年 5月26日 (金)				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	316	人	参加率	※
開催場所	甲府市総合市民会館、小瀬スポーツ公園、緑が丘スポーツ公園ほか							

※計画人数 830人 受講者数 897人 参加率 108.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	169	90	9	0	10
		63.1	33.6	3.4	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・指導者として大事なことを教えて頂くことができたので、ぜひ今後に役立てたい。 ・講師の先生による指導、受講者同士の情報交換と有意義な研修でした。 ・より多くの先生方に伝えたいと思う内容を学ぶことができた。 ・研修を通して、「体力を高める運動」の具体例等を確認できました。 ・講師がすばらしかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修主旨の徹底を講師に図った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧（東部ブロック）

5月23日 (火)			12:00	12:30	12:50	13:30	17:00	
			受付		開会式	講義・演習 「これからの体育学習に期待されるもの」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 班別演習（研究協議）	実践発表・指導助言①（研究協議） 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導」並びに 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導」の現状と課題	
5月24日 (水)	9:00		10:30		12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方①」		演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方②」		昼 休	食 憩	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方③」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方④」
5月25日 (木)	9:00		10:30		12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」		演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」		昼 休	食 憩	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方③」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方④」
5月26日 (金)	10:30		12:00				15:00	
	小学校部会	演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」		昼 休	食 憩	演習・協議 「研修講師となるために③」	閉講式 ※班別演習、演習・実技、演習・協議は以下の班別で実施 【小学校】 ①基本の運動班、②体づくり運動班、 ③陸上運動班、④ボール運動 【中・高等学校】 ⑤陸上競技班、⑥バスケットボール班、 ⑦テニス班、⑧ダンス班、⑨柔道班、 ⑩なぎなた班
中学・高等学校部会	演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」				演習・協議 「研修講師となるために③」		

I 研修概要

研修名	子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 (中部ブロック)							
担当課係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研修目的	体育の授業において児童生徒が自ら積極的に運動に親しみ、体力を高めるため、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた指導、体を動かす意識を持たせる学習指導等について、必要な知識技術等の習得を図るとともに、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の教員であつて、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 なお、演習・実技の⑨及び⑩においては、中学校、高等学校及び中等教育学校の部活動指導者を含むことができる。							
開催期日	平成18年 5月16日(火)～平成18年 5月19日(金)				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	312	人	参加率	※
開催場所	三重県総合文化センター、四日市ドーム、鈴鹿市立体育館ほか							

※計画人数 830人 受講者数 897人 参加率 108.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	177	85	3	0	9
		66.8	32.1	1.1	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生による内容の提示が明確、具体的で、自らの指導に即生きるものばかりだった。 ・講師の先生に大変丁寧で、熱心に教えて頂き、大変有意義でした。 ・実技研修や講師になるための研修が用意され、必要感に応じて頂いた研修でした。 ・地元を持ち帰り、たくさんの方が伝達できそうです。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修主旨の徹底を講師に図った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧（中部ブロック）

5月16日 (火)	12:00		12:30	12:50	13:30		17:00
			受付	開 会 式	講義・演習		
		全体会			「これからの体育学習に期待されるもの」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	班別演習 (研究協議)	実践発表・指導助言①（研究協議） 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導」並びに「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導」の現状と課題

5月19日 (水)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方①」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方②」	昼 休 憩	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方③」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方④」	

5月20日 (木)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」	昼 休 憩	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方③」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方④」	

5月21日 (金)	10:30		12:00		15:00	
	小学校部会	演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	昼 休 憩	演習・協議 「研修講師となるために③」	閉 講 式
中学・高等学校部会	演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	演習・協議 「研修講師となるために③」			

※班別演習、演習・実技、演習・協議は以下の班別で実施

【小学校】
①基本の運動班、②体づくり運動班、
③陸上運動班、④ボール運動

【中・高等学校】
⑤陸上競技班、⑥バスケットボール班、
⑦テニス班、⑧ダンス班、⑨剣道班、
⑩弓道班

I 研修概要

研修名	子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 (西部ブロック)							
担当課係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研修目的	体育の授業において児童生徒が自ら積極的に運動に親しみ、体力を高めるため、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた指導、体を動かす意識を持たせる学習指導等について、必要な知識技術等の習得を図るとともに、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の教員であつて、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 なお、演習・実技の⑨及び⑩においては、中学校、高等学校及び中等教育学校の部活動指導者を含むことができる。							
開催期日	平成18年 5月 9日 (火) ～平成18年 5月12日 (金)				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	269	人	参加率	—
開催場所	宮崎市民プラザオルブライトホール、宮崎県総合運動公園ほか							

※計画人数 830人 受講者数 897人 参加率 108.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	198	32	0	0	2
		86.1	13.9	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの運動に対する意識改革（特に運動嫌いの子）に役立つ研修であった。 ・研修内容は、指導上大変参考となる内容が多く、勉強になりました。 ・講師の先生からの情報に加え、グループ協議の時間も多く、他県の先生方といろいろな情報が交換できて良かった。 ・現場にかえり、県全体に還元していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修主旨の徹底を講師に図った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧（西部ブロック）

5月9日 (火)	12:00		12:30	12:50	13:30		17:00
			受 付	開 会 式	講義・演習		
		全体会			「これからの体育学習に期待されるもの」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	班別演習 (研究協議)	実践発表・指導助言①（研究協議） 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導」並びに 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導」の現状と課題

5月10日 (水)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方①」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方②」	昼 休 ・ 食 憩	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方③」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方④」	

5月11日 (木)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」	昼 休 ・ 食 憩	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方③」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方④」	

5月12日 (金)	10:30		12:00		15:00	
	小学校部会	演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	昼 休 ・ 食 憩	演習・協議 「研修講師となるために③」	閉 講 式
中学・高等学校部会	演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	演習・協議 「研修講師となるために③」			

※班別演習、演習・実技、演習・協議は以下の班別で実施

【小学校】
①基本の運動班、②体づくり運動班、
③陸上運動班、④ボール運動

【中・高等学校】
⑤陸上競技班、⑥バスケットボール班、
⑦テニス班、⑧ダンス班、⑨剣道班、
⑩レスリング班

I 研修概要

研 修 名	環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 (東部ブロック)							
担 当 課 係	教育課題研修課 連絡調整係							
研 修 目 的	各都道府県等において環境教育を担当する指導主事等に対し、学校における環境教育に関する全体計画の作成、外部人材の活用のあり方等について、必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成18年 9月26日 (火)～平成18年 9月29日 (金)			4日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	54	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立磐梯青少年交流の家							

※計画人数 110人 受講者数 111人 参加率 100.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	40	10	0	0	4
		80.0	20.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修を行う際の進め方(ワークショップ等)も非常に参考になった。
- ・指導の方法の多様性、各校のいろいろな取り組みがわかりとても有意義だった。
- ・全体の講座の構成が良く考えられていて良かった。
- ・環境教育の持つ意義と重要性・必要性がよくわかった。
- ・講師の先生の話、実践内容もとても素晴らしく環境教育について深めることができました。また、これからの自分の環境教育への方向性が見えたように思います。
- ・様々な取り組みや方法を学ぶことができた。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・小・中・高の分科会の交流の場を設け、相互発表と協議を実施した。
- ・研修の企画全体を通してのコーディネーターを設けた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度環境保全のための教育の推進のための
指導者の養成を目的とした研修（東部ブロック）

○第1日目 9月26日（火）

時刻	内 容
12:30	受付
13:00	開講式
13:10	「行政説明」 文部科学省初等中等教育局視学官 井上示恩
13:45	全体演習「学習指導要領における環境教育の位置づけ」 国立教育政策研究所教育課程調査官 日置光久
15:00	全体協議 「国連持続可能な開発のための教育の10年」 立教大学大学院教授 阿部 治

○第2日目 9月27日（水）

時刻	内 容
8:30	フィールドワーク 「細野園地緑化プロジェクト」を通して環境について考える。 講師：井上清志、曾根仁一、曾根久子、巖岩徳三、巖岩康子、本多勝男
13:30	事例発表 小学校分科会 広島県呉市渡子小学校 中学校分科会 静岡県袋井市立浅羽中学校 高等学校分科会 北海道上川高等学校
15:15	ワークショップ「体験による学び」 小学校分科会 藤本勇二（徳島県市場市市場小学校教諭） 中学校分科会 山本幹彦（NPO 当別エコロジカルコミュニティ代表） 高等学校分科会 藤 修（長崎県立西陵高等学校教諭、 元国立教育政策研究所教育課程調査官）

○第3日目 9月28日（木）

時刻	内 容
9:00	ワークショップ「体験による学び」 小学校分科会 藤本勇二（徳島県市場市市場小学校教諭） 中学校分科会 山本幹彦（NPO 当別エコロジカルコミュニティ代表） 高等学校分科会 藤 修（長崎県立西陵高等学校教諭、 元国立教育政策研究所教育課程調査官）
12:00	昼食
13:00	
15:30	ワークショップのまとめ

○第4日目 9月29日（金）

時間	内 容
9:00	「ESDを題材とする全体協議」 ESD-J 副代表理事 池田満之
10:30	全体研究協議 講師 藤 修 「各分科会の相互発表と協議」 「全体のふりかえりとまとめ」
11:30	閉講式

I 研修概要

研 修 名	環境保全のための教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 (西部ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 連絡調整係		
研 修 目 的	各都道府県等において環境教育を担当する指導主事等に対し、学校における環境教育に関する全体計画の作成、外部人材の活用のあるり方等について、必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われるようにする。		
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。		
開 催 期 日	平成18年11月14日 (火) ~平成18年11月17日 (金)	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 57 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家		

※計画人数 110人 受講者数 111人 参加率 100.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	26 51.0	24 47.1	1 2.0	0 0.0	4

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・「環境教育」の意義や実践といった面のみならず、研修の進め方（集団形成、研修の構成、手法等）においても大変参考になった。 ・「環境教育とは何か」という課題を解決する糸口が見えてきたように感じた。 ・環境教育の現状や世界での取り組み等がわかった。 ・事例発表も分科会講師の講話もとてもよかった。すぐには実践できないが、考え方や目的意識が明確になり、自分の方向性が定まった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高の分科会の交流の場を設け、相互発表と協議を実施した。 ・研修の企画全体を通してのコーディネーターを設けた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 環境保全のための教育の推進のための
指導者の養成を目的とした研修（西部ブロック）

11 月 14 日 (火)	12:30～13:00 13:00～13:45 13:45～14:45 15:00～16:50	受付 開講式 行政説明 全体演習「学習指導要領における環境教育の位置づけ」 国立教育政策研究所 教育課程調査官 日置光久 全体協議「国連持続可能な開発のための教育10年」 滋賀大学環境総合研究センター 助教授 市川智史 ESD-J 副代表理事 池田満之 ESD-J 副代表理事 竹内よし子
11 月 15 日 (水)	9:00～10:30 10:30～12:00 12:40～17:00	「ESDを題材とする全体協議」 滋賀大学環境総合研究センター 助教授 市川智史 ESD-J 副代表理事 池田満之 ESD-J 副代表理事 竹内よし子 事例発表 ・小学校分科会 鹿児島県龍郷町立龍郷小学校 ・中学校分科会 鹿児島県志布志市立出水中学校 ・高等学校分科会 群馬県立尾瀬高等学校 フィールドワーク 広島県立水産海洋技術センター
11 月 16 日 (木)	9:00～12:00 13:00～16:50	ワークショップ「体験による学び」 小学校分科会 NPO くすの木自然館専務理事 浜本奈鼓 中学校分科会 NPO 当別エコロジカルコミュニティ 山本幹彦 高等学校分科会 長崎県立西陵高等学校教諭 元 国立教育政策研究所教育課程調査官 藤 修 ワークショップ（続き）
11 月 17 日 (金)	9:00～10:30 10:30～11:30 11:30～12:00	ワークショップ（まとめ） 全体研究協議 「各分科会の相互発表と協議」 「全体のふりかえりとまとめ」 講師 藤 修 閉講式

I 研修概要

研修名	体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修 (東部ブロック)					
担当課係	教育課題研修課 連絡調整係					
研修目的	学校教育における地域間交流体験や長期宿泊体験をはじめとした様々な体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の教育課程への位置づけや、体験活動プログラムの開発等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開催期日	平成18年11月27日(月)～平成18年11月30日(木)				4日間	
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	62	人
				参加率	※	
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

※計画人数 110人 受講者数102人 参加率 92.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	33	29	0	0	0
		53.2	46.8	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・自校で行っている長期宿泊体験(セカンドスクール)の客観的な検討ができた。 ・プログラムの作成が一日日程でも良かったと思う。事例発表は校種ごとまたは学校規模に応じて対応できるように、もう少し多くの事例発表がほしいと思った。 ・実践演習をもっと充実させてほしかった。 ・直接お聞きできないような有名な講師の方々の話が聞けたこと、たくさんの学校の実例に触れることができたことが、何より有意義だった。 ・今後、体験活動を実践する上でのポイントを理解することができた。 ・研修内容もちろん、大変有意義であったが、他地域の先生方と知り合えたことが今後の活動のネットワーク作りにつながっていくと期待できた。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の企画・運営については、(独)国立少年自然の家へこれまで委嘱していたものをやめ、センターが主体となって実施した。 ・研修内容を「自然体験」「社会奉仕体験」中心から、「長期宿泊体験」「地域間交流」へ移行し、それぞれの実践例及び演習を設けた。演習の際は、食育推進基本計画を踏まえ、体験活動と食育を関連づけたものを設けた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修 (東部ブロック)

日 程 表

第1日目

11月27日 (月)	12:45	13:15	13:45	15:45	16:00	17:00
	受付	開講式 行政説明 文部科学省	研究協議 「社会性を育てる体験活動の意義と 今日的な課題」 国立教育政策研究所教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教科調査官 杉田 洋	班別協議 「各地域における体験活動の意義 と今日的な課題」		

第2日目

11月28日 (火)	9:00	12:00	13:00	17:00
	実践演習「地域間交流(都市部と農村部の交流)」 国立大学法人筑波大学 農林技術センター 助教授 瀧川 具弘 助教授 田島 敦史 助教授 林 久喜 助教授 半田 高 技術職員 遠藤 好和 技術職員 佐藤 美穂	昼 休 み	実践演習「地域間交流(都市部と農村部の交流)」(続き) 国立大学法人筑波大学 農林技術センター 助教授 瀧川 具弘 助教授 田島 敦史 助教授 林 久喜 助教授 半田 高 技術職員 遠藤 好和 技術職員 佐藤 美穂	

第3日目

11月29日 (水)	9:00	12:00	13:00	17:00
	事例発表 (実践校3校による発表と協議) 【長期宿泊体験推進校】 新潟県柏崎市立石地小学校 教頭 高橋 一也 【地域間交流体験推進校】 長野県根羽村立根羽中学校 教諭 松本 香樹 【推進地域・推進校】 石川県立鶴来高等学校 校長 山岸 外司憲 教諭 奥 洋志	昼 休 み	班別演習「体験活動の適切な計画と効果的な展開について」「プログラム作成」 岐阜大学教授 北 俊夫	

第4日目

11月30日 (木)	9:00	11:00	12:00	12:15
	班別演習・プレゼンテーション 岐阜大学教授 北 俊夫	全体協議 「研修のふりかえりと まとめ」 岐阜大学教授 北 俊夫	閉 講 式	

I 研修概要

研 修 名	体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修 (西部ブロック)					
担 当 課 係	教育課題研修課 連絡調整係					
研 修 目 的	学校教育における地域間交流体験や長期宿泊体験をはじめとした様々な体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の教育課程への位置づけや、体験活動プログラムの開発等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成18年10月24日（火）～平成18年10月27日（金）				4日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	40	人
				参加率	※	
開 催 場 所	福岡市教育センター（福岡県福岡市）					

※計画人数 110人 受講者数102人 参加率 92.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	21	18	0	0	1
		53.8	46.2	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・農場での体験が心に残りました。普段はとてできない体験だった。 ・全体的に内容が豊富で良かった。中でも研修者自らが体験できるプログラムは良かった。 ・講師の先生方の講義等が非常にわかりやすく有意義だった。 ・体験活動を計画する際の留意事項やねらいの重要性等、大変よく理解できた。 ・いろいろな県の先生方と情報交換ができて有意義であった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の企画・運営については、（独）国立少年自然の家へこれまで委嘱していたものをやめ、センターが主体となって実施した。 ・研修内容を「自然体験」「社会奉仕活動」中心から、「長期宿泊体験」「地域間交流」へ移行し、それぞれの実践例及び演習を設けた。演習の際は、食育推進基本計画を踏まえ、体験活動と食育を関連づけたものを設けた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修 (西部ブロック)

日 程 表

第1日目

10月24日 (火)		12:45	13:15	13:45	15:45	16:00	17:00
		受 付	開講式 行政説明 文部科学省	研究協議 「社会性を育てる体験活動の意義と 今日的な課題」 国立教育政策研究所教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教科調査官 杉田 洋	班別協議 「各地域における体験活動の意義 と今日的な課題」		

第2日目

10月25日 (水)	9:30	12:00	13:00	17:00
	実践演習「農業生産技術を通じた地域間交流（都市と農村の交流） と食育」 九州大学大学院農学研究院教授 中 司 敬	昼 休 み	実践演習「農業生産技術を通じた地域間交流（都市と農村の交流） と食育」（続き） 九州大学大学院農学研究院教授 中 司 敬	

第3日目

10月26日 (木)	9:00	12:00	13:00	17:00
	事例発表（実践校3校による発表と協議） 【地域間交流体験推進校】 沖縄県那覇市立銘苅小学校 教頭 松田 哲哉 【長期宿泊体験推進校】 広島県三原市立第一中学校 教諭 森原 行治 【推進地域・推進校】 福岡県立嘉穂総合高等学校 教諭 橋本 輝夫 実習助手 諫山 弘基	昼 休 み	班別演習「体験活動の適切な計画と効果的な展開について」「プログラム作成」 東京農業大学教授 渡部邦雄 学習院大学助教授 長沼 豊	

第4日目

10月27日 (金)	9:00	11:00	12:00	12:15
	班別演習・プレゼンテーション 東京農業大学教授 渡部邦雄 学習院大学助教授 長沼 豊	全体協議 「研修のふりかえりと まとめ」 東京農業大学教授 渡部邦雄 学習院大学助教授 長沼 豊	閉 講 式	

I 研修概要

研修名	生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修					
担当課係	基幹研修事業課 研修第一係					
研修目的	各都道府県、指定都市及び中核市において生徒指導又は教育相談を担当する指導主事等に対し、全国的かつ緊急に対応が必要な不登校・いじめ等の問題行動や児童虐待等の生徒指導上の今日的課題について、最新の知見や全国的動向、研究成果、対応方策に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受講対象	都道府県、指定都市及び中核市教育委員会の生徒指導又は教育相談を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開催期日	平成18年 7月24日（月）～平成18年 8月 8日（火）			16日間		
受講人数	計画人数	110 人	受講者数	154 人	参加率	140.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	113 75.3%	37 24.7%	0 0.0%	0 0.0%	3

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・校種を分けての演習は有効で情報の共有もしやすかった。 ・班別の課題協議は大変に有意義であった。 ・生徒指導や教育相談など実際に現場で役立つ演習をしてもらったので、活用をはかりたい。 ・演習の時間が確保されており、講義内容も理解しやすかった。 ・2日間の事例研究はじっくりと掘り下げた研究分析ができてよかった。 ・役に立つワークシートがあり活用していきたい。 ・様々な情報提供を受け、意欲的に研修に取り組むことができた。 ・演習形式や組み立てについてもレジュメに記載されているとよい。 ・演習をする時の留意点についてもっと説明があってもよい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校・暴力行為などに対する理解及び適切な対応の在り方についての実践力をより一層深めるため、事例研究を2日間に拡大した。 ・会場の照明が暗かったり、広さも十分でないなど、長期間の研修を行うには適当でなかった。長期間の研修の場合は、適切な会場を確保する必要がある。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度生徒指導上の諸課題に対応するための指導者の養成を目的とした研修日程表

期	日	曜	8:30	9:30	12:15	13:30	16:15	17:00
1	7月24日	月		10:00～10:30 受付	10:30～12:00 オリエンテーション	13:00 開講式	13:20～ 生徒指導上の諸問題への対応 文部科学省初中局 児童生徒課課長補佐 塩原誠志	14:45～ ○生徒指導体制の在り方 国政研生徒指導 研究センター総括研究官 森嶋昭伸
2	7月25日	火	班別協議①	軽度発達障害と生徒指導 初等中等教育局視学官 宍戸和成		生徒指導に関わる法的諸問題 日本女子大学助教授 坂田 仰		班別協議②
3	7月26日	水	班別協議③	研修講師となるための知識・技術 教員研修センター主任指導主事		選択	☆学級がうまく機能しない状況への対応 都留文科大学教授 河村茂雄 ☆インターネット、携帯電話等による有害情報への対応と指導 群馬大学教授 下田博次	課題討議①
4	7月27日	木	課題討議②	事例発表(1) 熊取町教育委員会指導主事 吉田茂昭 事例発表(2) 広島県教委指導第三課生徒指導係長 朝倉一隆		選択	☆児童虐待の理解と対応 山梨大学助教授 玉井邦夫 ☆薬物乱用/性非行問題への対応 警視庁少年育成課副参事 石橋昭良	課題討議③
5	7月28日	金	課題討議④	○子どもの変化に対応できるチーム援助の在り方 筑波大学教授 石隈利紀		◎ロールプレイングを生かした問題行動への対応 栃木県教育研究所相談部長 丸山隆		課題討議⑤
6	7月29日	土	自由研修			自由研修		
7	7月30日	日	自由研修			自由研修		
8	7月31日	月	課題討議⑥	学校と関係機関との連携を図るための具体策 大阪樟蔭女子大学長 森田洋司		○フリーカウンセリングを生かした問題行動への対応 広島大学助教授 栗原慎二		課題討議⑦
9	8月1日	火	課題討議⑧	○不登校への対応演習(1) 開善塾教育相談研究所長 金澤純三		不登校への対応演習(2) 開善塾教育相談研究所長 金澤純三		課題討議⑨
10	8月2日	水	課題討議⑩	いじめ問題への対応演習(1) 早稲田大学教授 菅野純		いじめ問題への対応演習(2) 早稲田大学教授 菅野純		課題討議⑪
12	8月3日	木	課題討議⑫	生徒指導事例研究(1) 名古屋市立貴船小学校教頭 小林 由美子 奈良教育大学助教授 池島 徳大 昭大学院短期大学教授 松田 素行 広島国際大学助教授 今村 裕 群馬大学客員教授 榊澤 徹二 東海女子大学教授 花井 正樹		生徒指導事例研究(2) 名古屋市立貴船小学校教頭 小林 由美子 奈良教育大学助教授 池島 徳大 昭大学院短期大学教授 松田 素行 広島国際大学助教授 今村 裕 群馬大学客員教授 榊澤 徹二 東海女子大学教授 花井 正樹		演習確認①
11	8月4日	金	課題討議⑬	生徒指導事例研究(3) 名古屋市立貴船小学校教頭 小林 由美子 奈良教育大学助教授 池島 徳大 昭大学院短期大学教授 松田 素行 広島国際大学助教授 今村 裕 群馬大学客員教授 榊澤 徹二 東海女子大学教授 花井 正樹		生徒指導事例研究(4) 名古屋市立貴船小学校教頭 小林 由美子 奈良教育大学助教授 池島 徳大 昭大学院短期大学教授 松田 素行 広島国際大学助教授 今村 裕 群馬大学客員教授 榊澤 徹二 東海女子大学教授 花井 正樹		演習確認②
13	8月5日	土	自由研修			自由研修		
14	8月6日	日	自由研修			自由研修		
15	8月7日	月	還元方策①	生徒指導上の危機管理 武庫川女子大学教授 上地安昭		生徒指導の機能を生かした魅力ある授業づくり 東京理科大学教授 八並光俊		演習確認③
16	8月8日	火	還元方策②	非行防止等の指導計画や評価・改善の在り方 初等中等教育局視学官 宮崎活志		11:50～12:10 閉講式		

※ ☆は選択講義 ○は衛星配信講義 ◎は双方向の衛星配信講義

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (基礎コース・東部ブロック)							
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係							
研 修 目 的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、基礎コースにおいて、進路指導に必要な専門的知識と技術を、さらに応用コースにおいてキャリア・カウンセリング能力等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	I 基礎コース：都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 II 応用コース：平成18年度の基礎コースを修了した者 平成16、17年度の基礎コースを修了した者で、応用コースを未受講の者							
開 催 期 日	平成18年 6月26日（月）～平成18年 6月30日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	127	人	参加率	※
開 催 場 所	国立大学法人 筑波大学（茨城県つくば市）							

※基礎コース：計画人数220人 受講者数233人 参加率105.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	51	60	2	0	12
		45.1	53.1	1.8	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・キャリア教育推進に向けて、様々な角度から研修を積ませて頂き、大変有意義でした。キャリア教育が求められた意義や背景、また、実践例、そしてカウンセリングの大切さなど、多くのことが研修でき、本当にありがたかったです。

・教育活動において小・中・高の連携をとるのはなかなか難しいと思っていただけに、キャリア教育の視点を取り入れて様々な活動を行っていけば、小・中・高の連携も今まで以上に図れるのではないかと期待できる有意義なものでした。

・ある程度は知識のある先生方の研修だと思いましたが、全くの初級ではなく最新情報の提供など、中級的内容からでよいのではないかと思うことができました。

III 研修内容・方法の見直し等

・先進的な取り組みを行っている地域の事例発表及び研究協議を設定した。

・カウンセリングの演習の際、昨年度までの本研修修了者が指導助言者助手として入り、経験を踏まえて指導助言等を行った。

・同じ学校種で話し合いを行う演習を設定した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・東部ブロック〕

日 程 表

6月26日 (月)	9:30	10:00	10:30	11:50	13:00	14:30	14:45	17:00		
		受 付	開 講 式	課題協議 1 「キャリア教育の現状と課題」 文部科学省児童生徒課生徒指導調査官 宮下和己 ◎目的：本研修の全体像（キャリア教育が求められた背景、国の施策、本研修の意義）について理解する。	昼 休 み	演習 1 「キャリア教育の実践と課題 I」 ◎目的：キャリア教育についての学校種間の理解、情報交換、また、課題の明確化を図る。	休 憩	発表・講評 「キャリア教育の実践と課題 II」 文部科学省児童生徒課生徒指導調査官 宮下和己 筑波大学助教授 藤田晃之 ◎目的：キャリア教育の現状と課題の共有化を図る。		
6月27日 (火)	9:00	10:30	10:45	11:50	13:00	14:30	14:45	15:30	15:45	17:00
		実践発表 「キャリア教育による学校改革 I」 広島県尾道市立南小学校教頭 伊藤 誠 広島県尾道市立生口中学校教頭 益原光博 広島県立瀬戸田高等学校教頭 山本雅司 ◎目的：キャリア教育の先進的な取組の中から、キャリア教育の意義と課題についての情報を得る。	休 憩	研究協議 1 「キャリア教育による学校改革 II」 広島県尾道市立南小学校教頭 伊藤 誠 広島県尾道市立生口中学校教頭 益原光博 広島県立瀬戸田高等学校教頭 山本雅司 ◎目的：キャリア教育の先進的な取組、また参加者の実践から、各学校が今後実践していくための方法、課題等について協議する。	昼 休 み	課題協議 2 「組織における人材育成」 横浜ベイシエラトンホテル& Towers 研修担当ディレクター 袖山雅弘 ◎目的：社会が求める人材について視野を広げる。	休 憩	演習 2 「コミュニケーション スキルの基礎 I」 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 東京都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二 「指導助言(助手)」 秋田県男鹿市立五里中学校教頭 後藤秀司 筑波大学附属坂戸高等学校教頭 奥村準子 千葉県立市川工業高等学校教頭 江口敏彦 ◎目的：話す、聞くの2つの立場におけるコミュニケーションスキルの第一歩「相手の話をしっかり聞くこと」について理解する。	休 憩	演習 3 「コミュニケーションスキルの基礎 II」 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 東京都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二 「指導助言(助手)」 秋田県男鹿市立五里中学校教頭 後藤秀司 筑波大学附属坂戸高等学校教頭 奥村準子 千葉県立市川工業高等学校教頭 江口敏彦 ◎目的：話す、聞くの2つの立場におけるコミュニケーションスキルの基礎「相手の言いたいことをしっかりと聞き出すこと」について理解する。
6月28日 (水)	9:00	10:15	10:30	11:50	12:50	15:45	16:00	17:00		
		課題協議 3 「小学生・中学生・高校生の職業にかかわる体験的活動の意義と生かし方」 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 ◎目的：職業にかかわる体験の意義とそれを自己理解やキャリア教育に生かすことの重要性を理解する。	休 憩	演習 4 「コミュニケーションスキルの向上」 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 東京都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二 「指導助言(助手)」 秋田県男鹿市立五里中学校教頭 後藤秀司 筑波大学附属坂戸高等学校教頭 奥村準子 千葉県立市川工業高等学校教頭 江口敏彦 ◎目的：話す、聞く、観るの3つの立場におけるコミュニケーションスキルについて理解する。	昼 休 み	課題協議 4 「小学生・中学生・高校生の心理的・社会的発達と自己理解」 東北大学教授 菊池武利 ◎目的：児童生徒の発達段階を考慮し、自己理解の意義と自己理解のための様々な方法について理解する。	休 憩	演習 5 「各学校段階における課題とその対策」 ◎目的：キャリア教育についての学校種ごとの課題を話し合い、児童生徒の実態とあわせて情報交換を行う。		
6月29日 (木)	9:00	10:20	10:35	11:50	12:50	14:15	14:30	15:45	16:00	17:00
		課題協議 5 「キャリア・カウンセリング についての理解」 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 ◎目的：キャリア・カウンセリングとは何かについて理解する。	休 憩	演習 6 「カウンセリング・プロセス -相談関係づくりの大切さを知る-」 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 東北大学教授 菊池武利 「指導助言(助手)」 東京都調布市立調布中学校主幹 六反園留美 栃木県栃木市立栃木第一小学校教頭 国府谷康子 長野県飯田長姫高等学校教頭 森岡一彦 ◎目的：ビデオ、逐語録を使用した演習をとおして、キャリア・カウンセリングの理解を深める。	昼 休 み	(午前中に続く) 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 東北大学教授 菊池武利 「助手」 東京都調布市立調布中学校主幹 六反園留美 栃木県栃木市立栃木第一小学校教頭 国府谷康子 野島縣田長姫高等学校教頭 森岡一彦	休 憩	課題協議 6 「多様な相談場面の理解」 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 ◎目的：多様な相談場面での教師のコミュニケーション能力の必要性和重要性を理解する。	休 憩	課題協議 7 「小学生・中学生・高校生の生きる社会環境(職業や産業)についての理解」 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 ◎目的：変化の激しい社会の動向について、キャリア教育の必要性和ともに受講者が説明できるようにする。
6月30日 (金)	9:00	12:15								
		研究協議 2 「研修講師となるための知識・技術」 文部科学省児童生徒課生徒指導調査官 宮下和己 文教大学名誉教授 仙崎武 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 ◎目的：基礎研修のまとめとともにキャリア教育の理解を深め、本研修で学んだことを学校等で還元できるようにする。			閉 講 式					

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (応用コース・東部ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研 修 目 的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、基礎コースにおいて、進路指導に必要な専門的知識と技術を、さらに応用コースにおいてキャリア・カウンセリング能力等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	I 基礎コース：都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 II 応用コース：平成18年度の基礎コースを修了した者 平成16、17年度の基礎コースを修了した者で、応用コースを未受講の者		
開 催 期 日	平成18年 9月27日 (水) ～平成18年 9月29日 (金)	3日間	
受 講 人 数	計画人数	人	受講者数 123 人 参加率
開 催 場 所	JAビル国際会議室(東京都千代田区)		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	64 55.2	51 44.0	1 0.9	0 0.0	5

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎コースでも応用コースでもカウンセリングを行った。「キャリア教育において根底をなす部分がこれである」ということを感じている。ぜひ、全県のキャリア教育普及のための講座でもこれを取り入れていくべきである。「原点は何なのか。原点、初心にもどれ」ということを言葉でなく、カウンセリングで感じとらせていくべきだと思う。 ・基礎研修をうまく生かした演習等が設定され、自分の見方、考え方が広がったり深まったことが実感できた。 ・自分がキャリア教育の視点を意識して具体的な活動を計画していくことの難しさを感じながらも、思いをかたちにしていくことの大切さも分かった。様々な意見を取り入れて一つの考えにまとめていくことでやはり、良いものを生み出すことを再認識できた。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・より少人数のグループでプログラム作成を行い、グループ数が増えたために、全体発表を行う代表グループを決めるために、受講者同士で投票を行った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔応用コース・東部ブロック〕

日 程 表

9月27日 (水)	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:40	14:55	17:00
	受 付	開 講 式	演習 1 「キャリア教育を推進するための課題と解決策」 ◎目的：基礎コース後の取組と新たな課題、その方策等について情報交換を行う。	休 休 み	発表・講評 「指導・教授能力の向上 ーキャリア教育についての理解の深化ー」 文部科学省児童生徒指導調査官 宮下和己 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 ◎目的：基礎コース後の取組と新たな課題、その方策等について共通理解を図る。	休 憩	演習 2 「プログラム開発・運営能力 I ープログラム開発能力の向上ー」 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 ◎目的：事前事後指導を含めた指導計画を作成する。	

9月28日 (木)	9:00	12:00	13:00	14:30	15:30	15:45	17:00
	演習 3 「プログラム開発・運営能力 II ープログラム開発・評価能力の向上ー」 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 東京都立つばさ総合高等学校 特別・加付一 本城慎二 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 ◎目的：指導計画についてプレゼンテーションを行い、キャリア教育の具体的な計画や実践について理解する。	休 休 み	演習 3 (午前中に続く)	課題協議 1 「学校教育におけるキャリア教育の進め方 I」 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 ◎目的：子どもたちに今求められている能力・態度等について理解を深め、学校におけるキャリア教育の進め方について理解する。	休 憩	演習 4 「カウンセリング過程の基本的実践 I」 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 東京都立つばさ総合高等学校 特別・加付一 本城慎二 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 ◎目的：ビデオ、逐語録を使用した演習をとおして、キャリア・カウンセリングの理解を深める。	

9月29日 (金)	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	15:15
	演習 5 「カウンセリング過程の基本的実践 II」 追手門学院大学教授 三川俊樹 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 東京都立つばさ総合高等学校 特別・加付一 本城慎二 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 ◎目的：これまでのキャリアカウンセリングについてのまとめを行う。	休 憩	課題協議 2 「コンサルテーション能力とコーディネーション能力の向上」 東北大学教授 菊池武烈 ◎目的：教員として必要とされるコンサルテーション能力とコーディネーション能力について理解する。	休 休 み	研究協議 「学校教育におけるキャリア教育の進め方 II」 文部科学省児童生徒指導調査官 宮下和己 文科大学名誉教授 仙崎武 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 東北大学教授 菊池武烈 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 追手門学院大学教授 三川俊樹 東京都立つばさ総合高等学校 特別・加付一 本城慎二 ◎目的：これまでの研修の成果から、キャリア教育のコーディネーター、研修講師となるためのまとめを行う。	閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (基礎コース・西部ブロック)		
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研 修 目 的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、基礎コースにおいて、進路指導に必要な専門的知識と技術を、さらに応用コースにおいてキャリア・カウンセリング能力等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	I 基礎コース：都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 II 応用コース：平成18年度の基礎コースを修了した者 平成16、17年度の基礎コースを修了した者で、応用コースを未受講の者		
開 催 期 日	平成18年 6月 5日 (月) ～平成18年 6月 9日 (金)	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 106 人 参加率 ※
開 催 場 所	国立大学法人 広島大学 (広島県東広島市)		

※基礎コース：計画人数220人 受講者数233人 参加率105.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	50 48.5	53 51.5	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

・国としての施策、方向性がよく理解できた。この研修に参加している責任というものを感じた。
 ・プログラムが系統的に組み立てられており、研修がすすむにつれ理解度が深まり、整理されていった。
 ・内容のレベルが基礎的なものが多く、「指導者養成」を目的とするには、もの足りなさを感じる部分も正直言ってあった。
 ・異なる世界で活躍している人からキャリアに関する話を聞くことで視野を広めることができる。今後もこのような機会を増やしたい。

III 研修内容・方法の見直し等

・先進的な取り組みを行っている地域の事例発表及び研究協議を設定した。
 ・カウンセリングの演習の際、昨年度までの本研修修了者が指導助言者助手として入り、経験を踏まえて指導助言等を行った。
 ・同じ学校種で話し合いを行う演習を設定した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔基礎コース・西部ブロック〕

日 程 表

6月5日 (月)	9:30	10:00	10:30	11:50	13:00	15:00	15:15	17:00		
		受 付	開 講 式	課題協議 1 「キャリア教育の現状と課題」 文部科学省児童生徒課生涯指導調査官 宮下和己 ◎目的：本研修の全体像（キャリア教育が求められた背景、国の施策、本研修の意義）について理解する。	昼 休 み	演習 1 「キャリア教育の実践と課題 I」 ◎目的：キャリア教育についての学校種間の理解、情報交換、また、課題の明確化を図る。	休 憩	発表・講評 「キャリア教育の実践と課題 II」 文部科学省児童生徒課生涯指導調査官 宮下和己 ◎目的：キャリア教育の現状と課題の共有化を図る。		
6月6日 (火)	9:00	10:30	10:45	11:50	13:00	13:45 14:00	15:15	15:30	17:00	
		実践発表 「キャリア教育による学校改革 I」 広島県尾道市立瀬戸田小学校教諭 藤原靖之 広島県尾道市立生口中学校教諭 益原光博 広島県立瀬戸田高等学校教諭 山本雅司 ◎目的：キャリア教育の先進的な取組の中から、キャリア教育の意義と課題についての情報を得る。	休 憩	研究協議 1 「キャリア教育による学校改革 II」 広島県尾道市立瀬戸田小学校教諭 藤原靖之 広島県尾道市立生口中学校教諭 益原光博 広島県立瀬戸田高等学校教諭 山本雅司 広島大学キャリアセンター長 田中秀利 ◎目的：キャリア教育の先進的な取組、また参加者の実践から、各学校が今後実践していくための方法、課題等について協議する。	昼 休 み	演習 2 「コミュニケーションスキルの基礎 I」 ◎目的：話す、聞くの2つの立場におけるコミュニケーションスキルの第一歩「相手の話をしっかり聞くこと」について理解する。	休 憩	演習 3 「コミュニケーションスキルの基礎 II」 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 東京都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二 指導助言(助手) 和歌山県立海南高等学校教諭 森本正作 広島県竹原市立竹原中学校教諭 大藤浩司 福岡県豊前市立八尾小学校教諭 中村謙司 ◎目的：話す、聞くの2つの立場におけるコミュニケーションスキル の基礎「相手の言いたいことをしっかり聞くこと」について理解する。	休 憩	演習 4 「各学校段階における課題とその対策」 ◎目的：キャリア教育についての学校種ごとの課題を話し合い、児童生徒の実態とあわせて情報交換を行う。
6月7日 (水)	9:00	10:15	10:30	11:50	12:50	15:45	16:00	17:15		
		課題協議 2 「小学生・中学生・高校生の職業にかかわる体験的活動の意義と生かし方」 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 ◎目的：職業にかかわる体験の意義とそれを自己理解やキャリア教育に生かすことの重要性を理解する。	休 憩	演習 5 「コミュニケーションスキルの向上」 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 東京都立つばさ総合高等学校キャリア・カウンセラー 本城慎二 指導助言(助手) 和歌山県立海南高等学校教諭 森本正作 広島県竹原市立竹原中学校教諭 大藤浩司 福岡県豊前市立八尾小学校教諭 中村謙司 ◎目的：話す、聞く、観るの3つの立場におけるコミュニケーションスキルについて理解する。	昼 休 み	課題協議 3 「小学生・中学生・高校生の心理的・社会的発達と自己理解」 東北大学教授 菊池武克 ◎目的：児童生徒の発達段階を考慮し、自己理解の意義と自己理解のための様々な方法について理解する。	休 憩	課題協議 4 「組織における人材育成」 (株)サタケ 福森武 ◎目的：社会が求める人材について視野を広げる。		
6月8日 (木)	9:00	10:20	10:35	11:50	12:50	14:15	14:30	15:45	16:00	17:00
		課題協議 5 「キャリア・カウンセリングについての理解」 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 ◎目的：キャリア・カウンセリングとは何かについて理解する。	休 憩	演習 6 「カウンセリング・プロセス -相談関係づくりの大切さを知る-」 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 追手門学院大学教授 三川俊樹 指導助言(助手) 三重県津市立皇聖中学校教諭 寺本之人 京都教育大学附属京都小学校教諭 小原 武 広島県立西城紫水高等学校教諭 長岡真宣 ◎目的：ビデオ、逐語録を使用した演習をとおり、キャリア・カウンセリングの理解を深める。	昼 休 み	(午前中に続く) 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 追手門学院大学教授 三川俊樹 指導助言(助手) 三重県津市立皇聖中学校教諭 寺本之人 京都教育大学附属京都小学校教諭 小原 武 広島県立西城紫水高等学校教諭 長岡真宣	休 憩	課題協議 6 「多様な相談場面の理解」 追手門学院大学教授 三川俊樹 ◎目的：多様な相談場面での教師のコミュニケーション能力の必要性と重要性を理解する。	休 憩	課題協議 7 「小学生・中学生・高校生の生きる社会環境(職業や産業)についての理解」 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 ◎目的：変化の激しい社会の動向について、キャリア教育の必要性とともに受講者が説明できるようにする。
6月9日 (金)	9:00	12:15								
	研究協議 2 「研修講師となるための知識・技術」 文部科学省児童生徒課生涯指導調査官 宮下和己 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅頭 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 広島大学キャリアセンター長 田中秀利 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 ◎目的：基礎研修のまとめとともにキャリア教育の理解を深め、本研修で学んだことを学校等で還元できるようにする。			閉 講 式						

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修 (応用コース・西部ブロック)				
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係				
研 修 目 的	各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路担当指導主事及び小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、基礎コースにおいて、進路指導に必要な専門的知識と技術を、さらに応用コースにおいてキャリア・カウンセリング能力等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。				
受 講 対 象	I 基礎コース：都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 II 応用コース：平成18年度の基礎コースを修了した者 平成16、17年度の基礎コースを修了した者で、応用コースを未受講の者				
開 催 期 日	平成18年 9月20日 (水) ～平成18年 9月22日 (金)			3日間	
受 講 人 数	計画人数	人	受講者数	106	人 参加率
開 催 場 所	コンベンションルームAP大阪 (大阪府大阪市)				

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	54	50	1	0	1
		51.4	47.6	1.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・キャリア教育を進める側として必要で意識しておかなければならない内容であり、今後の実践に生かしていきたいと思う。
 ・各先生方からキャリア教育の方向性を協議の中で示唆されたこと、また、研修生の中からの質問に対し、懇切丁寧に答えられていたことに感動しました。私もリーダーの一人として努力していきたいと考えております。
 ・基礎コースを終え、各学校等でその後の実践や課題について、協議できたことは、大変意義があった。
 ・応用コースなのでもう少し深いかなと思ったが、自分の中では深いというより、整理されたという感が強かった。講義の内容がもう少し専門的であってもいいと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

・より少人数のグループでプログラム作成を行い、グループ数が増えたために、全体発表を行う代表グループを決めるために、受講者同士で投票を行った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修〔応用コース・西部ブロック〕

日 程 表

9月20日 (水)	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:40	14:55	17:00
	受付	開講式	演習1 「キャリア教育を推進するための課題と解決策」 ◎目的：基礎コース後の取組と新たな課題、その方策等について情報交換を行う。	昼休み	発表・講評 「指導・教授能力の向上 －キャリア教育についての理解の深化－」 文部科学省児童生徒課生徒指導調査官 宮下和己 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 追手門学院大学教授 三川俊樹 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 ◎目的：基礎コース後の取組と新たな課題、その方策等について共通理解を図る。	休憩	演習2 「プログラム開発・運営能力Ⅰ －プログラム開発能力の向上－」 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 追手門学院大学教授 三川俊樹 ◎目的：事前事後指導を含めた指導計画を作成する。	
9月21日 (木)	9:00	12:00	13:00	14:30	15:30	15:45	17:00	
	演習3 「プログラム開発・運営能力Ⅱ－プログラム開発・評価能力の向上－」 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 東京都立つばさ総合高等学校 特別・加付一 本城慎二 追手門学院大学教授 三川俊樹 ◎目的：指導計画についてプレゼンテーションを行い、キャリア教育の具体的な計画や実践について理解する。	昼休み	演習3 (午前中に続く)	課題協議1 「学校教育におけるキャリア教育の進め方Ⅰ」 千葉商科大学教授 鹿嶋研之助 ◎目的：子どもたちに今求められている能力・態度等について理解を深め、学校におけるキャリア教育の進め方について理解する。	休憩	演習4 「カウンセリング過程の基本の実践Ⅰ」 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 東京都立つばさ総合高等学校 特別・加付一 本城慎二 追手門学院大学教授 三川俊樹 ◎目的：ビデオ、逐語録を使用した演習をとおして、キャリア・カウンセリングの理解を深める。		
9月22日 (金)	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	15:15		
	演習5 「カウンセリング過程の基本の実践Ⅱ」 追手門学院大学教授 三川俊樹 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 東京都立つばさ総合高等学校 特別・加付一 本城慎二 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 ◎目的：これまでのキャリアカウンセリングについてのまとめを行う。	休憩	課題協議2 「コンサルテーション能力とコーディネーション能力の向上」 東北大学教授 菊池武烈 ◎目的：教員として必要とされるコンサルテーション能力とコーディネーション能力について理解する。	昼休み	研究協議 「学校教育におけるキャリア教育の進め方Ⅱ」 文部科学省児童生徒課生徒指導調査官 宮下和己 前東京都立八王子工業高等学校長 内田雅顕 東北大学教授 菊池武烈 東京都立つばさ総合高等学校 特別・加付一 本城慎二 追手門学院大学教授 三川俊樹 筑波大学特任教授 渡辺三枝子 埼玉県所沢市立上山中学校教頭 藤川喜久男 ◎目的：これまでの研修の成果から、キャリア教育のコーディネーター、研修講師となるためのまとめを行う。	閉講式		

I 研修概要

研 修 名	人権教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修						
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係						
研 修 目 的	学校教育における人権教育の一層の充実を図るため、今日的な人権課題である学校教育活動全体において人権教育を推進するためのプログラム開発や効果的な指導、家庭・地域等との連携を推進する方策等について、研究協議及び演習等を行うことにより必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの人権教育担当者並びにそれに準じる者（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校（園）長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（人権教育の指導的立場を担う者））						
開 催 期 日	平成18年10月25日（水）～平成18年10月27日（金）				3日間		
受 講 人 数	計画人数	110	人	受講者数	143	参加率	130.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	69	64	1	0	2
		51.5	47.8	0.7	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・同じ目的のために知恵を出し合い1つの資料を作り出す営みは、自分なりに理解していたと思っていた第二次取りまとめの内容を読み返し、より深く理解できたように思う。 ・教職員研修のあり方、校種間連携といった演習課題に沿った話し合いやプレゼンのまとめができ、すぐに還元できるものとなった。 ・それぞれの地域の持つ背景が様々で、どの先生も熱意が伝わってきた。 ・人権教育について地域による温度差があることに驚いた。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育における国内外の動きについても内容に加えた。 ・課題協議を減らし、事例発表や演習時間を延長した。 ・5部会、24グループに分かれての演習で、全体発表を行う代表グループを各部会で決めるために、受講者同士で投票を行った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度人権教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修
日 程 表

日 時：平成18年10月25日(水)～平成18年10月27日(金)

会 場：独立行政法人 教員研修センター

第1 日 目	10月25日 (水)	9:45	10:15	11:15	12:30	13:40	15:30	15:45	17:00
		受 付	開講式 「人権教育の推進について」 文部科学省児童生徒課 課長補佐 塩原誠志	課題協議 「国内外の動きと学校における人権教育-「人権教育のための世界計画」等-」 筑波大学 教授 福田 弘 ◎目的：人権教育の現状と課題について理解する	昼 休 み	事例発表 「人権教育推進上の課題と改善策等について-「人権教育の指導方法等の在り方について[第二次とりまとめ]を踏まえて-」 福岡県直方市教育委員会指導主事 橋本淳生 山形県飯豊町立第一小学校長 布施 清 (前 山形県米沢市立第七中学校長) 栃木県西方町立西方小学校教諭 水野規子 " 教諭 佐藤 敬 ◎目的：先進的な取組を知り、人権教育に役立つ知識・方法を得る	休 憩	事例協議 「人権教育推進上の課題と改善策等について-「人権教育の指導方法等の在り方について[第二次とりまとめ]を踏まえて-」 ◎目的：人権教育に係る取組について情報交換を行う	
第2 日 目	10月26日 (木)	9:00	9:20	9:30	12:00	13:00	15:30	15:45	17:00
		演習の進め方について	休 憩	演習1 「学校における人権教育の改善・充実について-「人権教育の指導方法等の在り方について[第二次とりまとめ]を踏まえて-」(テーマ) ①効果的な研修プログラムや啓発資料等について ②学校としての組織的な取組(例：年間指導計画、校内体制、校内研修、評価等)と関係機関等との連携について ③人権教育の内容及び指導方法(例：授業案等)について	昼 休 み	演習2 「学校における人権教育の改善・充実について-「人権教育の指導方法等の在り方について[第二次とりまとめ]を踏まえて-」(テーマ) ①効果的な研修プログラムや啓発資料等について ②学校としての組織的な取組(例：年間指導計画、校内体制、校内研修、評価等)と関係機関等との連携について ③人権教育の内容及び指導方法(例：授業案等)について	休 憩	部会発表・協議	
◎目的：人権教育の指導方法等について、それぞれの地域や学校において成果を普及する際の資料を作成し、還元内容・方法について課題をもつ									
第3 日 目	10月27日 (金)	9:00	11:30	11:45	12:45	13:00			
		全体発表・協議・まとめ(演習課題の活かし方)	休 憩	「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局視学官 宍戸和成 埼玉県加須市立礼羽小学校長 増田利之 ◎目的：人権教育の指導方法等についての理解を深め、本研修成果を地域等へ普及・還元するための準備を行う	閉 講 式				

I 研修概要

研 修 名	特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修 (カリキュラム・マネジメント研修)					
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係					
研 修 目 的	学習指導要領の下、各学校において教育課程を適切に編成し、組織的・計画的な取組を行うことが重要である。このため、各学校は、教育活動の内容や方法とこれを支える条件整備を関連させて組織的・計画的に展開するとともに、編成したカリキュラムとその成果を評価し改善する過程を通して、よりよいカリキュラムを編成し、教育の質を高めていくこと(カリキュラム・マネジメント)が不可欠であり、そのための企画力や調整機能の強化が求められる。このようなことから、受講者が、カリキュラム・マネジメントの原理や手法などを修得し、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修及び「総合的な学習の時間コーディネーター養成講座」の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成18年11月13日(月)～平成18年11月17日(金)	5日間				
受 講 人 数	計画人数	220 人	受講者数	190 人	参加率	86.4%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数(人)	割合(%)	115 60.8	73 38.6	1 0.5	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

・限られた時間で話し合い、資料を作り、発表の準備を全て行うのは大変だったが、研修を企画するためのノウハウを十分に体感できた。
 ・演習内容はたいへん高度で、時間内にまとめることに苦労した。しかし事後の研修にすぐに生かせる資料が作成できたことは意義深い。
 ・受講者がそれぞれの立場、職場をイメージして習ったことを咀嚼し、まとめる形式のスタイルはとても有意義だと思います。
 ・特に研修したことを還元していく上で、ここで学んだことを自分なりに実践して伝えることが大事だという話はとても参考になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

・カリキュラム・マネジメントを行う上での総合的な学習の時間の意義と位置づけのコマを設定した。
 ・課題協議のコマを減らし、演習の時間を延長した。
 ・7部会、33グループに分かれての演習で、全体発表を行う代表グループを各部会で決めるために、受講者同士で投票を行った。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 特色ある教育課程を円滑に編成するための指導者の養成を目的とした研修（カリキュラム・マネジメント研修）

日 程 表

第1日目

11月13日 (月)	10:10	10:40	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00	:15
	受付	開講式 「カリキュラム・マネジメントの課題と期待」 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮崎活志	昼 休 み	課題協議1 「カリキュラム・マネジメントの基本と 学校運営」 東京学芸大学教授 児島邦宏 ◎目的：カリキュラム・マネジメントと は何かについて理解する	休 憩	課題協議2・演習 「教育課程の自己点検・自己評価の実際とカリ キュラムの改善」 千葉大学教授 天笠 茂 ◎目的：学校間の連携の必要性等を含め、PDCA サイクルで学校教育活動を見直す方策 について理解する	自己紹介 ・持参資 料の交換 ・パソコ ン利用に ついて	

第2日目

11月14日 (火)	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	13:30	13:40	15:00	15:15	17:00
	課題協議3 「カリキュラム・マネジメン トと校内研修－ワークショップ 型研修で学校力・教師力を 強める－」 鳴門教育大学教授 村川雅弘 ◎目的：教職員のカリキュラム・マネジメントマインドを高めるための校内研修、組織づくりについて知識・方法を得る	休 憩	演習 「カリキュラム・マネジメントと校内 研修－ワークショップ型研修で学校力 ・教師力を強める－」	昼 休 み	部会発表 移動 全体発表・講評・まとめ 「カリキュラム・マネジメントと校内研修－ワー クショップ型研修で学校力・教師力を強める－」 鳴門教育大学教授 村川雅弘	休 憩	課題協議4 「カリキュラム・マネジメントを行う 上での総合的な学習の時間の意義と位 置づけ」 福岡教育大学教授 寺尾慎一 ◎目的：カリキュラム・マネジメント を行う上での総合的な学習の 時間の意義等の理解を深める			

第3日目

11月15日 (水)	9:00	11:30	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
	演習 「総合的な学習の時間を生かした特色ある教育課程の編成」 ◎目的：総合的な学習の時間を生かした特色ある教育課程の編成について知識・方法を得る	部会発表	昼 休 み	全体発表・講評・まとめ 「総合的な学習の時間を生かした特色ある教 育課程の編成」 福岡教育大学教授 寺尾慎一	休 憩	事例発表 「カリキュラム開発による学校改革」 新潟県上越市立大手町小学校教頭 栗岡秀明 愛知県東海市立加木屋中学校教頭 近藤貴美子 広島市立安佐北高等学校教頭 阿部修三 ◎目的：先進校の取組を知り、カリキュ ラム開発による学校改革に役立つ知 識・方法を得る	

第4日目

11月16日 (木)	9:00	9:15	12:00	13:00	16:00	17:00
	演習の進め 方について 福岡教育大学講師 赤沢早人	演習① 「カリキュラム・マネジメントを展開するために －課題の整理、改善策、還元用配付資料作成－」	昼 休 み	演習② 「カリキュラム・マネジメントを展開するために －課題の整理、改善策、還元用配付資料作成－」	部会発表	
◎目的：カリキュラム・マネジメントを展開するため、本研修成果の還元内容・方法について課題をもつ						

第5日目

11月17日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	13:40	13:45	14:15	14:30
	全体発表・協議 「カリキュラム・マネジメントを 展開するために」 ◎目的：カリキュラム・マネジメ ントを展開するための方 策について理解を深める	休 憩	課題協議5 「研修講師となるために」 大阪教育大学副学長 長尾彰夫 ◎目的：カリキュラム・マネジメ ントに関する研修講師と なるための課題を整理す る	昼 休 み	演習 移動 まとめ 「研修成果の活かし方」 文部科学省初等中等教育局視学官 宮崎活志 ◎目的：本研修成果を地域等へ 普及・還元するための 準備を行う	閉 講 式			

I 研修概要

研修名	指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修 (東部ブロック)							
担当課係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研修目的	指導力不足教員の判断基準、指導力の回復・向上のための研修プログラム等について、必要な知識等を修得させ、各都道府県等において指導力不足教員に対して継続的な指導・研修を円滑に実施するため、担当者の資質の向上を図る。							
受講対象	都道府県教育委員会等の管理主事，指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。							
開催期日	平成18年10月18日（水）～平成18年10月20日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	100	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター							

※計画人数 220人 受講者数 200人 参加率 90.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	40	54	1	0	1
		42.1	56.8	1.1	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国の状況を知り、課題を共有することができて有意義でした。 ・この研修で得た成果を、これからの取り組みに生かしたい。 ・指導力不足教員の背景を理解するために大変参考になりました。 ・講義・演習内容が参加者のニーズに合っていました。 ・より具体的な課題解決方法や実践等を知りたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスに対応するコマを設定した。 ・研究協議の時間配分を見直した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修日程表 東部ブロック

	9:00	10:30	11:00	11:20	12:00	13:30	15:00	17:30
10月18日 (水)		受付	開講式	(講義) 指導力不足教員 への対応を含め た教員の資質向 上について 文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 課長補佐 今泉 柔剛 ※処遇、研修合同	昼 休 み	(研究協議1) 指導力不足教員の現状 と対応 ※処遇、研修に分かれての班 別協議 使用資料:様式1	(講義・演習1) 指導力等に課題のある教員の処遇と法 律問題・争訟問題等の対応 弁護士 谷田 容一 ※処遇、研修合同 使用資料:様式2 設問4	
	9:00	9:30			12:00	13:30		17:00
10月19日 (木)		(講義・演習2) 教員のメンタルヘルスの対応と理解 京都大学 教授 十一 元三 ※処遇、研修合同 使用資料:様式2 設問3			昼 休 み	(研究協議2) 指導力不足教員の対応に関する事例と課題解決を目指した研 究協議(1) 処遇のあり方担当: 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮崎 活志 事例発表者: 東京都教育庁人事部 小枝 副参事 研修のあり方担当: 兵庫県教育委員会 阪神北教育事務所 指導員 尾崎 人子 事例発表者: 栃木県総合教育センター 飯田 主幹 ※処遇、研修に分かれての班別協議 使用資料:様式2 設問1, 2		
	9:00	9:30		11:15	12:00	12:15		
10月20日 (金)		(研究協議3) 指導力不足教員の対応に関す る事例と課題解決を目指した研 究協議(2) 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮崎 活志 ※処遇、研修合同の班別協議		研修のまとめ 文部科学省 初等中等教育局 視学官宮崎活志	閉 講 式			

I 研修概要

研修名	指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修 (西部ブロック)					
担当課係	教育課題研修課 健康教育研修係					
研修目的	指導力不足教員の判断基準、指導力の回復・向上のための研修プログラム等について、必要な知識等を修得させ、各都道府県等において指導力不足教員に対して継続的な指導・研修を円滑に実施するため、担当者の資質の向上を図る。					
受講対象	都道府県教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。					
開催期日	平成18年 8月30日 (水)～平成18年 9月 1日 (金)				3日間	
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	100	人
				参加率	※	
開催場所	梅田スカイビル (大阪市)					

※計画人数 220人 受講者数200人 参加率90.9%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	57	38	0	0	3
		60.0	40.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・各県の実態や課題が明らかになり有意義であった。 ・講義・演習について、専門的な内容をわかりやすく解説いただき大変勉強になった。 ・研修で得た知識を、取り入れることができるものは取り入れたい。 ・研修内容のバランスがとれ、非常に有意義な研修だった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスに対応するコマを設定した。 ・研究協議の時間配分を見直した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度指導力不足教員に対応するための指導者の養成を目的とした研修日程表 西部ブロック

	9:00	10:30	11:00	11:20	12:00	13:30	15:00	17:30
8月30日 (水)		受付	開講式	<p>(講義)</p> <p>指導力不足教員への対応を含めた教員の資質向上について</p> <p>文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 課長補佐 今泉 柔剛</p> <p>※処遇、研修合同</p>	休 休 休	<p>(研究協議)</p> <p>指導力不足教員の現状と対応</p> <p>※処遇、研修に分かれての班別協議</p> <p>使用資料:別紙様式1</p>	<p>(講義・演習1)</p> <p>教員のメンタルヘルスの対応と理解</p> <p>京都大学 教授 十一 元三</p> <p>※処遇、研修合同</p> <p>使用資料:別紙様式2 設問3</p>	
	9:00	9:30	11:30	13:00	17:00			
8月31日 (木)		<p>(講義・演習2)</p> <p>指導力等に課題のある教員の処遇と法律問題・争訟問題等の対応</p> <p>弁護士 山田 陽彦</p> <p>※処遇、研修合同</p> <p>使用資料:別紙様式2 設問4</p>	休 休 休	<p>(研究協議)</p> <p>指導力不足教員の対応に関する事例と課題解決を目指した研究協議(1)</p> <p>処遇のあり方担当: 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮崎 活志</p> <p>事例発表者: 東京都教育庁人事部 小枝 副参事</p> <p>研修のあり方担当: 国立教育政策研究 研究企画開発部総括研究官 千々布 敏弥</p> <p>事例発表者: 栃木県総合教育センター 飯田 主幹</p> <p>※処遇、研修に分かれての班別協議</p> <p>使用資料:別紙様式2 設問1, 2</p>				
	9:00	9:30	11:15	12:00	12:15			
9月1日 (金)		<p>(研究協議)</p> <p>指導力不足教員の対応に関する事例と課題解決を目指した研究協議(2)</p> <p>文部科学省初等中等教育局 視学官 宮崎 活志</p> <p>※処遇、研修合同の班別協議</p>	<p>研修のまとめ</p> <p>文部科学省 初等中等教育局 視学官宮崎活志</p>	閉講式				

I 研修概要

研 修 名	各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修（第1回）		
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係		
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長のリーダーシップの下、教員が個々の得意分野を活かし、共同して学校経営に参画するなど、学校が組織として力を発揮することで、学校運営の改善を図ることが求められている。このため、企業等で実施されている組織マネジメントの手法を取り入れた「学校組織マネジメント研修」を行うために必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修の内容を踏まえた研修の企画・立案、研修講師としての活動、学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	①都道府県、指定都市及び中核市の教育委員会の指導主事、管理主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれらに準ずる者 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特殊教育諸学校の校長、教頭、教諭及び事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。		
開 催 期 日	平成18年 6月12日（月）～平成18年 6月16日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 65 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

※計画人数440人 受講者数419人 参加率95.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	51 78.5	14 21.5	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な内容について、詳しく丁寧な解説があり、また、研修者同士の協議・演習により理解等が深まった。 ・組織マネジメント研修についての事前研修を十分に行っていなかったため、流れをつかむのに苦労した。 ・目的が明確で、内容的にも目的と合致していた。地域協働の講義内容が、もう少し学校マネジメントとの接点を感じられるようなものであれば、さらに良かった。 ・自分のもつこの研修内容に対するスキル不足で、見通しがもちにくかった。次に何をやるかわかりにくかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・第1回は「校長、教頭を指導する指導者」に特化した内容の研修とした。 ・「モデルカリキュラムの内容を周知する研修」から、「指導法を周知する研修」に改善させるという観点から、模擬講座演習を取り入れた。 ・演習時間の十分な確保を図るため研修日数を4日間から5日間に延長した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修日程表(第1回)

第1日		10:30	11:00	11:15	12:00	13:00	14:00	14:15	16:15	16:30	17:00
6月12日 (月)	受付	開講式	文部科学省主旨説明	研修の進め方	昼休み	講義 「組織マネジメントの背景・ねらい・内容・進め方」 講師 ・木岡 一明	休憩	講義 「第1ユニット 学校マネジメント概論」 講師 ・木岡 一明 ・浅野 良一	休憩	1日の振り返り	
						講堂					

第2日		9:00	12:00	13:00	14:30	15:45	16:00	17:00
6月13日 (火)	講義・演習 「第2ユニット 内外環境の把握と特色づくり」 講師 ・木岡 一明 ・浅野 良一 ・榊原 禎宏 ・雲尾 周 ・加藤 崇英	昼休み	模擬演習	休憩	問題共有・ 応答	休憩	講義 「地域協働」 講師 ・雲尾 周	
	第2研修棟2階演習室, 指定研修室							

第3日		9:00	12:00	13:00	14:30	15:45	16:00	17:00
6月14日 (水)	講義・演習 「第3ユニット 学校経営のビジョンづくり」 名城大学大学院 主任教授 木岡 一明 産業能率大学 経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一 山梨大学 教授 榊原 禎宏 新潟大学 助教授 雲尾 周 国立教育政策研究所高等教育研究部研究員 加藤 崇英	昼休み	模擬演習	休憩	問題共有・ 応答	休憩	講義 「教職員評価」 産業能率大学 経営管理研究所 主任研究員 浅野 良一	
	第2研修棟2階演習室, 指定研修室							

第4日		9:00	12:00	13:00	14:30	15:45	16:00	17:00
6月15日 (木)	講義・演習 「第4ユニット 学校経営ビジョンの実現に向けて」 講師 ・木岡 一明 ・浅野 良一 ・榊原 禎宏 ・雲尾 周 ・加藤 崇英	昼休み	模擬演習	休憩	問題共有・ 応答	休憩	講義 「コミュニケーション」 講師 ・榊原 禎宏	
	第2研修棟2階演習室, 指定研修室							

第5日		9:00	10:00	10:15	12:00	13:00	14:00	14:15
6月16日 (金)	講義 「学校評価」 講師 ・木岡 一明	休憩	講義・演習 「研修の企画・実施上の留意点」 講師 ・浅野 良一	昼休み	研修全体の まとめ 意見交換	閉講式		
	講堂							

講師 氏名(所属)

- ・木岡 一明 (名城大学大学院主任教授)
- ・浅野 良一 (産業能率大学経営管理研究所主任研究員)
- ・榊原 禎宏 (山梨大学教授)
- ・雲尾 周 (新潟大学助教授)
- ・加藤 崇英 (国立教育政策研究所高等教育研究部研究員)

I 研修概要

研 修 名	各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修（第2回）					
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係					
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長のリーダーシップの下、教員が個々の得意分野を活かし、共同して学校経営に参画するなど、学校が組織として力を発揮することで、学校運営の改善を図ることが求められている。このため、企業等で実施されている組織マネジメントの手法を取り入れた「学校組織マネジメント研修」を行うために必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修の内容を踏まえた研修の企画・立案、研修講師としての活動、学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	①都道府県、指定都市及び中核市の教育委員会の指導主事、管理主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれらに準ずる者 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特殊教育諸学校の校長、教頭、教諭及び事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成18年 7月10日（月）～平成18年 7月14日（金）				5日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	179	人
				参加率	※	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

※計画人数440人 受講者数419人 参加率95.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	119	60	0	0	0
		66.5	33.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・指導者育成の観点から企画されてあったので、演習等も充実できてよかった。できれば、SWOT分析等の留意点・助言内容等の研修会、運営上のポイントなどの確認があればさらによかった。 ・「組織マネジメント」ということの広さを教えて頂いたので、学校評価もその中に含まれ、点と点が結ばれた。 ・それぞれの立場や個性を生かして仕事に生きがいをもつことが、組織を機能させる大きな力となること。そのための具体的な手法の数々が学べ、即実践できる内容であった。 ・管理職向けの研修コースで、企画・実践を踏まえた検討が、バランスよくできた。 ・多くの内容があり、受講者のレベルに差もある。しかも歴史の浅い研修であるが、臨機応変に対応されておられ、感心した。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・第2回は「校長、教頭を指導する指導者養成コース」と「すべての教職員を対象とした指導者養成コース」の2コースを設け、幅広い受講者のニーズに対応した。 ・「モデルカリキュラムの内容を周知する研修」から「指導法を周知する研修」に改善させるという観点から、模擬講座演習を取り入れた。 ・演習時間の十分な確保を図るため研修日数を4日間から5日間に延長した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修日程表(第2回)

第1日		10:30	11:00	11:15	12:00	13:00	14:00	14:15	17:00
7月10日 (月)	A				研修の 進め方	★講義 「組織マネジメントの背景・ねらい・内容・進め方」 講師・木岡 一明	休憩	講義「第1ユニット 学校マネジメント概論」 講義「概論領域」 講師 ・木岡 一明 ・浅野 良一	講堂
	B	受付	開講式	文部科学省主旨説明					
第2日		9:00	11:00	12:00	13:00	15:45	16:00	17:00	
7月11日 (火)	A	講義・演習 「第2ユニット 内外環境の把握と特色づくり」 講師 ・浅野 良一 ・木岡 一明	講義 「学校評価」 講師 ・木岡 一明	昼休み	A	模擬演習 講師 ・浅野 良一 ・木岡 一明	休憩	講義 「教職員評価」 講師 ・浅野 良一	講堂、第2研修棟2階演習室、指定研修室
	B	講義・演習「第1領域 組織経営面のマネジメント」+第4領域1節「教育活動における計画」 講師 ・木岡 一明 ・浅野 良一			B	模擬演習・演習体験 講師・指導助言者 ・木岡一明 ・浅野良一 ・榊原禎宏 ・雲尾周 ・加藤崇英 ・大西泰博 ・千代西尾祐司 ・市原康寛 ・長岡辰治			
第3日		9:00	10:00	12:00	13:00	15:45	16:00	17:00	
7月12日 (水)	A	グループ演習 (第2ユニット)	講義・演習 「第3ユニット 学校経営のビジョンづくり」 講師 ・浅野 良一 ・木岡 一明	昼休み	A	模擬演習 講師 ・浅野 良一 ・木岡 一明	休憩	講義 「コミュニケーション」 講師 ・榊原 禎宏	講堂、第2研修棟2階演習室、指定研修室
	B	グループ演習 (第1領域)	講義「第2領域 自己成長面のマネジメント」+第4領域2節「プレゼンテーション力・交渉力」 講師 ・木岡 一明 ・浅野 良一		B	模擬演習・演習体験 講師・指導助言者 ・木岡一明 ・浅野良一 ・榊原禎宏 ・雲尾周 ・加藤崇英 ・大西泰博 ・千代西尾祐司 ・市原康寛 ・長岡辰治			
第4日		9:00	10:00	12:00	13:00	15:45	16:00	17:00	
7月13日 (木)	A	グループ演習 (第3ユニット)	講義・演習 「第4ユニット 学校経営ビジョンの実現に向けて」 講師 ・浅野 良一 ・木岡 一明	昼休み	A	模擬演習 講師 ・浅野 良一 ・木岡 一明	休憩	講義 「地域協働」 講師 ・雲尾 周	講堂、第2研修棟2階演習室、指定研修室
	B	グループ演習 (第2領域)	講義「第3領域 対人関係面のマネジメント」+第4領域3節「会議の進め方」 講師 ・木岡 一明 ・浅野 良一		B	模擬演習・演習体験 講師・指導助言者 ・木岡一明 ・浅野良一 ・榊原禎宏 ・雲尾周 ・加藤崇英 ・大西泰博 ・千代西尾祐司 ・市原康寛 ・長岡辰治			
第5日		9:00	12:00	13:00	14:00	14:15			
7月14日 (金)	A	グループ演習 (第4ユニット)	講義・演習 「研修の企画・実施上の留意点」 講師 ・浅野 良一 ・木岡 一明	昼休み	研修全体の まとめ 意見交換	閉講式	講堂	★ 衛星配信	
	B	グループ演習 (第3領域)							

講師・指導助言者 氏名(所属)

- ・木岡 一明 (名城大学大学院主任教授)
- ・浅野 良一 (産業能率大学経営管理研究所主任研究員)
- ・榊原 禎宏 (山梨大学教授)
- ・雲尾 周 (新潟大学助教授)
- ・加藤 崇英 (国立教育政策研究所高等教育研究部研究員)
- ・大西 泰博 (鳥取県教育センター指導主事)
- ・千代西尾 祐司 (鳥取県教育センター指導主事)
- ・市原 康寛 (高知県教育センター指導主事)
- ・長岡 辰治 (高知県教育センター指導主事)

I 研修概要

研 修 名	各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修（第3回）					
担 当 課 係	基幹研修事業課 研修第一係					
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長のリーダーシップの下、教員が個々の得意分野を活かし、共同して学校経営に参画するなど、学校が組織として力を発揮することで、学校運営の改善を図ることが求められている。このため、企業等で実施されている組織マネジメントの手法を取り入れた「学校組織マネジメント研修」を行うために必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修の内容を踏まえた研修の企画・立案、研修講師としての活動、学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	①都道府県、指定都市及び中核市の教育委員会の指導主事、管理主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれらに準ずる者 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特殊教育諸学校の校長、教頭、教諭及び事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成18年 9月 4日（月）～平成18年 9月 8日（金）				5日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	175	人
				参加率	※	
開 催 場 所	ホテルルビノ京都堀川					

※計画人数440人 受講者数419人 参加率95.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	106	64	1	0	2
		62.0	37.4	0.6	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの理論、考え方から、各研修、演習のねらいや留意点、またその体系と全体像を把握、整理できる内容だった。特に講師の先生方の講義、演習は大変に密度が濃く、充実感をもった。また、受講者の状況を見ながら研修内容を変え、疑問に答えて頂けたことは、大変ありがたかった。 ・大量の事柄を5日間でやる、ということで、一つ一つの事柄を深くという点では若干不十分な感じがしないでもないが、そこは自分で勉強すべきことだと思っています。 ・今後さらに現場の実践事例の情報を集めて、充実した資料の提供をお願いしたい。 ・全体会、文科会どちらでもよいが、実際のマネジメント研修に関する実践報告（センター等での研修・学校での研修会）があるとよい。具体的な実践事例が知りたい。 ・この研修内容を十分理解するには、もう1週間は必要ではないかと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・第3回は「校長、教頭を指導する指導者養成コース」と「すべての教職員を対象とした指導者養成コース」の2コースを設け、幅広い受講者のニーズに対応したところだが、初心者を受講者が多かったため、受講者の状況に応じた工夫が求められた。 ・「モデルカリキュラムの内容を周知する研修」から、「指導法を周知する研修」に改善させるという観点から、模擬講座演習を取り入れた。 ・演習時間の十分な確保を図るため研修日数を4日間から5日間に延長した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度各地域において組織マネジメント研修を円滑に実施するための指導者の養成を目的とした研修日程表(第3回)

第1日		10:30	11:00	11:15	12:00	13:00	14:00	14:15	16:45	17:00
9月4日 (月)	A				研修の 進め方	昼休み	A 講義 「組織マネジメントの背景ねらい内容進め方」 講師 木岡一明	休憩	講義「第1ユニット 学校マネジメント概論」 講義「概論領域」 講師 木岡一明 浅野良一	本日の 振り返り
	B	受付	開講式	文部科学省主旨説明						
平安(B1F)										

第2日		9:00	9:30	10:30	12:00	13:00	15:45	16:00	16:45	17:00
9月5日 (火)	A	昨日の 振り返り	講義 「学校評価」 講師 木岡一明	講義演習 「第2ユニット 内外環境の把握と特色づくり」 講師 浅野良一 木岡一明	昼休み	A 模擬演習 講師 浅野良一 木岡一明	休憩	講義 「教職員評価」 講師 浅野良一	本日の 振り返り	
	B			講義演習「第1領域 組織経営面のマネジメント」+第4領域1節「教育活動における計画」 講師 木岡一明 浅野良一 榊原禎宏 雲尾周 加藤崇英 松元伸祥 千代西尾祐司 市原庸寛 長岡辰治						B 模擬演習演習体験 講師指導助言者 木岡一明 浅野良一 榊原禎宏 雲尾周 加藤崇英 松元伸祥 千代西尾祐司 市原庸寛 長岡辰治
平安B1F, アムール3F, 加茂2F, ひえい2F, 松2F										

第3日		9:00	10:00	12:00	13:00	15:45	16:00	16:45	17:00	
9月6日 (水)	A	グループ演習 (第2ユニット)	講義演習 「第3ユニット 学校経営のビジョンづくり」 講師 浅野良一 木岡一明	昼休み	A 模擬演習 講師 浅野良一 木岡一明	休憩	講義 「コミュニケーション」 講師 榊原 禎宏	本日の 振り返り		
	B		講義「第2領域 自己成長面のマネジメント」+第4領域2節「プレゼンテーション力交渉力」 講師 木岡一明 浅野良一 榊原禎宏 雲尾周 加藤崇英 松元伸祥 千代西尾祐司 市原庸寛 長岡辰治						B 模擬演習演習体験 講師指導助言者 木岡一明 浅野良一 榊原禎宏 雲尾周 加藤崇英 松元伸祥 千代西尾祐司 市原庸寛 長岡辰治	
平安B1F, アムール3F, 加茂2F, ひえい2F, 松2F										

第4日		9:00	10:00	12:00	13:00	15:45	16:00	16:45	17:00	
9月7日 (木)	A	グループ演習 (第3ユニット)	講義演習 「第4ユニット 学校経営ビジョンの実現に向けて」 講師 浅野良一 木岡一明	昼休み	A 模擬演習 講師 浅野良一 木岡一明	休憩	本日の 振り返り			
	B		講義「第3領域 対人関係面のマネジメント」+第4領域3節「会議の進め方」 講師 木岡一明 浅野良一 榊原禎宏 雲尾周 加藤崇英 松元伸祥 千代西尾祐司 市原庸寛 長岡辰治					B 模擬演習演習体験 講師指導助言者 木岡一明 浅野良一 榊原禎宏 雲尾周 加藤崇英 松元伸祥 千代西尾祐司 市原庸寛 長岡辰治		
平安B1F, アムール3F, 加茂2F, ひえい2F, 松2F										

第5日		9:00	12:00	13:00	14:00	14:15
9月8日 (金)	A	グループ演習 (第4ユニット)	講義演習 「研修の企画実施上の留意点」 講師 浅野良一 木岡一明	昼休み	研修全体の まとめ 講師 浅野良一 木岡一明	閉講式
	B					
平安B1F						

講師指導助言者 氏名(所属)	
木岡 一明(名城大学大学院主任教授)	松元 伸祥(京都府総合教育センター指導主事)
浅野 良一(産業能率大学経営管理研究所主任研究員)	千代西尾 祐司(鳥取県教育センター指導主事)
榊原 禎宏(山梨大学教授)	市原 庸寛(高知県教育センター指導主事)
雲尾 周(新潟大学助教授)	長岡 辰治(高知県教育センター指導主事)
加藤 崇英(国立教育政策研究所高等教育研究部研究員)	

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（東部ブロック）					
担 当 課 係	教育課題研修課 教育課程研修係					
研 修 目 的	<p>言葉の力は、人間の思考力や感受性を支え、コミュニケーションを円滑に行うための基盤であり、社会人にとって不可欠なものである。また、情報の獲得、思考、表現、課題探求など、学校教育における様々な教育活動の基本となる力でもある。このような言葉の力すなわち国語力の育成は、国語科はもとより各教科等を通じた指導の中で重視されることが求められている。</p> <p>本研修では、児童生徒の国語力向上を図るための内容・方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>					
受 講 対 象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭（特に研修主任等が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>					
開 催 期 日	平成18年10月11日（水）～平成18年10月13日（金）				3日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	225	人
				参加率	※	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

※計画人数440人 受講者数512人 参加率116.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	122	87	0	0	14
		58.4	41.6	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・他県や他教科の先生方と交流する場はほとんどないので、今回話ができ、有意義であった。また、調査官の話を直接聞くことができてよかった。 ・国語力向上ということで、どんな力をどのように研究していくのが明確になり、とても勉強になった。お話も分りやすく、ありがたいと思った。 ・「フィンランド・イギリスの動向、社会科における国語力」どちらも魅力的なテーマですので、どちらももう少し時間をとってお聞きしたいくらいです。 ・演習での疑問点や課題を受けての協議という方法は関連性があり、理解しやすいものであった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・教科別部会を設けることで、国語科以外を担当（専門）する受講者及び講師の割合を増やした。 ・学校全体で国語力向上に向けて取り組むための方策等を話合うための演習を設けた。 ・研修内容を深めるため、共通の質問事項への回答やフリーディスカッションを行う時間を設定した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（東部ブロック）

日 程 表

1 日 目

10月11日 (水)	9:45	10:15	11:00	12:10	13:10	14:15	14:30	17:00
	受 付	開 講 式	課題協議 1 「学校教育全体における 国語力向上について」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 (国語科担当) 富山哲也 ◎目的：国語力向上に向け た教育の現状と課題につい て理解する。	休 休 み	課題協議 2 「フィンランド、イギ リスの動向と社会科教 育における国語力育成」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 (社会科担当) 安野 功 ◎目的：外国の取組を知る とともに、社会科における 国語力育成について理解す る。	休 憩	教科別部会 「各教科等が担う国語力育成について」 ＜指導助言者＞ ① 国語部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(国語科担当) 井上一郎 富山哲也 ② 社会部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(国語科担当) 安野 功 吉開 潔 ③ 算数・数学部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(社会科担当) 永田潤一郎 ④ 理科部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(算数・数学科担当) 日置光久 ⑤ 総合的な学習の時間等部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(総合的な学習の時間担当・生活科担当) 田村 学 ◎目的：教科等ごとの特性を生かした国語力育成について理解する。	

2 日 目

10月12日 (木)	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
	事例発表 「国語力向上に向けた指導実践と 課題」 (事例発表者) 寒河江市立寒河江小学校教諭 村山智栄美 さいたま市立浦和別所小学校教諭 金子裕枝 横浜国立大学附属中学校教諭 大谷 一 山梨県立甲府西高等学校教諭 中込光人 ◎目的：先進校の取組を知る。	休 憩	演習 1 「国語力向上に向けた取組について —「読解力向上に関する指導資料」を生かして—」 (指導助言者) 小1班：さいたま市教育委員会指導主事 鯨井幹夫 小2班：横浜市立本町小学校副校長 永池啓子 小3班：岩手大学助教授 藤井知弘 小4班：山形大学講師 水戸部修治	休 休 み	発表・講評 「国語力向上に向けた取組 について —「読解力向上に関する指導資料」を生かして—」 中1班：群馬大学教授 河野庸介 中2班：東京都豊島区教育委員会 熊谷恵子 中3班：伊勢崎市教育委員会指導主事 栗本郁夫	休 憩	演習 2 「学校教育全体における国語力向上を目指す カリキュラム作成について」 高1班：横浜国立大学教授 高木展郎 高2班：筑波大学教授 鳴島 甫	

3 日 目

10月13日 (金)	9:00	10:45	11:00	12:00	13:00	14:10	14:30
	研究協議 「学校教育全体における国語力向上の 充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(国語科担当) 井上一郎 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(理科担当) 田代直幸 東京女子体育大学助教授 田中洋一 (進行) 茨城県教育研修センター指導主事 渡辺通子 ◎目的：学校教育全体における国語力向上につ いて理解を深める。	休 憩	課題協議 3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 (国語科担当) 井上一郎 ◎目的：各自が本研修の成 果等をまとめる。	休 休 み	課題協議 4 「国語をめぐる動きについて」 文化庁文化部国語課 主任国語調査官 氏原兼余司 ◎目的：社会全体が求める国語力 について視野を広げる。	閉 講 式	

I 研修概要

研修名	児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（西部ブロック）		
担当課係	教育課題研修課 教育課程研修係		
研修目的	<p>言葉の力は、人間の思考力や感受性を支え、コミュニケーションを円滑に行うための基盤であり、社会人にとって不可欠なものである。また、情報の獲得、思考、表現、課題探求など、学校教育における様々な教育活動の基本となる力でもある。このような言葉の力すなわち国語力の育成は、国語科はもとより各教科等を通じた指導の中で重視されることが求められている。</p> <p>本研修では、児童生徒の国語力向上を図るための内容・方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>		
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭（特に研修主任等が望ましい）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>		
開催期日	平成18年 8月28日（月）～平成18年 8月30日（水）	3日間	
受講人数	計画人数	※ 人	受講者数 287 人 参加率 ※
開催場所	国立大学法人 奈良教育大学		

※計画人数440人 受講者数512人 参加率116.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	99	159	3	0	11
		37.9	60.9	1.1	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・国語力についてのとらえ方、また、多くの取り組み例や他の先生方の考えを聞くことで、自分の見識が深まった。そして、地元に戻ってから今回の研修の成果を広めていかなければという責任感を感じることができた。 ・国語科でないので、理解できるか不安だったが、ていねいな説明もあり、たくさんの収穫があった。 ・事例発表が4本でちょっと多かったように思います。質問の時間も確保して頂けたなと思いました。 ・バズの方向性、話し合う目標（ゴール）をより具体的に示す必要がある。 ・研究協議は、有意義であったが、先日来何度もくりかえし言われていることについて、同じ説明を求める質問があったことには疑問を感じる。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・教科別部会を設けることで、国語科以外を担当（専門）する受講者及び講師の割合を増やした。 ・学校全体で国語力向上に向けて取り組むための方策等を話し合うための演習を設けた。 ・研修内容を深めるため、共通の質問事項への回答やフリーディスカッションを行う時間を設定した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修（西部ブロック）

日 程 表

1日目

8月28日 (月)	9:45	10:15	11:00	12:10	13:10	14:15	14:30	17:00
	受付	開講式	課題協議 1 「学校教育全体における国語力向上について」 文部科学省初等中等教育局主任視学官 田中孝一 ◎目的：国語力向上に向けた教育の現状と課題について理解する。	休み ◎目的：外国の取組を知るとともに、算数・数学科における国語力育成について理解する。	課題協議 2 「ドイツ、フランスの動向と算数・数学科教育における国語力育成」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官（算数・数学科担当） 長尾篤志	休憩 教科別部会 「各教科等が担う国語力育成について」 <指導助言者> ① 国語部会 文部科学省初等中等教育局主任視学官 田中孝一 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(国語科担当) 西辻正副 ② 社会部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(社会科担当) 安野 功 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(社会科担当) 中尾敏朗 ③ 算数・数学科部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(算数・数学科担当) 長尾篤志 ④ 理科部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(理科担当) 清原洋一 ⑤ 総合的な学習の時間等部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(総合的な学習の時間・生活科担当) 田村 学 ◎目的：教科等ごとの特性を生かした国語力育成について理解する。		

2日目

8月29日 (火)	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
	事例発表 「国語力向上に向けた指導実践と課題」 (事例発表者) 京都市立第三錦林小学校教諭 栗本浩行 和歌山県高野町立高野山小学校教諭 井上富裕 佐賀大学附属中学校教諭 古賀勝利 滋賀県立水口東高等学校教諭 中島敦子 ◎目的：先進校の取組を知る。	休憩 演習 1 「国語力向上に向けた取組について —「読解力向上に関する指導資料」を生かして—」 (指導助言者) 小1班：武庫川女子大学教授 市川真文 小2班：四條畷市立田原小学校校長 尾崎靖二 小3班：芦屋市立山手小学校校長 上月敏子 小4班：奈良教育大学教授 棚橋尚子	休み 発表・講評 「国語力向上に向けた取組について —「読解力向上に関する指導資料」を生かして—」 中1班：富山大学教授 米田 猛 中2班：兵庫教育大学教授 堀江祐爾 中3班：香川県教育委員会義務教育課主任指導主事 山下昌宏	休憩 演習 2 「学校教育全体における国語力向上を目指すカリキュラム作成について」 高1班：奈良県立教育研究所指導主事 大石健一 高2班：広島大学教授 吉田裕久				

3日目

8月30日 (水)	9:00	10:45	11:00	12:00	13:00	14:10	14:30
	研究協議 「学校教育全体における国語力向上の充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(国語科担当) 西辻正副 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(算数・数学科担当) 長尾篤志 奈良教育大学教授 松川利広 (進行) 奈良県立教育研究所指導主事 東島智子 ◎目的：学校教育全体における国語力向上について理解を深める。	休憩 課題協議 3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官(国語科担当) 西辻正副	休み 課題協議 4 「国語をめぐる動きについて」 文化庁文化部国語課 国語調査官 鈴木仁也	閉講式			

I 研修概要

研修名	外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（来日直後オリエンテーション）					
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研修目的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。					
受講対象	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による新規の招致外国青年の中で語学指導に従事する者。及び、再契約する者のうち国際交流員から外国語指導助手への職種変更をする者。					
開催期日	（4月期）平成18年 4月13日（木）			1日間		
	（A日程）平成18年 7月31日（月）～ 8月 1日（火）			2日間		
	（B日程）平成18年 8月 7日（月）～ 8月 8日（火）			2日間		
	（第2次）平成18年 8月24日（木）			1日間		
受講人数	4月期計画人数	10人	受講者数	8人	参加率	80.0%
	A日程計画人数	1,300人	受講者数	1,303人	参加率	100.2%
	B日程計画人数	1,300人	受講者数	977人	参加率	75.2%
	第2次計画人数	150人	受講者数	90人	参加率	60.0%
開催場所	ルポール麹町（4月期） 京王プラザホテル（A日程、B日程、第2次）					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	305 73.3	92 22.1	18 4.3	1 0.2	4

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい研修環境の中で研修を受けることができた。 ・面白く、ユーモアを交えながら、日本の教育システムについてふれることができた。 ・パネルディスカッションのスピーカーたちはとても素晴らしく、楽しく日本の外国語教育にふれることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>パネルディスカッション形式を取り入れ、有識者及びALT経験者からより多くの実践的な指導助言を取り入れるように工夫した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を
修得させることを目的とした研修 日程表

月日	時 間	研 修 内 容 等	会 場	備 考
4 月 12 日 (水)		新規来日者 来日		
4 月 13 日 (木)	10:00~10:20	○開会式	ルポール麴町 (麴町会館)	
	10:30~12:00	文部科学省分科会 ○文部科学省担当官による講義 「日本の学校教育制度及び外国語教育の 現状等」 「外国語指導助手の役割とチーム・ティーチング の基本的な考え方」	同「アメジスト」 (3F)	C I R と は、分かれ て実施。
	13:00~14:00	(昼食)		
	14:00~15:55	○日本における中国語教育の現状について ○日本における韓国語教育の現状について ○先輩ALTからの指導助言等 I ○先輩ALTからの指導助言等 II ○質疑応答, 意見交換等 ○担当官によるまとめ		
		○事務連絡 ○取りまとめ団体別ミーティング ○夕食会		
4 月 14 日 (金)		取りまとめ団体別国内移動		

平成18年度 来日直後オリエンテーション 日程

月日 (曜)	時間	項 目			
A 7/30 (日) B 8/ 6 (日)		JET 参加者の来日			
A 7/31 (月) B 8/ 7 (月)	10:00 - 11:00	県別集会 (出席確認・配置先確認、取りまとめ団体別集会の案内)			
	11:00 - 11:15	開 会 式	A 日程	B 日程	
			主催者挨拶	財団法人自治体国際化協会	財団法人自治体国際化協会
			3省代表挨拶	外務省	文部科学省
			主催者紹介	総務省 文部科学省 財団法人自治体国際化協会	総務省 外務省 財団法人自治体国際化協会
	11:15 - 11:40	JET プログラム概要説明 (重要情報)			
	11:40 - 11:45	AJET プレゼンテーション			
	12:00 - 13:00	昼 食			
		ALT 全体会 (教員研修センター主催)		CIR	
	12:00 - 13:00	(全体会担当者の事前打合)		13:00-13:10 日程説明	
	13:00 - 13:30	講演 「日本における英語教育」		13:10-13:40 講演 「CIR の役割」	
	13:30 - 13:40	休憩		13:40-13:50 休憩	
	13:40 - 15:00	パネルプレゼンテーション 「日本の英語教育とALTの役割について」		13:50-14:40 職場別ミーティング 14:40-15:30 全国CIR ネットワーク代表挨拶/ロールプレイ	
	14:30 - 15:30	(小学校訪問活動についての事前打合)			
	15:40 - 16:25	小学校訪問活動について①			
16:35 - 17:20	小学校訪問活動について②				
17:20 ~17:50	(小学校訪問活動についての状況報告)				
15:30 - 16:30	1年目PA 対象カウンセリングシステムの説明 ・ 国籍グループミーティング				
15:40 - 16:25	AJET 分科会 (希望者のみ) ・ AJET アフタヌーン				
16:35 - 17:20					
17:30 - 18:15					
18:30 - 20:00	夕食会 (20:00 頃終了予定)				
A 8/ 1 (火) B 8/ 8 (火)		ALT 分科会 (教員研修センター主催)		CIR	
	8:20 - 9:00	(分科会担当者の事前打合)		09:00-10:00 CIR 分科会 1	
	9:00 - 10:20	分科会① (小学校1 中学校4 高等学校4)		10:00-10:10 休憩	
	10:20 - 10:35	休憩		10:10-11:00 CIR 分科会 2	
	10:35 - 11:55	分科会② (小学校1 中学校4 高等学校4)		11:00-11:10 休憩	
	12:00 ~13:30	(分科会についての状況報告)		11:10-12:00 CIR 分科会 3	
	09:00 - 11:55	A 日程: フランス語分科会 B 日程: ドイツ語分科会			
	12:00 - 13:00	昼 食			
	13:15 - 14:00	CLAIR ワークショップ1 (取りまとめ団体別集会)	CLAIR 分科会 1. 基本事項 ・ ALT のためのJET としての心構え ・ CIR のためのJET としての心構え 2. 職務 ・ 生徒のやる気を誘う教授法 ・ 大人のための会話教室 ・ 日本の学校現場について ・ 小学校訪問 ・ カウンセリングについて~1年目のPA用ワークショップ 3. 日常生活 ・ 日本生活への適応~環境の変化とカルチャーショック ・ 日常生活における日本のエチケット (初心者向け) ・ 日本の地域社会を理解して友達をつくる方法 ・ 日本での運転 ・ 日本になじむ方法、周りの環境とカルチャーショックについて ・ 田舎のJET のためのワークショップ ・ 最初のヶ月 4. 言語 ・ 日本語の独学方法と経緯論 (初級) ・ 日本語の独学方法と経緯論 (中級) 5. 社会・文化 ・ フランス出身のJET フォーラム -Aオリのみ・1日目- ・ ドイツ出身のJET フォーラム -Bオリのみ・1日目- ・ アフリカ系JET のためのワークショップ ・ アジア系JET のためのワークショップ ・ 女性のためのワークショップ ・ 家族連れのためのワークショップ		
	14:15 - 15:00	CLAIR ワークショップ2 (取りまとめ団体別集会)			
	15:15 - 16:00	CLAIR ワークショップ3 (取りまとめ団体別集会)			
	16:15 - 17:00	CLAIR ワークショップ4 (取りまとめ団体別集会)			
	18:00 - 20:00	荷物回収			

平成18年度来日直後(2次日程)オリエンテーション日程

8月23日(水) JET新規招致者来日

8月24日(木)

A L T		C I R		S E A	
9:45~10:00	受付				
10:00~10:15 「錦」	開会式 挨拶 香山 充弘 理事長 三省紹介				
10:20~11:00 「錦」	CLAIR Announcements PC	10:20~11:00 「かえで」	CLAIR Announcements PC	10:20~10:30 「花D」	歓迎あいさつ
11:00~12:30	TOA Presentation TOA	11:00~12:30	TOA Presentation TOA	10:30~10:50	「JETプログラムについて」
12:20~12:30	AJET Information AJET			10:50~11:05	参加者及び協力者の自己紹介
				11:05~11:35	アイスブレイカー
				11:35~12:00	「SEAとしての日本での生活について」
				12:00~12:30	「Settling In」
12:30~13:30	昼食「扇」				
12:00~13:30 13:30~13:45 「錦」	全体会担当者事前打合 歓迎あいさつ	13:30~14:00 「かえで」	「CIRになってみよう!ロー ルプレイ」	13:30~13:45 「花D」	「SEAハンドブ ックについて」
13:45~14:15	基調講演			13:45~14:30	「コーチング用語 について」
14:15~14:25	休憩	14:00~15:30	「職場でのコミ ュニケーション について」	14:30~14:45	休憩
14:25~15:55	講義			14:45~15:45	「SEAの生活」
15:55~16:05	休憩	15:45~16:15	「職場別ディス カッション」	15:45~16:00	休憩
16:05~16:30 16:30~17:00	質疑応答 全体会についての状況 報告	16:15~16:30	AJET Information AJET /質疑応答	16:00~16:30	質疑応答、自由意 見交換
16:40~17:10 「錦」	取りまとめ団体別ミーティング				
18:30~20:00 「扇」	夕食会 挨拶・乾杯発声 外務省 広報文化交流部 人物交流室長 津川 貴久				

8月25日(金) 都道府県別に集合(国内移動)

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（再契約予定者研修会）【A日程】				
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係				
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。				
受 講 対 象	平成18年度に再契約を予定しているALTのうち、再契約が一回目の者。なおA日程の参加区分については下記のとおりとする。 A日程：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県				
開 催 期 日	平成18年 5月25日（木）～平成18年 5月26日（金）			2日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	831
				人	参加率
					※
開 催 場 所	神戸ポートピアホテル				

※計画人数2,000人 受講者数1,655人 参加率82.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	493	125	24	2	0
		76.6	19.4	3.7	0.3	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションにおいて、自分達と日本人の教師が良い関係を築くことが大切であると気づかされた。 ・質疑応答において、受講者が直面している多くの問題に答えられており、問題解決の方法を見つけられたと思う。 ・質疑応答の時間に、他の外国語指導助手の意見を聞くことができてよかった。 ・質疑応答の時間が短かった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>パネルディスカッション形式を取り入れ、有識者及びALT経験者からより多くの実践的な指導助言を取り入れるように工夫した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度外国語指導助手再契約予定者研修会（A日程）

期 日	時 間	内 容		備 考
5 / 25 (木)	9:30~10:40	ワークショップⅠ	〔下記20程度のテーマから各自5テーマを選択〕 1) Working towards a better relationship with your JTE 2) Story and Movement Activ.-Elem. 3) Motivating J/SHS students using free Brit. Coun.on-line resources 4) CALL 5) Intro.Culture into the Classroom 6) Lesson Design 7) Special Needs Education 8) Audio-Visual Aids 9) Realising your Potential 10) Activity Design 11) Global Issues in the Classroom 12) Elementary School Visits 13) Music in the Classroom 14) Teaching at Kindergarten/Pre-sch. 15) Volunteering and Social Activism 16) Classroom Management 17) Workplace Relations 18) Cross-Cultural Communication 19) Drama in the Classroom 20) Life as a Second Year ALT など	
	10:55~12:05	ワークショップⅡ		
	12:10~13:30	(昼 食)		
	13:30~14:40	ワークショップⅢ		
	14:55~16:05	ワークショップⅣ		
	16:20~17:30	ワークショップⅤ		
	18:00~20:00	AJET, 国別, 地域別ミ ーティング		
5 / 26 (金)	9:15~10:45	文部科学省 講演	「JTEとALTとのTeam-Teaching」について	
	11:00~11:45	質疑応答		

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対して必要な知識・指導方法等を修得させることを目的とした研修（再契約予定者研修会）【B日程】							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。							
受 講 対 象	平成18年度に再契約を予定しているALTのうち、再契約が一回目の者。なおB日程の参加区分については下記のとおりとする。 B日程：北海道・青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・岐阜県・愛知県・三重県							
開 催 期 日	平成18年 6月 6日（火）～平成18年 6月 7日（水）			2日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	824	人	参加率	※
開 催 場 所	京王プラザホテル							

※計画人数2,000人 受講者数1,655人 参加率82.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	473	153	13	4	0
		73.6	23.8	2.0	0.6	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい会場で研修を受けることができた。 ・プレゼンテーションでは、これからの学校での授業や生活に役立つものが感じられた。 ・質問の時間を、もう少し確保してほしい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>パネルディスカッション形式を取り入れ、有識者及びALT経験者からより多くの実践的な指導助言を取り入れるように工夫した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度外国語指導助手再契約予定者研修会（B日程）

期 日	時 間	内 容		備 考
6 / 6 (火)	9:30~10:40	ワークショップⅠ	〔下記20程度のテーマから各自5テーマを選択〕 1) Working towards a better relationship with your JTE 2) Story and Movement Activ.-Elem. 3) Motivating J/SHS students using free Brit. Coun.on-line resources 4) CALL 5) Intro.Culture into the Classroom 6) Lesson Design 7) Special Needs Education 8) Audio-Visual Aids 9) Realising your Potential 10) Activity Design 11) Global Issues in the Classroom 12) Elementary School Visits 13) Music in the Classroom 14) Teaching at Kindergarten/Pre-sch. 15) Volunteering and Social Activism 16) Classroom Management 17) Workplace Relations 18) Cross-Cultural Communication 19) Drama in the Classroom 20) Life as a Second Year ALT など	
	10:55~12:05	ワークショップⅡ		
	12:10~13:30	(昼 食)		
	13:30~14:40	ワークショップⅢ		
	14:55~16:05	ワークショップⅣ		
	16:20~17:30	ワークショップⅤ		
	18:00~20:00	AJET, 国別, 地域別ミ ーティング		
6 / 7 (水)	9:15~10:45	文部科学省 講演	「JTEとALTとのTeam-Teaching」について	
	11:00~11:45	質疑応答		

I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修 【管理者用コース】							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	国際化の進展に伴い、外国人児童生徒の増加及び在留の長期化により帰国児童生徒においても日本語指導が必要な児童生徒が増加していることを踏まえ、学校全体での外国人児童生徒の受入れ、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を還元できる者。							
開催期日	平成18年 7月25日（火）～平成18年 7月26日（水）			2日間				
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	53	人	参加率	※
開催場所	タイム24							

※【日本語指導者用コース含】計画人数 110人 受講者数 172人 参加率156.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	21	29	0	0	1
		42.0	58.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 外国人児童生徒に対する日本語指導の一般的あり方や、それぞれの地域の実態に基づいた実践や、都道府県での対応の様子について知ることができ、参考になった。 全国的な取組みの状況を知ることができ、本市での取組みの課題や、目指すべき方向性がより明らかになった。 多様な協議の内容でよい研修ができた。ただ、各協議の後に質疑応答の時間を確保してほしかった。 一つひとつの講義の情報量は多かったが、それぞれの講義等の時間が少し短かったように思う。 県、市町村により実態がかなり異なるため、演習では実態が似ている、あるいは課題を同じくする自治体の集まったグループで検討できるとよいと思う。 演習を増やしていただきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までの受講者数及び実施状況を踏まえ、より受講者のニーズに合った研修カリキュラムとするため、外国人児童生徒教育の専門家によるカリキュラム検討の場を設けた。 この結果、指導主事、学校管理職は、地域・学校の外国人児童生徒支援体制の構築する者であることから、カリキュラムの内容もこれまでの日本語指導法に重点を置いたものではなく、支援体制を構築するためのコースを設け、必要な知識等を修得できるものにした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修
日 程 表

第1日目

7月25日 (火)	10:00	10:30	11:15	12:00	13:00	14:00	14:20	15:20	15:40	17:00
	受 付	開 講 式	両コース共通 課題協議1 外国人児童生徒教育全般 ～現状と課題～ (外国人児童生徒教育の基本的認識など) 明治大学商学部 教授 山脇 啓造	昼 食	両コース共通 課題協議2 「外国人児童生徒の文化的 背景について」 ブラジル等南米系とアジア 系それぞれの文化、日本と の教育意識の違いについて 紹介する 武蔵大学社会学部 専任講師 アンジェロ イシ 日中交流研究所 所長 段躍中	休 憩	両コース共通 課題協議3 「外国人児童生徒の心理について ～適応指導～」 心理的な側面からの児童生徒への 支援のあり方について講義 神戸市看護大学 教授 植本 雅治	休 憩	両コース共通 班別演習1 「各地域における取組みに ついて情報交換」 (指導主事、校長・教頭、 教諭、集住・分散で班分け) 個々に状況を発表し、その 内容に対する質疑応答	

第2日目

7月26日 (水)	9:00	11:30	12:30	13:25	13:35	14:30	14:50	16:45	17:00
	両コース共通 課題協議4 「子どもの第2言語の習得について」 第2言語の習得に関し、言語学からのアプローチ 名古屋外国語大学 教授 中島 和子	昼 食	両コース共通 課題協議5 「受入れ体制の構 築について」 体制の構築につい て市全体の取組を 紹介 神栖市教育委員会 指導課 指導主事 木之内 英一	休 憩	管理者用コース 課題協議6 「学校の受入れ体制の 構築について」 学校の取組について紹 介 新宿区立大久保小学校 校長 長岡 富美子 新宿区立大久保小学校 教諭 善元 幸夫	休 憩	管理者用コース 班別演習2 「関係機関と連携した外国人児童生徒の 受入れ体制の構築について」 神栖市教育委員会指導課 指導主事 木之内 英一 新宿区立大久保小学校 校長 長岡 富美子 新宿区立大久保小学校 教諭 善元 幸夫 独立行政法人国立国語研究所 日本語教育部門第二領域長 野山 広	閉 講 式	
			13:30 13:50		日本語指導者用コース 日本語初期指導コース 課題協議5 「子どもたちに必要 なサポートとは」 (生活習慣、教科学 習のつまずき等) 港区立弁小学校 教諭 花島 健司		休 憩	日本語初期指導コース 課題協議6 「日本語指導とは何か」 (語彙、文法指導等) 神戸大学留学生センター 教授 水野 マリ子	
			教科指導実践コース 課題協議5 「JSLカリキュラムについて～ 基本的考え方～」 国立大学法人東京学芸大学教育学部 助教授 齋藤 ひろみ		休 憩	教科指導実践コース 班別演習2 「JSLカリキュラムについて～ 基本的考え方～」 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 広島市立東浄小学校非常勤講師 須藤 とみ糸 国立大学法人東京学芸大学教育学部 助教授 齋藤 ひろみ 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦 国立大学法人東京学芸大学教育学部 附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫			

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修 【日本語指導者用コース《初期指導コース・教科指導実践コース》】				
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係				
研 修 目 的	国際化の進展に伴い、外国人児童生徒の増加及び在留の長期化により帰国児童生徒においても日本語指導が必要な児童生徒が増加していることを踏まえ、学校全体での外国人児童生徒の受入れ、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。				
受 講 対 象	外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校等の教諭等であって、各地域・学校において本研修の成果を還元できる者。				
開 催 期 日	平成18年 7月25日（火）～平成18年 7月28日（金）			4日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	参加率
				119 初期:82 教科:37	※
開 催 場 所	タイム24				

※【管理者用コース含】計画人数 110人 受講者数 172人 参加率 156.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	55	48	2	0	9
		52.4	45.7	1.9	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

- ・講師の先生方がすばらしく、大変勉強になった。
- ・内容が多岐に渡り、消化しきれないと感じた。内容を精選しても良いのではないかと思った。
- ・講師の先生方から専門的な理論に基づいた話を聞かせて頂き、今まで何となく自分で思っていたことがはっきりした。
- ・1日目・2日目がほとんど座る講義形式で集中できなかった。
- ・初期指導の模擬授業もしてほしかった。
- ・具体的な実践例や教材などをもっと知りたかった。
- ・全体的に小学校対象の内容が多かったため、中学校での事例をもっと知りたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

- ・昨年度までの受講者数及び実施状況を踏まえ、より受講者のニーズに合った研修カリキュラムとするため、外国人児童生徒教育の専門家（民間含む）によるカリキュラム検討の場を設けた。
- ・この結果、この研修を受講する日本語指導担当教諭には、主に日本語指導、生活指導等についての指導者として必要な知識等を修得させることとし、「日本語指導者用コース」を設けた。このコースでは、受講者の状況に応じた日本語指導の理論、指導法を修得させるために「日本語初期指導コース」と「教科指導実践コース」の2つに分けた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導のための指導者の養成を目的とした研修
日 程 表

第1日目

7月25日 (火)	10:00	10:30	11:15	12:00	13:00	14:00	14:20	15:20	15:40	17:00
	受 付	開 講 式	両コース共通 課題協議1 外国人児童生徒教育全般 ～現状と課題～ (外国人児童生徒教育の基本的認識など) 明治大学商学部 教授 山脇 啓造	昼 食	両コース共通 課題協議2 「外国人児童生徒の文化的 背景について」 ブラジル等南米系とアジア 系それぞれの文化、日本と の教育意識の違いについて 紹介する 武蔵大学社会学部 専任講師 アンジェロ イシ 日中交流研究所 所長 段躍中	休 憩	両コース共通 課題協議3 「外国人児童生徒の心理について ～適応指導～」 心理的な側面からの児童生徒への 支援のあり方について講義 神戸市看護大学 教授 植本 雅治	休 憩	両コース共通 班別演習1 「各地域における取組みに ついて情報交換」 (指導主事、校長・教頭、 教諭、集住・分散で班分け) 個々に状況を発表し、その 内容に対する質疑応答	

第2日目

7月26日 (水)	9:00	11:30	12:30	13:25	13:35	14:30	14:50	16:45	17:00
	両コース共通 課題協議4 「子どもの第2言語の習得について」 第2言語の習得に関し、言語学からのアプローチ 名古屋外国語大学 教授 中島 和子	昼 食	両コース共通 課題協議5 「受入れ体制の構 築について」 体制の構築につい て市全体の取組を 紹介 神栖市教育委員会 指導課 指導主事 木之内 英一	休 憩	管理者用コース 課題協議6 「学校の受入れ体制の 構築について」 学校の取組について紹 介 新宿区立大久保小学校 校長 長岡 富美子 新宿区立大久保小学校 教諭 善元 幸夫	休 憩	管理者用コース 班別演習2 「関係機関と連携した外国人児童生徒の 受入れ体制の構築について」 神栖市教育委員会指導課 指導主事 木之内 英一 新宿区立大久保小学校 校長 長岡 富美子 新宿区立大久保小学校 教諭 善元 幸夫 独立行政法人国立国語研究所 日本語教育部門第二領域長 野山 広	閉 講 式	
			13:30 13:50		日本語指導者用コース 課題協議5 「子どもたちに必要 なサポートとは」 (生活習慣、教科学 習のつまずき等) 港区立弁小学校 教諭 花島 健司		休 憩	日本語指導者用コース 課題協議6 「日本語指導とは何か」 (語彙、文法指導等) 神戸大学留学生センター 教授 水野 マリ子	
			教科指導実践コース 課題協議5 「JSLカリキュラムについて～ 基本的考え方～」 国立大学法人東京学芸大学教育学部 助教授 齋藤 ひろみ		休 憩	教科指導実践コース 班別演習2 「JSLカリキュラムについて～ 基本的考え方～」 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 広島市立東浄小学校非常勤講師 須藤 とみ糸 国立大学法人東京学芸大学教育学部 助教授 齋藤 ひろみ 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦 国立大学法人東京学芸大学教育学部 附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫			

第3日目

7月27日 (木)	9:00	10:30	10:50	12:00	13:00	17:00	
	日本語初期指導コース 課題協議7 「年少者の日本語指導で工夫が必要なもの」 早稲田大学大学院 日本語教育研究科 助教授 池上 摩希子		休	日本語初期指導コース 班別演習2 「指導案作成と模擬授業（初期レベルの教え方）」 大阪市立南中学校 教諭 田中 薫 国立大学法人静岡大学教育学部 講師 矢崎 満夫 浜松市外国人子ども教育支援 協議会 事務局長 田中 恵子 金沢市立緑小学校 教諭 三田村 恵子			昼 食
教科指導実践コース 班別演習3 「JSLカリキュラムの実践」 教科志向型の指導案作りと模擬授業 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 広島市立東浄小学校非常勤講師 須藤 とみゑ 国立大学法人東京学芸大学教育学部 助教授 齋藤 ひろみ 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦 国立大学法人東京学芸大学教育学部 附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫		教科指導実践コース 班別演習4 「JSLカリキュラムの実践」 教科志向型指導案作りと模擬授業 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 広島市立東浄小学校非常勤講師 須藤 とみゑ 国立大学法人東京学芸大学教育学部 助教授 齋藤 ひろみ 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦 国立大学法人東京学芸大学教育学部 附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫					

第4日目

7月28日 (金)	9:00	10:30	10:50	12:00	13:00	14:30	14:45
	日本語初期指導コース 課題協議8 JSLカリキュラムの概要について 京都市立池田小学校 講師 大菅 佐妃子		休	日本語指導者両コース共通 研究協議1 「JSLカリキュラム模擬授業」 教科指導実践コースの中から 模擬授業してもらう。 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 国立大学法人東京学芸大学 教育学部 助教授 齋藤 ひろみ 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦 国立大学法人東京学芸大学 教育学部附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫		昼 食	閉 講 式
教科指導実践コース 班別演習5 「JSLカリキュラムの実践」 教科志向型指導案作りと模擬 授業 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 国立大学法人東京学芸大学 教育学部 助教授 齋藤 ひろみ 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦 国立大学法人東京学芸大学 教育学部附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫		日本語指導者両コース共通 研究協議2 質疑応答 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 国立大学法人東京学芸大学 教育学部 助教授 齋藤 ひろみ 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦 国立大学法人 東京学芸大学教育学部 附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫					

I 研修概要

研 修 名	児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修							
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において児童生徒の心身の健康問題を担当する指導主事及び養護教諭等に対し、保健室登校、性の逸脱行動、薬物乱用等の課題への対応及び健康相談活動等について、必要な知識や技術の修得を図るとともに、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の養護教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修での講師等の活動を行う予定である者等							
開 催 期 日	平成18年11月27日（月）～平成18年11月30日（木）				4日間			
受 講 人 数	計画人数	220	人	受講者数	225	人	参加率	102.3%
開 催 場 所	国立オリンピック記念青少年総合センター							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	112	56.6	84	42.4	2	1.0	0	0.0	17

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・喫緊の課題に対応する研修内容であり、有意義な研修であった。 ・指導案の検討では、長時間かけてじっくり演習に取り組むことができよかった。 ・健康相談活動の演習でとりあげたサイコドラマが大変勉強になった。 ・性教育に関する取り組みが非常に参考になった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・内容を厳選し、喫緊の課題である「性教育」、「児童虐待」、「発達障害」を重点的に取り上げた。 ・研修講師としての知識を深められるよう、課題ごとの演習時間を増やした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修 日程一覧

11月27日 月	10:15	10:30	12:00	13:00	17:00
	受付		開講式	演習1 「健康教育の進め方と実際」 ～学校・家庭・地域との連携～ 文部科学省スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女智津江	演習2 「学校における性教育の課題と対応」 京都大学 助教授 木原雅子
会場 国立オリンピック記念青少年センター(国際交流棟国際会議室)					

11月28日 火	9:00	10:00	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00
	演習3 「児童虐待への対応」 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 総務課虐待防止対策室 来生奈巳子		宮城県子ども総合センター所長 本間博彰		演習4 「特別支援教育の理解と対応」 文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 特殊教育調査官 丹羽 登	演習5 「発達障害の早期発見と支援」 京都大学 教授 十一元三	昼食・休憩
会場 国立オリンピック記念青少年センター							

(Aコース) 総合研修

11月29日 水	9:00	12:00	13:00	17:00
	演習A-6-① 「現代的な健康課題へ対応するための保健教育の進め方」 ①心の健康 文部科学省スポーツ・青少年局健康教育調査官 采女智津江 千葉大学 教授 高橋浩之 ②喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育 文部科学省スポーツ・青少年局教科調査官 今関豊一 朝倉市立南陵中学校 教諭 坂井満 ③性教育・エイズ教育 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田芳雄		演習A-6-② 「現代的な健康課題へ対応するための保健教育の進め方」 ①心の健康 文部科学省スポーツ・青少年局健康教育調査官 采女智津江 千葉大学 教授 高橋浩之 ②喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育 文部科学省スポーツ・青少年局教科調査官 今関豊一 朝倉市立南陵中学校 教諭 坂井満 ③性教育・エイズ教育 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田芳雄	
会場 国立オリンピック記念青少年センター				

11月30日 木	9:00	12:00	13:00	14:00	閉講式	※「研修講師となるために～研修を振り返る～」はA B両コース共通で行います。
	演習A-6-③ 「現代的な健康課題へ対応するための保健教育の進め方」 ①心の健康 文部科学省スポーツ・青少年局健康教育調査官 采女智津江 千葉大学 教授 高橋浩之 ②喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育 文部科学省スポーツ・青少年局教科調査官 今関豊一 朝倉市立南陵中学校 教諭 坂井満 ③性教育・エイズ教育 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田芳雄		※ 研修講師となるために ～研修を振り返る～			
会場 国立オリンピック記念青少年センター						

(Bコース) 健康相談活動研修

11月29日 水	9:00	12:00	13:00	17:00
	演習B-6 「学校教育におけるカウンセリングの活用」 兵庫教育大学学校教育研修センター 教授 古川雅文		演習B-7 「健康相談活動演習」 B1: 世田谷区立砦南中学校 養護教諭 中村泰子 B2: 埼玉県川口市立南中学校 養護教諭 村木久美江 B3: 高知県土佐市立新居小学校 養護教諭 中野靖子 B4: 福島県立磐城桜が丘高等学校 養護教諭 笹原和子	
会場 国立オリンピック記念青少年センター				

11月30日 木	9:00	12:00	13:00	14:00	閉講式	※「研修講師となるために～研修を振り返る～」はA B両コース共通で行います。
	演習B-8 「健康相談活動の事例研究の進め方」 小学校部会 神戸大学医学部附属病院 田中究 <司会> 群馬県教育委員会 指導主事 高橋慶子		中学校部会 東京福祉大学 特任教授 鳥山初江 <司会> 島根県教育委員会 指導主事 荊尾玲子			
会場 国立オリンピック記念青少年センター						

I 研修概要

研 修 名	健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修					
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係					
研 修 目 的	喫煙、飲酒、薬物乱用の低年齢化、エイズや感染症の増加、アレルギー疾患の増加等課題となっている中で、児童生徒の健康に関する主要課題への理解と適切な対応が求められていることを踏まえ、学校での健康教育の全体計画の作成、各課題への適切な対応と指導等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭、保健主事及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成18年10月30日（月）～平成18年11月 1日（水）			3日間		
受 講 人 数	計画人数	220 人	受講者数	188 人	参加率	85.5%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	82 45.8	93 52.0	4 2.2	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法の基本を再認識できた。 ・小・中・高の連携の大切さを認識した。 ・指導助言がとても理解しやすく、今後の指導に活用できる内容であった。 ・参加者同士の意見交換や、小・中・高の状況も考えながらの研修ができ有意義であった。 ・充実した研修内容でした。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・演習内容を深められるよう、演習時間を増やした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修 日程表

会場：教員研修センター（つくば本部）

		9:30	10:00	10:10	11:10	12:00	13:00	17:00
10月30日（月）	受付		開会式	<p>講義・演習1 「健康に関する喫緊の課題についての現状と審議会の経過報告の概要」</p> <p>文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 鬼頭英明</p> <p>教科調査官 今関豊一</p>	<p>講義・演習2 「健康に関する喫緊の課題に対応した保健学習の在り方と授業づくり」</p> <p>鬼頭英明 今関豊一</p> <p>※部会別（課題別） 和唐正勝 森 良一 西岡伸紀 杉山正明 渡邊正樹 青木孝子 野津有司 長岡佳孝</p>	<p>昼食・休憩</p>	<p>演習1-1 「健康に関する喫緊の課題に対応した保健学習の在り方と授業づくり」</p> <p>※部会別（課題別）</p> <p>【性教育・エイズ教育】 新潟医療福祉大学 教授 和唐正勝 栃木県教育委員会健康福利課 指導主事 森 良一</p> <p>【心の健康】 兵庫教育大学 教授 西岡伸紀 東京都立田園調布高等学校 教諭 杉山正明</p> <p>【感染症】 東京学芸大学 教授 渡邊正樹 葛飾区立堀切中学校 副校長 青木孝子</p> <p>【喫煙、飲酒、薬物乱用】 筑波大学 助教授 野津有司 山形県教育庁スポーツ保健課 課長補佐 長岡佳孝</p> <p>【共通】 文部科学省スポーツ・青少年局健康教育調査官 鬼頭英明 文部科学省スポーツ・青少年局教科調査官 今関豊一</p>	

		8:30	11:30	12:30	15:00	15:20	17:00
10月31日（火）	受付	<p>演習1-2 「健康に関する喫緊の課題に対応した保健学習の在り方と授業づくり」</p> <p>※部会別（課題別）</p> <p>【性教育・エイズ教育】 新潟医療福祉大学 教授 和唐正勝 栃木県教育委員会健康福利課 指導主事 森 良一</p> <p>【心の健康】 兵庫教育大学 教授 西岡伸紀 東京都立田園調布高等学校 教諭 杉山正明</p> <p>【感染症】 東京学芸大学 教授 渡邊正樹 葛飾区立堀切中学校 副校長 青木孝子</p> <p>【喫煙、飲酒、薬物乱用】 筑波大学 助教授 野津有司 山形県教育庁スポーツ保健課 課長補佐 長岡佳孝</p> <p>【共通】 文部科学省スポーツ・青少年局健康教育調査官 鬼頭英明 文部科学省スポーツ・青少年局教科調査官 今関豊一</p>	<p>演習2 健康に関する喫緊の課題に対応した保健学習 課題別模擬授業」</p> <p>※部会別（課題別）</p> <p>【性教育・エイズ教育】 新潟医療福祉大学 教授 和唐正勝 栃木県教育委員会健康福利課 指導主事 森 良一</p> <p>【心の健康】 兵庫教育大学 教授 西岡伸紀 東京都立田園調布高等学校 教諭 杉山正明</p> <p>【感染症】 東京学芸大学 教授 渡邊正樹 葛飾区立堀切中学校 副校長 青木孝子</p> <p>【喫煙、飲酒、薬物乱用】 筑波大学 助教授 野津有司 山形県教育庁スポーツ保健課 課長補佐 長岡佳孝</p> <p>【共通】 文部科学省スポーツ・青少年局健康教育調査官 鬼頭英明 文部科学省スポーツ・青少年局教科調査官 今関豊一 文部科学省初等中等教育局教科調査官 奥田浩嗣</p>	<p>演習3 「特別活動等における指導との関連の在り方」</p> <p>※部会別（課題別）</p> <p>【性教育・エイズ教育】 和唐正勝 森 良一</p> <p>【心の健康】 西岡伸紀 杉山正明</p> <p>【感染症】 渡邊正樹 青木孝子</p> <p>【喫煙、飲酒、薬物乱用】 野津有司 長岡佳孝</p> <p>【共通】 鬼頭英明 今関豊一</p>	<p>昼食・休憩</p>	<p>休憩</p>	

		9:00	12:00	13:00	14:00
11月1日（水）	受付	<p>演習4 「健康に関する喫緊の課題に対応した保健学習の模擬授業」</p> <p>※部会別（学校種別）</p> <p>【小学校】 【中学校】 【高等学校】</p> <p>新潟医療福祉大学 教授 和唐正勝 東京学芸大学 教授 渡邊正樹 筑波大学 助教授 野津有司 栃木県教育委員会健康福利課 指導主事 森 良一 東京都立田園調布高等学校 教諭 杉山正明 葛飾区立堀切中学校 副校長 青木孝子 山形県教育庁スポーツ保健課 課長補佐 長岡佳孝</p> <p>文部科学省スポーツ・青少年局健康教育調査官 鬼頭英明 文部科学省スポーツ・青少年局教科調査官 今関豊一 文部科学省スポーツ・青少年局健康教育調査官 采女智津江</p>	<p>演習5 「研修講師となるために」</p> <p>文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 鬼頭英明</p>	<p>昼食・休憩</p>	<p>閉会</p>

I 研修概要

研 修 名	食の指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修(Aコース)					
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係					
研 修 目 的	栄養教諭制度の創設を踏まえ、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う					
受 講 対 象	本研修の参加者は、本研修受講後に各地域で食に関する指導についての研修の企画立案・実施、当該研修での講師等の活動を行うことが予定される者で、下記のいずれかに該当する者とする。 ア都道府県、指定都市、中核市教育委員会の食に関する指導を担当する者（指導主事、学校栄養職員経験者等） イ都道府県、指定都市、中核市教育委員会の教育センターにおいて食に関する指導についての研修等を担当する指導主事等 ウ校長、教諭、学校栄養職員で各地域の食に関する指導についての研修の講師等の活動が予定されている者 エその他上記ア～ウに準ずる者（例：各地域の大学教員で食に関する指導についての研修の講師等の活動を行うことが予定される者）					
開 催 期 日	平成18年 6月19日（月）～平成18年 6月22日（木）				4日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	153	人
				参加率	※	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

※計画人数 170人 受講者数202人 参加率118.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	93	46	0	0	10
		66.9	33.1	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・他県の方や立場の違う方の話を聞いたり、一緒に演習して行く中で、自分の視野が広がりました。 ・時間をかけて演習に取り組み、それと一体化した講義があり充実していました。 ・実践を踏まえた研修会で有意義だった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省で作成中の手引きの主旨・内容を反映できるよう、研修の実施方法を工夫した。 ・学校での食育の組織的・計画的な推進を図るため、他の教職員や家庭・地域との連絡・調整等を行う栄養教諭の専門性を高める指導者を養成するコースを設けた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 食の指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修(Aコース)

6 月 19 日 (月)		10:00	10:45	11:20	12:00	13:00	14:00	14:15	17:00
	受 付	開 会 式	オ リ エン テー シ ョ	講義1 「学校における食育の推進と 栄養教諭の役割」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 田中 延子	昼 食 ・ 憩	休 憩	事例発表 食に関する指導の充実のための 指導者の養成を目的とした 研修調査研究海外派遣団報 告 岩手県教育委員会 スポーツ健康課 技師 大石 祥子	休 憩	演習1 「給食指導の在り方」 富山県教育委員会福利保健課 指導主事 太田 裕美子 札幌市立北園小学校 学校栄養職員 向井 ひとみ
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば)									

6 月 20 日 (火)		9:00		12:00	13:00		14:50	15:00	17:00
	受 付	演習2 「学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成」 岐阜大学 教授 北 俊夫	昼 食 ・ 憩	休 憩	講義2 「<食に関する指導> 各教科における食に関する指導のポイント」 生活科 上越教育大学 木村助教授 理科 教育課程調査官 社会科 梶井室長	休 憩	演習3-① 「<食に関する指導> 生活科、理科、社会科における食に関する 指導の検討①」 生活科:木村助教授 理科:教育課程調査官 社会科:梶井室長		
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば)									

6 月 21 日 (水)		9:00		12:00	13:00		14:50	15:00	17:00
	受 付	演習3-② 「<食に関する指導> 生活科、理科、社会科における食に関する指導の検討②」 生活科:木村助教授 理科:教育課程調査官 社会科:梶井室長	昼 食 ・ 憩	休 憩	演習3-③ 「<食に関する指導> 生活科、理科、社会科における食に関する 指導の検討③」 生活科:木村助教授 理科:教育課程調査官 社会科:梶井室長	休 憩	演習4 「<食に関する指導> 生活科、理科、社会科における 食に関する指導 班別模擬授業」 生活科:木村助教授 理科:教育課程調査官 社会科:梶井室長		
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば)									

6 月 22 日 (木)		9:00	10:45	11:00	12:00	13:00	14:30		
	受 付	演習5-① 「<食に関する指導> 生活科、社会科、理科 の時間などの模擬授業①」 生活科:田村調査官 理科:教育課程調査官 社会科:梶井室長	休 憩	演習5-② 「<食に関する指導> 生活科、社会科、理科 の時間などの模擬授業②」 生活科:田村調査官 理科:教育課程調査官 社会科:梶井室長	昼 食 ・ 憩	休 憩	演習6 「研修講師となるために」 生活科、理科、社会科における 指導のポイントをふりかえる 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課食育調査官 森泉 哲也	開 会 式	
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば)									

各教科を担当する講師

生活科
 上越教育大学 助教授 木村吉彦
 国立教育政策研究所 教育課程調査官 田村学

理科
 国立教育政策研究所 教育課程調査官 日置光久
 国立教育政策研究所 教育課程調査官 田代直幸

社会科
 (財)初等教育研究所 室長 梶井貢

I 研修概要

研 修 名	食の指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修(Bコース)					
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係					
研 修 目 的	栄養教諭制度の創設を踏まえ、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う					
受 講 対 象	栄養教諭であって、各地域で本研修を踏まえた研修等を行う予定である者					
開 催 期 日	平成18年 8月21日 (月)～平成18年 8月24日 (木)				4日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	49	人
				参加率	※	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

※計画人数 170人 受講者数202人 参加率118.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	39	9	0	0	0
		81.3	18.8	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地の栄養教諭と交流を持つことができ、有意義でした。 ・栄養教諭としてどのように責務を果たし成果を得ることができるのかの方法が見えてきたように思えます。 ・高いレベルの中、より専門的に研修ができてとてもよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省で作成中の手引きの主旨・内容を反映できるよう、研修の実施方法を工夫した。 ・学校での食育の組織的・計画的な推進を図るため、他の教職員や家庭・地域との連絡・調整等を行う栄養教諭の専門性を高める指導者を養成するコースを設けた。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 食の指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修（Bコース）

8月21日（月）	10:00	10:45	11:20	12:00	13:00	14:00	14:15	17:00
		受付	開会式	オリエンテーション	講義1 「栄養教諭の職務」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 田中延子	昼食	演習1 「学校給食管理の在り方」 文部科学省 学校健康教育課 学校給食調査官 田中延子	休演習2 「食物アレルギー・肥満傾向などの個別指導の在り方」 東京女子医科大学 名誉教授 村田光範 高知県香美市立大師小学校 栄養教諭 森本ちづ
会場 独立行政法人教員研修センター（つくば）								

8月22日（火）	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
	受付	演習3 「給食指導の在り方」 熊本県教育委員会義務教育課 参事 守田真里子 富山県教育委員会福利保健課 指導主事 太田裕美子	休憩	研究協議1-① 「栄養教諭の職務の現状と課題」 ～学校内の教職員との連携、家庭や地域社会との連携を考える～	昼食	研究協議1-② 「栄養教諭の職務の現状と課題」～学校の連携、家庭や地域社会との連携を考える～	休憩	演習4 「学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成」 岐阜大学 教授 北俊夫
会場 独立行政法人教員研修センター（つくば）								

8月23日（水）	9:00	11:00	11:15	12:00	13:00	14:30	17:00	
	受付	講義2 「<食>に関する指導」 各教科における食に関する指導のポイント」 生活科・総合的な学習の時間 国研 田村調査官 伏見指導主事 家庭科 国研 望月調査官 伏見指導主事 体育科(保健領域) 国研 今関調査官	休憩	演習5-① 「<食>に関する指導」 生活科・総合的な学習の時間、家庭科、体育科(保健領域)における食に関する指導の検討①」	昼食	演習5-② 「<食>に関する指導」 生活科・総合的な学習の時間、家庭科、体育科(保健領域)における食に関する指導の検討②」 生活科・総合的な学習の時間：田村調査官 家庭科：望月調査官、伏見指導主事 体育科(保健領域)：今関調査官	休	
会場 独立行政法人教員研修センター（つくば）								

8月24日（木）	9:00	12:00	13:00	14:30	17:00
	受付	演習6 「<食>に関する指導」 生活科・総合的な学習の時間、家庭科、体育(保健領域)の模擬授業」 生活科・総合的な学習の時間：田村調査官 家庭科：望月調査官、伏見指導主事 体育科(保健領域)：今関調査官	昼食	演習7 「研修講師となるために」 ～学校給食の「生きた教材」としての活用を目指して～ 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課食育調査官 森泉 哲也	閉会式
会場 独立行政法人教員研修センター（つくば）					

各教科を担当する講師
生活科・総合的な学習の時間
国立教育政策研究所 教育課程調査官 田村学
家庭科
国立教育政策研究所 教育課程調査官 望月昌代
群馬県総合教育センター 指導主事 伏見和枝
体育科(保健領域)
国立教育政策研究所 教育課程調査官 今関豊一

I 研修概要

研 修 名	各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修							
担 当 課 係	教育課題研修課 健康教育研修係							
研 修 目 的	各学校における交通安全教育、防犯教育及び防災教育・災害時の心の健康に関する教員等の研修を行い、安全教育指導者の資質の向上を図り、もって学校安全の充実に資するように、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特殊教育諸学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成18年 5月29日（月）～平成18年 6月 2日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	220	人	受講者数	188	人	参加率	85.5%
開 催 場 所	国立オリンピック記念青少年総合センター ほか							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	52	83	3	1	22
		37.4	59.7	2.2	0.7	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・多方面から知識を得られ、全体像はわかるが、深く知ることができなかった。 ・研究協議の時間が不足していた。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な知識を身につけることができる研修であったが、各地域の実情に応じた安全研修の立案ができる力を身につけるまでにはいたらなかった。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度各地域における学校安全の基盤となる指導者の養成を目的とした研修日程一覧

	会場	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:50	16:00	17:00		
5月29日(月)	全 体 会 議 室	国際 交 流 棟	受 付	開 会 式	講義・演習 「学校における安全教育・安全管理の 考え方、進め方」 前文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄	星 ・ 休 食 ・ 休 ・ 食 ・ 休	講義・演習 「学校における安全管理の方法」 ～学校への不審者侵入と子どもの犯罪被害防止を中心に～ 関西福祉科学大学 教授 南 哲	休 ・ 休 ・ 休	演習 「学校への不審者侵入時の対応の方法」 ～学校における危機管理マニュアルの作成と 防犯避難訓練実施のポイント～ 島根県出雲市立檜山小学校 校長 木 次 勝 義		
5月30日(火)	全 体 会 議 室	五本木 黒区立 小学校	受 付	講義・演習 「事件・事故時における 子どもの心の健康」 宮城県子ども 総合センター 所長 本間 博彰	休 ・ 休 ・ 休	演習 「防犯避難訓練の計画と実施」 目黒区立五本木小学校 校長 小林 元 子 協力 目黒警察署	星 ・ 休 食 ・ 休 ・ 食 ・ 休	講義・演習(実技) 「事件・事故時の応急手当 ～止血法・心肺蘇生法等～」 日本赤十字社東京都支部 救急指導員	17:00		
5月31日(水)	部 会	幼 小 中 高	国際 交 流 棟 7 4 0 5	受 付	講義・演習 <幼稚園・小学校部会> 「危険予測学習の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 教育推進室長 石 毛 昭 治 主幹 成 迫 俊 美 幹事 櫻 井 洋 行 演習 <中学校部会> 「危険予測学習の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石 井 征 之 指導主事 大 石 進 演習(実技) <高等学校部会> 「二輪車の特性と安全指導」 日本大学 教授 岡 野 道 治 (社)全国二輪車安全普及協会 指導員	星 ・ 休 食 ・ 休 ・ 食 ・ 休	演習(実技) 「自転車の特性と実技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 教育推進室長 石 毛 昭 治、 主幹 石 井 征 之、主幹 成 迫 俊 美 (財)日本サイクリング協会 業務第一部 次長 小 林 博 他 指導員7名 教育推進室長 石 毛 昭 治 演習(実技) 「二輪車の特性と安全指導」 日本大学 教授 岡 野 道 治 (社)全国二輪車安全普及協会 指導員 演習 「自転車の実技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 亀 田 清 人	15:00 15:15 16:00	演習(協議) 「自転車の特性と 実技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会	17:00	
6月1日(木)	全 体 会 議 室	西 新 宿 ホ ー ル	受 付	講義・演習 「判例に見る学校事故の 責任と補償」 千葉大学大学院 教授 小野賀 晶一	休 ・ 休 ・ 休	講義・演習 「気象災害による災害の危険と安全確保の方法」 NHK放送用語委員会 専門委員 宮 澤 清 治	星 ・ 休 食 ・ 休 ・ 食 ・ 休	講義・演習 「総合的な学習の時間における安全 (防犯・防災)教育の進め方」 鳴門教育大学 教授 村 川 雅 弘	休 ・ 休 ・ 休	講義・演習 「地震による災害の危険と安全確保の方法」 日本大学文理学部 助教授 中 森 広 道	17:00
6月2日(金)	部 会	幼 稚 園 小 学 校 中 学 校 高 等 学 校 心 の ケ ア	8 0 0 B 2 ホ ー ル 3 0 1 2 0 1 3 0 2	受 付	研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 講師：文部科学省 幼児教育調査官 湯川秀樹 ：江東区立なでしこ幼稚園 園長 原本憲子 防犯・生活安全：東京都港区立芝浦幼稚園 園長 橋本道子 交通安全：高知県立文学園あきた幼稚園 教頭 野村貞夫 災害安全(防災)：岡山県赤松市立山陽北幼稚園 園長 岡本美枝 研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 講師：東京学芸大学 渡邊正樹教授 ：真庭市立中津井小学校 校長 坂根清貴 防犯・生活安全：栃木県那須塩原市立東原小学校 教諭 島山正敏 交通安全：広島県尾道市立田柳小学校 校長 大下恵美子 災害安全(防災)：徳島県阿南市立橋小学校 教諭 枝川弘明 研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 講師：順正短期大学 講師 中衛伸二 ：東京都教育庁 総括指導主事 石田 周 防犯・生活安全：百鬼園宮崎市立百崎中学校 教諭 久野晋章 交通安全：山梨県甲斐市立双葉中学校 教諭 渡辺 弘 災害安全(防災)：愛媛県愛南町立中浦中学校 教諭 山岡一孝 研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での安全教育の進め方」 講師：東京福祉大学 齋藤敬徳 ：埼玉県教育庁 指導主事 山本美苗 防犯・生活安全：山形県立天童高等学校 教諭 安食健一 交通安全：岡山県立久世高等学校 教諭 前田竜一 災害安全(防災)：静岡県立浜松湖東高等学校 教諭 高橋久仁 研究発表・研究協議 「家庭・地域社会と連携した学校での心のケアの進め方」 講師：国立療養所神原病院 病院長 長尾圭造 ：兵庫大学 非常勤講師 大橋郁代 小学校：新潟県長岡市立浦郷小学校 養護教諭 大野英子 中学校：滋賀県長浜市立びわ中学校 養護教諭 西嶋茂子 高等学校：岡山県立岡山城東高等学校 養護教諭 田村裕子	星 ・ 休 食 ・ 休 ・ 食 ・ 休	演習 「研修講師となるために」 講師 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼稚園運営支援室 幼児教育調査官 湯川秀樹 東京都江東区立なでしこ幼稚園 園長 原本憲子 演習 「研修講師となるために」 講師 東京学芸大学 教授 渡邊正樹 岡山県真庭市立中津井小学校 校長 坂根清貴 演習 「研修講師となるために」 講師 順正短期大学 講師 中衛伸二 東京都教育庁指導企画課 総括指導主事 石田 周 演習 「研修講師となるために」 講師 東京福祉大学 教授 齋藤敬徳 埼玉県教育庁健康教育課 指導主事 山本美苗 演習 「研修講師となるために」 講師 三重県国立療養所神原病院 病院長 長尾圭造 兵庫大学 非常勤講師 大橋郁代	13:30 15:00	閉 会 閉 会 閉 会 閉 会		

I 研修概要

研修名	産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修 (教職員派遣研修(産業教育及び理科教育))					
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、産業教育・理科教育に関して優れた自主的調査研究課題を有する者について、大学又は産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。					
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員					
開催期日	年間を通して(3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月)	-				
受講人数	計画人数	155人	受講者数	103人	参加率	66.5%
開催場所	北海道大学 他					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	76	12	0	0	0
		86.4	13.6	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い見識を得ることによって生徒への指導に役立つ。大学教授とのコミュニケーションで得た、大学最新情報を先生方へ研修会等で還元できる。ものづくりへのこだわりや技能の裏付けとしての技術修得への取り組む姿勢を若い先生方へ見せることができると考えられる。 ・日頃じっくりできない実験などについて教材研究をすることができた。現場での経験をもとにして、生徒の反応を予想しながらどんな工夫があれば良いだろうか・・・と考えを深めるためにはとても有意義な時間だった。 ・自分自身のスキルアップを図りながら、目的とする教材を開発でき、大変有意義な研修となりました。「工業への学習意欲を引き出す啓発的物づくり教材」を今回研修しましたが、教育現場において有効に実践したいと考えます。 ・専門科目についてじっくり学び、考えることで新しい専門の知識を得ることができました。このことで、生徒に伝えたい内容をより現状に即した物にすることができたとおもっています。また、職務から少し離れ、教育のあり方について考えることもできましたので、職務では、より冷静な判断をとることができるようになったのではないかと考えています。 ・最先端の技術を学ぶことにより、専門分野の知識を更に深めることができた。このことにより、教科指導特に実験、実習の内容の充実が図れる。また、課題研究などを通じて取り組んでいるものづくりのテーマを見つけることができ、今後の指導に必ず役に立つと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

・各都道府県等への受講者推薦依頼時期を早くした。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 産業教育, 理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元		派遣先		
			所 属	派 遣 先	派 遣 時 期	期間	
1	北海道	1	北海道旭川西高等学校	国立大学法人 北海道大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
2	青森県	1	青森県立むつ工業高等学校	国立大学法人 弘前大学	平成18年11月1日 ~ 平成19年1月31日	3ヶ月	
3	岩手県	2	岩手県立水沢高等学校	国立大学法人 岩手大学	平成18年10月1日 ~ 平成18年12月28日	3ヶ月	
4			北上市立飯豊中学校	国立大学法人 岩手大学	平成18年9月1日 ~ 平成18年11月30日	3ヶ月	
5	宮城県	3	白石市立白石中学校	国立大学法人 東北大学大学院	平成18年9月1日 ~ 平成19年2月28日	6ヶ月	
6			宮城県工業高等学校	国立大学法人 東北大学大学院	平成18年9月1日 ~ 平成19年2月28日	6ヶ月	
7			宮城県水産高等学校	国立大学法人 東北大学大学院	平成18年9月1日 ~ 平成19年2月28日	6ヶ月	
8	秋田県	2	湯沢市立雄勝中学校	国立大学法人 秋田大学	平成18年7月1日 ~ 平成18年12月31日	6ヶ月	
9			山本町立下岩川小学校	国立大学法人 秋田大学	平成18年5月1日 ~ 平成18年7月31日	3ヶ月	
10	山形県	3	山形県立村山農業高等学校	学校法人 羽陽学園短期大学	平成18年6月1日 ~ 平成18年8月31日	3ヶ月	
11			山形県立酒田工業高等学校	株式会社 ニシカワ	平成18年7月1日 ~ 平成18年9月30日	3ヶ月	
12			山形県立東根工業高等学校	秋田公立美術工芸短期大学	平成18年4月1日 ~ 平成18年6月30日	3ヶ月	
13	福島県	5	福島県立福島明成高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
14			福島県立郡山北工業高等学校	国立大学法人 東京工業大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
15			福島県立会津高等学校	国立大学法人 福島大学	平成18年7月1日 ~ 平成18年12月27日	6ヶ月	
16			福島県立岩瀬農業高等学校	国立大学法人 福島大学	平成18年7月1日 ~ 平成18年12月27日	6ヶ月	
17			郡山市立大槻中学校	国立大学法人 福島大学	平成18年7月1日 ~ 平成18年12月27日	6ヶ月	
18	栃木県	15	河内町立田原中学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
19			今市市立小林中学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
20			日光市立所野小学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
21			真岡市立真岡西小学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
22			那須塩原市立三島小学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
23			二宮町立長沼北小学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
24			宇都宮市立西原小学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
25			栃木県立真岡女子高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
26			栃木県立真岡北陵高等学校	株式会社 栃木クボタ	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
27			栃木県立宇都宮工業高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
28			栃木県立那須清峰高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
29			栃木県立宇都宮商業高等学校	国立大学法人 一橋大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
30			栃木県立足利商業高等学校	大原簿記学校東京水道橋校	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
31			栃木県立佐野女子高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
32			栃木県立矢板高等学校	宇都宮調理師専門学校	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
33	群馬県	1	群馬県立高崎工業高等学校	群馬県立前橋産業技術専門校	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
34	神奈川県	2	神奈川県立中央農業高等学校	国立大学法人 東京農工大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
35			神奈川県立磯子工業高等学校	国立大学法人 横浜国立大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
36	石川県	2	石川県立工業高等学校	石川職業能力開発促進センター	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
37				金沢工業大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
38	長野県	6	石川県立七尾東雲高等学校	石川県農業総合研究センター 砂丘地農業試験場	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
39			長野県上田千曲高等学校	国立大学法人 信州大学	平成18年5月1日 ~ 平成19年3月31日	11ヶ月	
40			長野県木曾高等学校	国立大学法人 信州大学	平成18年5月1日 ~ 平成19年3月31日	11ヶ月	
41			長野県松本工業高等学校	国立大学法人 信州大学	平成18年5月1日 ~ 平成19年3月31日	11ヶ月	

No	都道府県	派遣人数	派遣元		派遣先		
			所 属	派 遣 先	派 遣 時 期	期間	
42			松本市立本郷小学校	国立大学法人 信州大学	平成18年5月1日 ~ 平成18年8月31日	4ヶ月	
43			上田市立川西小学校	国立大学法人 信州大学	平成18年12月1日 ~ 平成19年2月28日	3ヶ月	
44	岐阜県	2	岐阜県立郡上高等学校	中部学院大学	平成18年10月1日 ~ 平成18年12月31日	3ヶ月	
45			岐阜県立岐阜農林高等学校	国立大学法人 岐阜大学	平成18年12月1日 ~ 平成19年2月28日	3ヶ月	
46	静岡県	1	静岡県立周智高等学校	国立大学法人 静岡大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
47	愛知県	6	愛知県立安城農林高等学校	愛知県畜産総合センター	平成18年10月2日 ~ 平成18年12月28日	3ヶ月	
48			愛知県立中川商業高等学校	株式会社 エ・ム・ズ	平成18年5月8日 ~ 平成18年10月31日	6ヶ月	
49			愛知県立東山工業高等学校	株式会社 豊田自動織機 技能専修学園	平成18年5月8日 ~ 平成18年7月31日	3ヶ月	
50			愛知県立刈谷工業高等学校	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社 グローバル技能訓練センター	平成18年5月1日 ~ 平成18年7月31日	3ヶ月	
51			愛知県立一宮商業高等学校	名古屋大原学園 大原簿記専門学校	平成18年4月4日 ~ 平成18年6月30日	3ヶ月	
52			愛知県立成章高等学校	国立大学法人 名古屋大学大学院	平成18年9月1日 ~ 平成19年2月28日	6ヶ月	
53	京都府	3	京都府立大江高等学校	国立大学法人 京都大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
54			京都府立嵯峨野高等学校	国立大学法人 京都大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
55			京都府立城南高等学校	国立大学法人 京都大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
56	大阪府	1	大阪府立城東工業高等学校	大阪電気通信大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
57	奈良県	1	奈良市立一条高等学校	国立大学法人 奈良女子大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
58	和歌山県	1	和歌山県立紀北工業高等学校	大阪産業大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
59	島根県	2	島根県立松江商業高等学校	国立大学法人 島根大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
60			島根県立江津工業高等学校	中国職業能力開発大学校附属島根職業能力開発短期大学校	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
61	岡山県	2	岡山県立瀬戸南高等学校	国立大学法人 岡山大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
62			岡山県立琴浦高等学校	国立大学法人 岡山大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
63	山口県	5	山口県宇部市立桃山中学校	山口県立大学	平成18年5月1日 ~ 平成18年7月31日	3ヶ月	
64			山口県立厚狭高等学校	山口県立大学	平成18年5月15日 ~ 平成18年8月14日	4ヶ月	
65			山口県立下関工業高等学校	山口県産業技術センター	平成18年8月1日 ~ 平成18年10月31日	3ヶ月	
66			山口県阿武町立福賀中学校	国立大学法人 山口大学	平成18年9月1日 ~ 平成18年11月30日	3ヶ月	
67			山口県立西京高等学校	国立大学法人 山口大学	平成18年10月1日 ~ 平成18年12月31日	3ヶ月	
68	徳島県	1	徳島県立小松島西高等学校	学校法人平成学園 厚生労働大臣指定専修学校 平成調理師専門学校	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
69	香川県	2	香川県立石田高等学校	香川県農業試験場府中分場	平成18年7月1日 ~ 平成18年9月30日	3ヶ月	
70			香川県立善通寺西高等学校	学校法人 北川学園 キッス調理技術専門学校	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
71	高知県	4	高知県立高知農業高等学校	高知県工業技術センター	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
72			高知県立中芸高等学校	高知県教育センター	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	
73			高知県立須崎工業高等学校	国際デザイン・ビューティカレッジ	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
74			高知県立高知東高等学校	高知女子大学	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
75	福岡県	2	福岡県立玄洋高等学校	国立大学法人 九州大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
76			福岡県立博多青松高等学校	国立大学法人 福岡教育大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月	
77	佐賀県	7	佐賀県立鳥栖商業高等学校	大原簿記情報専門学校福岡校	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
78			佐賀県立伊万里商業高等学校	大原簿記情報専門学校福岡校	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
79			佐賀県立鹿島実業高等学校	大原簿記情報専門学校福岡校	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月	
80			佐賀県立塩田工業高等学校	ニシム電子工業株式会社 佐賀工場	平成18年11月1日 ~ 平成19年3月31日	5ヶ月	
81			佐賀県立鳥栖商業高等学校	大原簿記情報専門学校福岡校	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月	

No	都道府県	派遣 人数	派遣元	派遣先		
			所 属	派 遣 先	派 遣 時 期	期間
82			佐賀市立大和中学校	国立大学法人 佐賀大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月
83			伊万里市立伊万里中学校	国立大学法人 佐賀大学	平成18年10月1日 ~ 平成18年12月31日	3ヶ月
84	熊本県	4	熊本県立鹿本農業高等学校	崇城大学	平成18年10月1日 ~ 平成19年3月31日	6ヶ月
85			熊本県立天草工業高等学校	熊本県立技術短期大学校	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月
86			熊本県立松橋高等学校	熊本県立教育センター	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月
87			熊本県立翔陽高等学校	学校法人 ヒロ・デザイン専門学校	平成18年4月1日 ~ 平成18年9月30日	6ヶ月
88	大分県	6	杵築市立北部中学校	国立大学法人 大分大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月
89			豊後大野市立朝地中学校	国立大学法人 大分大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月
90			大分県立野津高等学校	国立大学法人 大分大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月
91			中津市立沖代小学校	国立大学法人 九州工業大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月
92			臼杵市立北中学校	国立大学法人 大分大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月
93			大分県立大分南高等学校	国立大学法人 大分大学	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月
94	宮崎県	1	延岡工業高等学校	国立大学法人 宮崎大学	平成18年10月1日 ~ 平成18年12月28日	3ヶ月
95	札幌市	2	北海道札幌平岸高等学校	国立大学法人 北海道大学	平成18年5月1日 ~ 平成18年12月31日	8ヶ月
96			北海道札幌清田高等学校	国立大学法人 北海道大学	平成18年5月1日 ~ 平成19年2月28日	10ヶ月
97	横浜市	6	横浜市立汲沢小学校	国立大学法人 横浜国立大学	平成18年5月20日 ~ 平成18年12月23日	8ヶ月
98			横浜市立港南中学校	国立大学法人 横浜国立大学	平成18年5月20日 ~ 平成18年12月23日	8ヶ月
99			横浜市立港南中学校	国立大学法人 横浜国立大学	平成18年5月20日 ~ 平成18年12月23日	8ヶ月
100			横浜市立中尾台中学校	国立大学法人 横浜国立大学	平成18年5月20日 ~ 平成18年12月23日	8ヶ月
101			横浜市立南瀬谷中学校	国立大学法人 横浜国立大学	平成18年5月20日 ~ 平成18年12月23日	8ヶ月
102			横浜市立朝比奈小学校	国立大学法人 横浜国立大学	平成18年5月20日 ~ 平成18年12月23日	8ヶ月
103	大阪市	1	大阪市立都島工業高等学校	大阪府立大学大学院	平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日	12ヶ月
	合計	103				

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校農業（A-1）					
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開催期日	平成18年 8月7日（月）～平成18年 8月11日（金）			5日間		
受講人数	計画人数	30人	受講者数	20人	参加率	66.7%
開催場所	農林水産省農林水産技術会議事務局筑波農林交流センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	16	4	0	0	0
		80.0	20.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・私自身の目的は達成でき、ありがたく思います。全国の方と情報交換もでき、見聞をひろめることができました。現場に還元したいと思います。初日の調査官の講義、もう少し時間が長くても良かったかなと思います。国の現状を知ることが教員として最も必要なことであると思います。</p> <p>・最先端技術であるバイオ研修は私にとって有意義な研修でありました。実際の現場で自分の言葉で話ができるようこれから反芻して、より深い理解をしていけたらと思います。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(農業 A-1)

団体名 (財)バイオインダストリー協会

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	備考
8月7日 (月)	受付 JBA 島津理化	開講式	講演:文部科学省 初等中等教育局 参事官付教科調査官 添野龍雄氏 1.5h	自己紹介 JBA 島津理化 0.5h	昼休み	バイオテクノロジーに関する講義				
		講義1(予定) 独立行政法人農業生物資源研究所 植物細胞工学研究チーム 田部井 豊氏 2h		講義2(予定) 独立行政法人農業・生物系特定産業 技術研究機構 生産利用部 機能解析 利用研究室 大坪 憲弘氏 2h						
8月8日 (火)	講義3 DNA抽出 講師: (株)ディーエヌエーバンク 石川貴大氏 1h	実習1 DNA抽出 指導者:同左 2h		昼休み	実習2 遺伝子組換え前処理 指導者: 茨城大学遺伝子実験施設 安西弘行氏 1.5h	講義4 遺伝子組換え 講師:同左 1.5h	実習2(続き) 遺伝子組換え 前処理 指導者:同左 1h			
	施設見学1(予定) 農林団地内 農業生物資源研究所 動物衛生研究所 3h		実習3 遺伝子組換え 指導者:茨城大学 安西先生 3h		考察1 遺伝子組換え 指導者:同左 1h					
8月10日 (木)	講義5 PCR 講師: (株)ディーエヌエーバンク 石川貴大氏 1.5h	講義6 電気泳動 講師:同左 1.5h	昼休み	実習4 PCR、電気泳動 指導者:同左 2h		考察2 PCR、電気泳動 指導者:同左 1h				
	施設見学2(予定) 農林団地内 農業生物資源研究所 動物衛生研究所 3h			情報交換会 1h	質疑応答 閉講式					
8月11日 (金)			昼休み							

研修実施場所:農林水産省 農林水産技術会議事務局 筑波農林交流センター(生物資源研究所内)

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校農業（A-2）							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開催期日	平成18年 7月31日（月）～平成18年 8月 4日（金）			5日間				
受講人数	計画人数	30	人	受講者数	15	人	参加率	50.0%
開催場所	岡山県立高松農業高等学校							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	9	6	0	0	0
		60.0	40.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学校の工夫が非常に研修を通して向上しているのがわかりました。私を含めてですが、各学校の考え方や方針の位置づけに変化が見受けられ、素晴らしい研修と思いました。 ・一週間という期間、朝から夜まで生物活用について、また他県の先生方と交流（情報交換）ができ、この研修はとても勉強になり、関心を持って帰ることができました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

【農業：A - 2】

貴団体名 全国農業高等学校長協会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月31日 (月)	受付・集合	開講式 オリエン テ-ション	生物活用 の意義と 動向		事例紹介 ビデオ	事例発表	自己紹介・活動 紹介		
8月1日 (火)	園芸福祉の活動全般 (活動開拓・目標・設定 ・準備・実施・反省)		植物の 選 択		作業の分 析と効果	高齢者との 接し方	幼児・児童と の接し方		
8月2日 (水)	対象者の 評 価	プログラム作成の視点			プログラミング演習 (作成・発表)				
8月3日 (木)	生徒の評価・観点 別評価		生物活用 ・活動の 情報発信		園芸福祉士における 評価・ディスカッシ ョン	移動動物園・動物の 活用			
8月4日 (金)	生物活用・新しい授 業展開の可能性		閉講式						

実施会場：岡山県立高松農業高等学校

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校工業（B-1）							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開催期日	平成18年 8月21日（月）～平成18年 8月25日（金）			5日間				
受講人数	計画人数	30	人	受講者数	35	人	参加率	116.7%
開催場所	学校法人国際技能工芸機構 ものづくり大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	15	19	0	0	0
		44.1	55.9	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活においてふれることのできない「ものづくりを主体とした工業技術」について、学習参加できたことは工業高校について考える機会を与えてもらい大変有意義であった。 ・実習を重視する大学での研修であるので、講義よりも実習を多く設定してほしいと感じました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程
(新時代のものづくり学と先端技術に関する講義と実習)

教科名・研修番号【工業:B-1】

団体名 ものづくり大学

	9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	15:00	17:00	17:30	19:30
8月21日(月)	受付 会場 A2010	開講式	講演「工業教育の現状と課題」 文科省 池守 滋		休憩 12:30	「明日のものづくりと人づくり」 講演 (野村学長) 「A2010」 13:30	「新時代のものづくりに求められる人物の育成」 講義 (宮本) 「A2010」	休憩	懇親会 (食堂)	
8月22日(火)	製造学科施設見学 (市川・藤澤・高橋)		「先端製造技術の概論」 講義 (神谷学部長) 「A2010」		休憩	「創造プロジェクト」 授業の狙いと成果 講義 (東江) 「A2010」	同左 学生発表 「A2010」			
8月23日(水)	ものづくりのためのCAE技術と演習 (野村) 「M2090」				休憩	最近の制御理論及び実習 (ピチャイ) 「M2072」				
	最新CAD/CAMの理論と実習 (藤澤) 「M2070」					塑性加工の理論及び実習 (市川) 「M1020」				
	高度計測理論及び実習 (高橋) 「M1090」					ホログラムの理論及び実習 (平谷 定員5人) 「M2010」				
	数値制御プログラミングの基礎と炭酸ガスレーザー加工演習 (東江) 「M1060」					同左				
8月24日(木)	建設学科施設見学 (飛内・坂口・中田)		「建築物の新しい構工法」 講義 (坂口) 「A2010」		休憩	「高強度・高流動コンクリートの技術」 講義・実習 (中田・澤本) 「A2010 B1090 C1050」				
8月25日(金)	「歴史的建造物の保存・技術」 講義 (横山) 「A2010」			休憩	「建設先端材料の利用技術」 講義 (北條) 「A2010」	閉講式 「A2010」				

* 23日については、午前と午後のコースを希望により組み合わせクラ分けを行い実施する。

* 研修実施場所 埼玉県行田市前谷333

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校工業（B-2）							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開催期日	平成18年 8月14日（月）～平成18年 8月18日（金）			5日間				
受講人数	計画人数	25	人	受講者数	22	人	参加率	88.0%
開催場所	富士ソフト株式会社							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	7	13	0	1	1
		33.3	61.9	0.0	4.8	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・映像やストリーミング配信という最近のものを体験でき、非常に良かったです。ありがとうございました。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

【工業：B-2】

貴団体名 富士ソフト株式会社

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月14日 (月)					受付	開校式	(講演) 文部科学省 池守調査官	(講義) 情報産業最新動向 について	
8月15日 (火)	(講義) 映像における技術概要 ～圧縮技術について～			昼休み	(講義) 映像における技術概要 ～圧縮技術について～				
8月16日 (水)	(講義) 映像制作 ～概要～			昼休み	(講義/実習) 映像制作 ～撮影・編集～				
8月17日 (木)	(講義/実習) 映像制作 ～エンコード～			昼休み	(講義/実習) 映像制作 ～エンコード・配信～				
8月18日 (金)	(見学) ソフトウェア開発現場視察 (横浜桜木町本社ビル)		閉校式						

研修実施場所： 富士ソフト東京ビル
富士ソフト本社ビル

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校商業（C-1）							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開 催 期 日	平成18年 7月24日（月）～平成18年 7月28日（金）			5 日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	41	人	参加率	102.5%
開 催 場 所	千葉商科大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	30	10	0	0	0
		75.0	25.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要的な講義、やや踏み込んだ講義、見学・実習実験等は商品開発やマーケティングに関する多角的な視点から学ぶことができたと感じる。切り口がたくさんあることを学んだだけでも大変有意義であった。また参加させてほしい。 ・ 勤務しながらでは勉強することが難しい内容ばかりであった。講義・実験・見学など貴重な体験をさせて頂いた。もっと多くの先生方も参加できると良いと思った。 ・ 実際の授業にすぐ役立つものではないかもしれませんが、教員に学校運営、授業内容を考えさせる課題を与えたという点において大変有意義なものでした。すぐに役立つ内容は、この進歩の激しい社会ではすぐに役立たなくなります。約10年ぶりにこのような内容の研修に参加でき、大変幸せでした。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(商業, C-1)

貴団体名 千葉商科大学

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月24日 (月)		開 講 式	(講義)「変革 の時代における ビジネス教育」	昼休み		(講義) 「流通革新の進展と 小売業の転換」			
7月25日 (火)		(講義) 「ユーザーの生の声を活かした 商品開発」		昼休み		(実験実習) 商品に関する実習1			
7月26日 (水)		(見学) 「新事業創出拠点東葛テクノ プラザの支援内容」		昼休み・移動		(見学と講義) 「マブチモーターにおける 商品開発とマーケティング」			
7月27日 (木)		(講義) 「知的所有権の多目的活用による ビジネス展開」		昼休み		(講義) 「コーセーのブランド戦略」			
7月28日 (金)		(実験実習) 商品に関する実習2		昼休み		(講義) 「商品開発のケース スタディ」	閉 講 式		

実施会場: 千葉商科大学

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校水産（D-1）							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開催期日	平成18年 8月 7日（月）～平成18年 8月11日（金）			5日間				
受講人数	計画人数	15	人	受講者数	13	人	参加率	86.7%
開催場所	国立大学法人 東京海洋大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	8	5	0	0	0
		61.5	38.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・基礎的な知識不足から理解することが難しい部分もありましたが、みな興味深い内容でした。実験等の技術的な面では、もっと時間をかけて研修をしたいという思いもありますが、専門性・内容・期間等を考えると十分であったと思います。今回の研修すべてにおいて、知見を広めることができ、研修に参加させて頂いたことに感謝しています。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

水産D - 1

委託団体名 全国水産高等学校長協会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月7日 (月)		開講式	オリエンテーション	昼休み	(講義) 水産食品脂質と ヒトの健康	(実習) 水産食品脂質の抽出			
8月8日 (火)	(講義) 食品の過熱水蒸気加工		(講義) 水産食品脂質の 分析の現状	昼休み	(実習) 機能性脂質(DHA、EPA)の分析		(実習) 水産食品脂質のにおい分析		
8月9日 (水)	(見学) 築地見学	移動 (バス)	(見学) 日本水産八王子工場 研究所	昼休み	(見学) 日本水産八王子工場 研究所		総合討論会	現地解散	
8月10日 (木)	(講義) 魚種判別法の現状		(実習) タンパク質からみた 魚種の判別	昼休み	(実習) DNAからみた魚種判別技術				
8月11日 (金)	(講義) 水産食品のゴミと環境		(講義) 水産食品と食品衛生	閉講式					

実施会場 東京海洋大学 海洋科学部 食品生産科学科

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校水産（D-2）							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開催期日	平成18年 8月21日（月）～平成18年 8月25日（金）			5日間				
受講人数	計画人数	15	人	受講者数	11	人	参加率	73.3%
開催場所	独立行政法人水産総合研究センター遠洋水産研究所							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	7	2	0	0	2
		77.8	22.2	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・まぐろ類について、色々な方面から、またそれぞれの立場からの意見を聞き、多くの資料を頂くことができた。日本の漁業を支えてきたカツオ、マグロが今大きな問題にぶつかっている。いまだからこそ、多方面から漁業について考え取り組む必要がある。私は生徒（人材）を育てながらも、どのようにしたら生徒達の活躍できる社会が広がるか、そちらの方面にも視野を広げなければと実感した。この研修はもちろん、今後も常に社会に目を向け、社会に対しても発言し、よりよい社会、とりわけ、活気ある漁業へ向けて取り組みたい。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名, 研修番号)D-2まぐろ漁業を取り巻く状況に関する講義と実習

委託団体名 全国水産高等学校長協会

日時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月21日(月)						受付	開講式・ガイダンス・所管事項説明	(講義)かつおまぐろ資源動向と国際情勢	(講義)資源評価手法	
						全国水産高等学校長協会事務局	遠洋水産研究所温帯まぐろ資源部長 宮部尚純	遠洋水産研究所かつお・びんなが研究室研究員 渡辺久爾		
8月22日(火)		(講義)まぐろはえなわ漁業における混獲問題	(講義)食の安全・安心の観点から見た“まぐろ”		昼休み		(講義および実習)海洋学概説と海洋情報利用・活用に関する実習			
		遠洋水産研究所混獲生物研究室長 清田雅史	農林水産政策研究所評価・食料政策部主任研究官 高橋祐一郎			遠洋水産研究所海洋研究グループ長 稲掛伝三 遠洋水産研究所海洋研究グループ主任研究員 植原量行				
8月23日(水)	(実習)海外まき網漁獲物測定調査実習(08:00~09:00)※実習不可の場合(見学)焼津漁業協同組合(魚市場, 超低温冷蔵庫) (実習)遠洋水産研究所温帯まぐろ資源部長 宮部尚純	移動	(見学)赤阪鐵工所(漁船のエンジンについて)		移動	昼休み(小川漁業協同組合食堂)	(講義)マグロ漁業の経営(福久漁業株式会社) 福久漁業株式会社漁労部長 斉藤邦雄	移動	(見学)マグロ、カツオの加工等(焼津加工団地:マルテ小林商店) マルテ小林商店専務 小林正典	バスにて焼津駅南口へ
8月24日(木)		(講義)カツオの生物学とその漁業 遠洋水産研究所生物特性研究室 田邊智唯	(講義)我が国漁業の今後と水産教育に期待するもの 水産庁研究指導課研究企画官 中野秀樹		昼休み	(講義)まぐろ漁業の現状と課題 日本かつお・まぐろ漁業協同組合常務理事 佐藤安男	(講義)電気推進システムについて ヤマー株式会社特機エンジン事業部営業企画部専任部長 佐藤政治	(講義)マグロ船の凍結技術と省エネルギーについて 社団法人海洋水産システム協会顧問 小川豊	(講義)まぐろ類の生物学 遠洋水産研究所数理解析研究室長 余川浩太郎	
8月25日(金)		(実習)耳石日輪解析、仔稚魚同定、胃内容物同定等の生物関連実習 遠洋水産研究所熱帯性まぐろ研究室研究員 佐藤圭介 遠洋水産研究所温帯性まぐろ研究室主任研究員 伊藤智幸			閉講式					

8月23日(水) 焼津駅7:45集合・出発(清水7:07 静岡7:20 焼津着7:33) 貸し切りバスで移動
実習できる服装で参加する。

実施場所 遠洋水産研究所(会議室 富士)

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校家庭（E-1）							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開 催 期 日	平成18年 8月 7日（月）～平成18年 8月11日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	23	人	参加率	76.7%
開 催 場 所	家庭クラブ会館 ほか							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17	6	0	0	0
		73.9	26.1	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・内容の深い講義と演習の組み合わせで、大変よかったです。すぐ実践できそうでありがたいです。 ・県から指名されて自ら進んでの参加ではなかったが、結果的に5日間の研修内容は大変勉強になった。普段、校務に追われ、教材研究を深める時間の確保がとれず、家庭科教諭も専任一人で相談することもできず、全国にはすばらしい家庭科の先生がたくさんいるなど感じ、よい刺激になりました。ただ、新幹線の旅費が支給されずに通うのはつらいものがあった。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(家庭 E-1)

全国高等学校長協会家庭部会

日時	9	10	11	12 (12:30)	(13:30)	14	15	16 (16:30)	備考
8月7日 (月) 第1日目	(9:20) (受付)	(講義) 【開講式】 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 望月 昌代	(10:50) (講義・演習Ⅰ) 「『家庭看護・福祉』の 指導方法の工夫」 (事例発表) 茨城県立水海道第二高等学校 教諭 市毛 祐子	昼 休 み		(講義・演習Ⅱ・協議) 「『リビングデザイン』の 指導方法の工夫」 (事例発表) 奈良県立北和女子高等学校 教諭 高橋 恵美子	(講義) 「『住居学入門 安全な住まいを得る』」 日本女子大学家政学部住居学科 助教授 平田 京子		家庭クラブ 会館
8月8日 (火) 第2日目		(講義) 「高齢社会の現状と課題」 文京社会福祉専門学校 講師 北田 信一	(講義) 「高齢者の自立支援」 文京社会福祉専門学校 講師 北田 信一	昼 休 み		(演習) 「高齢者介護① 自立支援を視野に入れた移動技術」 文京社会福祉専門学校 講師 北田 信一, 助手2名			文京 社会福祉 専門学校
8月9日 (水) 第3日目		(講義) 「高齢期の生活と課題」 文京社会福祉専門学校 講師 北田 信一	(講義) 「介護技術の基礎(コミュニケーション)」 文京社会福祉専門学校 講師 北田 信一	昼 休 み		(演習) 「高齢者介護② コミュニケーションの工夫」 文京社会福祉専門学校 講師 北田 信一, 助手2名			〃
8月10日 (木) 第4日目		(講義) 「リビングデザインⅠ」 生活と住居 住空間の形態と構成 住居の平面計画 東京デザイン専門学校 専任教員 馬杉 美都江	(講義) 「リビングデザインⅡ」 インテリアデザイン 住生活関係法規 東京デザイン専門学校 専任教員 馬杉 美都江	昼 休 み		(実習) 「リビングデザインⅢ」(模型制作) 住宅デザインの基礎 私の部屋のコーディネート 東京デザイン専門学校 専任教員 馬杉 美都江, 助手1名			東京デザイン 専門学校
8月11日 (金) 第5日目		(講義) 「最新の住宅設備」・「住居の構造」 東京デザイン専門学校 専任教員 馬杉 美都江	(講義) 「住まいを見る目を養う」 跡見学園女子大学 助教授 村田 あが	昼 休 み		(講義) 「家庭科の専門性を高めるために」 前栃木県立宇都宮中央女子高等学校長 宇都宮文星短期大学 助教授 尾高 真佐子	【講評・閉講式】 文部科学省 望月 昌代		家庭クラブ 会館

133

実施会場：家庭クラブ会館、文京社会福祉専門学校、東京デザイン専門学校

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校家庭（E-2）					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成18年 7月24日（月）～平成18年 7月28日（金）			5 日間		
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数	16 人	参加率	80.0%
開 催 場 所	国立大学法人 兵庫教育大学					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	11 73.3	4 26.7	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

・ 5日間という長期にわたる研修は内容が充実していた。特に保育所実習は本当に疲れたが、その後の演習で理解が深まったように思う。実習では特にいろいろな場面を想定した事前指導に重点をおいていたが、それ以上に事後指導の大切さを感じた。保育の授業は全くもっていないが、今後の授業に活用していきたいと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

・ 実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術，情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

国立大学法人兵庫教育大学

新産業技術コ - ス 家庭・E-2 (乳幼児理解等に関する知識と技術)

日 時	9:30	10:00	10:15	11:00	11:30	12:00	12:30	13:30	14:30	15:00	15:30	16:30		
7月24日 (月)	受付	開講式	(講義)「家庭科の改訂の趣旨と保育に関する指導」 文部科学省初等中等教育局教調調査官 望月昌代			(講義)「軽度発達障害：ADHD,LD,自閉症」 兵庫教育大学助教授 井澤信三			(講義)「情緒・社会性の発達」 兵庫教育大学教授 松村京子			記念写真	懇親会	
7月25日 (火)	(講義)「ことばの発達」 兵庫教育大学助教授 宇野宏幸			(講義)「思春期14歳・17歳の危機：親は、教師は何ができるか」 福島県立医科大学教授 香山雪彦			(講義)「崩壊していく家族とその中の子ども」 福島県立医科大学教授 香山雪彦			(講義)「児童虐待」 大阪教育大学教授 岡本正子				
7月26日 (水)	(講義)「認知・思考の発達」 兵庫教育大学講師 宮元博章			(演習)「保育学習の教材及び」 相愛大学助教授(兵庫教育大学) 神戸親和女子大学講師(兵庫教育大学) 京都府立南八幡高等学校教諭 兵庫教育大学博士課程研究生			乳幼児との交流方法」 博士課程院生)中西利恵 博士課程院生)山口香織 中田佳代子 安藝雅美							
7月27日 (木)	(実習)「乳幼児交流・観察実習」 相愛大学助教授(兵庫教育大学博士課程院生)中西利恵 兵庫県立但馬やまびこの郷 指導主事 仲島尚子 神戸親和女子大学講師(兵庫教育大学博士課程院生) 山口香織 京都府立南八幡高等学校教諭 中田佳代子 兵庫教育大学博士課程研究生 安藝雅美						「乳幼児交流・観察実習」の続き							
7月28日 (金)	(演習)「実習分析のためのグループ演習」 兵庫教育大学教授 松村京子 兵庫県立但馬やまびこの郷 指導主事 仲島尚子 神戸親和女子大学講師 (兵庫教育大学博士課程院生) 山口香織 京都府立南八幡高等学校教諭 中田佳代子 兵庫教育大学博士課程研究生 安藝雅美			(演習)「乳幼児理解」 兵庫教育大学教授 兵庫県立但馬やまびこの郷 神戸親和女子大学講師 (兵庫教育大学博士課程 兵庫教育大学博士課程			のための学習指導計画」 松村京子 指導主事 仲島尚子 院生) 山口香織 研究生 安藝雅美			閉講式				

(注) 付き数字は実施場所を示す。 : 講義室 : コンピュータ教室 : 神戸市立保育所

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校家庭（E-3）					
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開催期日	平成18年 8月 7日（月）～平成18年 8月10日（金）			5日間		
受講人数	計画人数	15人	受講者数	1人	参加率	6.7%
開催場所	装道礼法きもの学院					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・短期間に様々なことを教えて頂き、とても勉強になりました。日頃なかなか習うことのできない礼法も指導して頂き、とてもよかったです。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

【家庭：E-3】

団体名 社団法人全日本きものコンサルタント協会

日時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
8月7日 (月)		開講式 (内容説明)	(着装)① 着装の基本 被服(和服)の機能、 目的(体型別補正)	(着装)② 着装実技 普段着の着装と 名古屋帯	昼食	(着装)③ 着装実技 普段着及び備礼用 に適する被服(和服)	(礼法)① 礼法実技 和服を通して美しい基本とする 起居動作			
8月8日 (火)		(講義) 伝統服飾としての 小袖ときもの	(着装)④ 着装実技 復習	昼食	(着装)⑤ 着装実技 (A)女袴の着装(文庫) (B)普段着の着装と半幅帯(貝の口)	(礼法)② 礼法実技 衣生活に関する マナー				
8月9日 (水)		(講義) 装道の精神美学	昼食	(講義) 和装の文化(染織) 伝統と通過儀礼	(着装)⑥ 着装実技 目的に応じた外出着と 二重太鼓帯結び					
8月10日 (木)		(講義) 家庭科教育の 動向	(礼法)③ 礼法実技 復習	昼食	(着装)⑦ 総仕上げ 和装の文化、着装等	質疑応答 記念撮影	閉講式			

実施会場：装道礼法きもの学院 3階

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校看護（F-1）							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開催期日	平成18年 8月 3日（木）～平成18年 8月 8日（火）			5日間				
受講人数	計画人数	25	人	受講者数	20	人	参加率	80.0%
開催場所	北里大学看護学部							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	16	4	0	0	0
		80.0	20.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・平成14年度から開始された5年一貫看護師教育の5年目にあたるこの時期に最新の看護教育や臨床看護等を受講でき大変参考となった。 全国20名の研修者からの情報交換を通して課題の共有ができたことは大きな収穫である。この研修会で学び得たことをこれからの指導に役立てられるように研鑽を積み重ねていきたい。</p> <p>・協議する時間がもっとあると良いと思います。同じホテルに泊まっている先生方とは情報交換ができたようにおもいますが、その他の多くの先生方と話しをする機会がありませんでした。大変有意義な研修でした。ありがとうございました。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(看護：F-1)

団体名 全国看護高等学校長協会

9:30 10:00 10:30 11:00 12:30				13:30 15:00 16:30	
1日目 8月3日 (木)	受付	開講式	講義Ⅰ 高校教育及び看護教育の動向 国立教育政策研究所教育課程センター 研究開発部教育課程調査官 大橋 泰久 先生	講義Ⅱ これからの看護教育（情報交換を含む） 北里大学看護学部 看護学部長 高橋真理先生	
2日目 8月4日 (金)	講義Ⅲ 看護の動向 北里大学病院 看護部長 小島 恭子先生			講義Ⅳ 精神看護実習指導の実際 北里大学看護学部 助教授 小林信先生	講義Ⅴ 在宅看護 北里大学看護学部 助教授 藤田美江先生
3日目 8月5日 (土)	講義Ⅵ キャリア開発支援のあり方 神奈川県看護協会研修課 認定教育班 野地 金子先生			講義Ⅶ 看護情報管理（演習を含む） 北里大学看護学部 教授 松木悠紀雄先生 助手 小泉雅也先生	
4日目 8月7日 (月)	講義Ⅷ 看護診断;NANDA-NIC-NOC 北里大学看護学部 教授 黒田裕子先生			施設見学（13:00～17:00） 北里大学病院救命救急センター 北里大学病院教育科長 猪又克子先生 北里大学東病院総合相談部 北里大学東病院教育科長 石井か代先生	
5日目 8月8日 (火)	講義Ⅸ 看護教育評価（実習評価を含む） 北里大学看護学部 教授 戸田肇先生			閉講式	

実施会場：北里大学看護学部

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校看護（F-2）					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成18年 7月31日（月）～平成18年 8月 4日（金）			5 日間		
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数	13 人	参加率	65.0%
開 催 場 所	熊本中央高等学校					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	10 76.9	3 23.1	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

・色々な講義の中で、自分の学校や自分の方法をふり返り、考える機会となりました。また、他の学校の内容を知ることができ、みんなで話し合い、展開して、多くのことを整理できました。これから、教員をしていく上で、他の学校や講義の先生方の助言や話を参考にして頑張っていきたいと思います。自分をふり返り、考える機会を得たことを感謝します。ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(看護, F - 2)

団体名 全国看護高等学校長協会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月31日 (月)		開 講 式	(研究協議) 助言 大橋泰久先生 助言 木原信市教授	高等学校教育および看護教 育の現状と課題	昼休み	(講義) 森田 敏子教授	基礎看護学の授業展開		
8月1日 (火)		(講義) 東 清巳助教授 高齢化社会の保健医療福祉 の現状と援助法()			昼休み	(講義) 花田 妙子教授 看護教育技法			
8月2日 (水)		(講義) 上田 公代教授 臨地実習のインシデント・ アクシデント対策			昼休み	(演習) 谷口まり子助教授 木子莉瑛 梅木彰子 臨地実習の教育技法			
8月3日 (木)		(講義) 宇佐美しおり教授 臨地実習の評価法について			昼休み	(講義) 永田 千鶴助教授 高齢化社会の保健医療福祉 の現状と援助法()			
8月4日 (金)		(講義) 宮里 邦子教授 変動する現代社会における 看護職の役割			昼休み	(研究協議) 助言大橋泰久先生 看護教育の課題及び対策	閉 講 式		

研修実施場所: 熊本中央高等学校

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校情報（G-1）							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開催期日	平成18年 8月21日（月）～平成18年 8月25日（金）			5日間				
受講人数	計画人数	15	人	受講者数	13	人	参加率	86.7%
開催場所	株式会社内田洋行 潮見オフィス							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	13	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・平素から活用に尻込みしがちだった類のソフトウェアを扱え、ありがたく思います。日々の授業や研修活動に生かしたいと思います。 ・内容が多く5日間の研修では無理があると思いました。しかし、7つものソフトウェアの使用法など指導頂いたので、今後の教育活動に活用できると思います。 ・今年より、期間が短くなったということですが、研修が進むにつれ「もう少し長い期間おちついて研修したい」という気持ちが出てきました。5日間では短いかなという印象を持ちました。

III 研修内容・方法の見直し等

実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(情報 G-1)

社団法人 全国工業高等学校長協会

月日	曜日	9		10		11	12	13	14	15	16	17		18
8月21日	月			受付	開講式	(講義) 文部科学省	昼休み	(実習)3DCADの操作				ショールーム 見学	懇親会	
8月22日	火			(実習)3DCADの操作			昼休み	(実習)3DCADの操作				[情報交換] CAD検定 PCSCAN		
8月23日	水			(実習)デジタル画像の編集、グラフィックの作成			昼休み	(実習)デジタル画像の編集、グラフィックの作成						
8月24日	木			(実習) デジタルビデオデータの編集			昼休み	(実習) デジタルビデオデータの編集				休憩	懇親会	
8月25日	金			(実習)DVDオーサリングツールによるDVD作成			昼休み	(実習)DVDオーサリングツールによるDVD作成	成果発表会		閉講式			

実施場所:株式会社 内田洋行 潮見オフィス 〒135-8730 東京都江東区潮見2-9-15 TEL:03-56734-6397 FAX:03-5634-4088

※上記内容につきましては、変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校情報（G-2）							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開 催 期 日	平成18年 7月24日（月）～平成18年 7月28日（金）			5 日間				
受 講 人 数	計画人数	15	人	受講者数	23	人	参加率	153.3%
開 催 場 所	千葉商科大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	13	9	0	0	0
		59.1	40.9	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・情報の指導のスキルの差があったと思う。事前に詳しい研修内容を説明、連絡があれば、研修者が事前に研修を行ったと思う。 ・自分が使用してみたいACCESSがおぼえられたこと、いろいろな情報を得られたことがよかったです。各都道府県での取り組みについて大変参考になりました。今後持ち帰り活用したいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

情報 G-2

貴団体名 千葉商科大学

日時	内容	形態	講師(主)	講師(副)	教室	備考	日直	
7/24(月)	09:00~09:20	受付・事務連絡	中澤興起	エクステンション	本館3F		野村康一	
	09:20~10:20	システム開発演習ガイダンス (システム開発全般についての説明グループ分け等)	並木通男	野村康一	本館3F			
	10:30~12:00	開校式・講演	吉野弘一	鮎川、中澤、山本	図書5階			
	13:00~16:50	ACCESSでのシステム開発	講義 実習	並木通男	野村康一	第4実		
7/25(火)	09:00~12:00	ネットワーク管理とネットワーク技法	講義	柏木将広	野村康一	第8実	野村康一	
	13:00~17:00	システム開発演習 ①	実習	並木通男	野村康一	第4実		
7/26(水)	09:00~11:00	CGモデリングとレンダリング	講義 実習	三輪全	勅使河原隆行	第4実	*インストール有り CGソフト「POV-Ray 3.1」	勅使河原隆行
	11:10~12:30	ネットワークセキュリティ	講義	外部講師 (エデュース)	三輪全	第4実		
	13:30~17:00	システム開発演習 ②	講義 実習	並木通男	三輪全	第4実		
7/27(木)	09:00~12:30	システム開発演習 ③	実習	三輪全	勅使河原隆行	第4実	勅使河原隆行	
	13:30~15:20	新しい検定指導	講義	外部講師 (オブジェクトコミュニケーションズ)	三輪全	第4実		
	15:30~17:00	IT事業の展望	講義	外部講師 (シックスアパート)	三輪全	第4実		
7/28(金)	09:00~12:00	シミュレーション	講義 実習	外部講師 (SFC)	中澤興起	第4実	並木通男	
	13:00~16:00	システム開発 結果発表	実習	中澤興起	永井克昇・並木通男・ 三輪全・勅使河原隆行	第4実		
	16:00~17:00	講演・閉講式	講義	永井克昇	中澤興起	本館3F		

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修 (新産業技術等指導者養成講習) 高等学校情報 (G-3)							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開 催 期 日	平成18年12月4日 (月)～平成18年12月15日 (金)			10日間				
受 講 人 数	計画人数	15	人	受講者数	9	人	参加率	60.0%
開 催 場 所	兵庫県立教育研修所							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	6	1	0	0	2
		85.7	14.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・多少、内容が専門的過ぎる部分があった。 ・ネットワークの基礎知識について、もう少し深く学習したかった。 ・この研修のための準備等大変御苦労だったと思います。ここで学んだことを学校に持ち帰り、還元していきたいです。

III 研修内容・方法の見直し等

実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程
 (情報, G-3) 団体名: 兵庫県立教育研修所

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
12月4日 (月)			開 講 式	ガイ ダン ス	昼 休 み	(講義・演習) Linuxの基礎			
5日 (火)	(演習) Linuxのインストール				昼 休 み	(演習) Linuxのインストール			
6日 (水)	(演習・講義) Linuxの管理				昼 休 み	(演習・講義) Linuxの管理			
7日 (木)	(演習) LAN構築の基礎				昼 休 み	(演習・講義) ネットワークの設定			
8日 (金)	(演習) Proxyサーバの構築				昼 休 み	(演習) DNSサーバの構築			
11日 (月)	(演習) Webサーバの構築と管理				昼 休 み	(演習) Webサーバの構築と管理			
12日 (火)	(演習) Webプログラミングの基礎				昼 休 み	(演習) Webプログラミングの基礎			
13日 (水)	(演習) メールサーバの構築				昼 休 み	(演習) メールサーバの構築			
14日 (木)	(講義) ネットワークセキュリティ1				昼 休 み	(演習) ネットワークセキュリティ2			
15日 (金)	(講義・協議) 校内ネットワークにおけるLinuxの利用								

実施会場: 兵庫県立教育研修所

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校福祉（H-1）							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開催期日	平成18年 7月25日（火）～平成18年 7月29日（土）			5日間				
受講人数	計画人数	20	人	受講者数	24	人	参加率	120.0%
開催場所	大妻女子大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	2	17	2	0	2
		9.5	81.0	9.5	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・本来「福祉」とは縁のなかった自分にとって、先進的に取り組まれている先生方との出会いは本当に刺激になった。特に実技指導の手順を細かく聞くことができたのは、今後の授業に大いに生かせると思った。</p> <p>・有意義だったが、消化不良の部分も多かった。新たな知識や技術を身に付けたかった。教育現場にいと、なかなか福祉現場での技術の変化を知ることができないので、そういったテキスト等では知り得ないことをご指導頂けるとありがたい。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度新産業技術等指導者養成講習日程

(教科名:福祉 講習番号:H-1)

委託団体名:全国福祉高等学校長会

149

日 時	10	11	12	13	14	15	16
7月 25日 (火)	受 付	開 講 式	講義 「介護過程の展開Ⅰ」 ～介護における目標等～	昼 休 み	講義と演習 「介護過程の展開Ⅱ」 ～事例に基づく介護過程～		
7月 26日 (水)	講義と演習 「コミュニケーション技術」 ～コミュニケーションの技法に関する講義と演習～		講義と演習 「移動の介護等Ⅰ」 ～社会生活維持拡大への技法に関する講義と演習～				
7月 27日 (木)	講義と演習 「移動の介護等Ⅱ」 ～安楽と安寧の技法に関する講義と演習～		講義と演習 「排泄の介護」 ～排泄の介護に関する講義と演習～				
7月 28日 (金)	講義と演習 「衣服の着脱の介護」 ～衣服の着脱の介護に関する講義と演習～		講義と演習 「食事の介護」 ～食事の介護に関する講義と演習～				
7月 29日 (土)	講義と演習 「入浴の介護」 ～入浴の介護に関する講義と演習～		講義と演習 「総合評価」 ～評価及び振り返り～		講義 「近況報告」 文部科学学省	閉 講 式	

実施場所:大妻女子大学(多摩校舎)

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）高等学校福祉（H-2）							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開 催 期 日	平成18年 7月24日（月）～平成18年 7月28日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	15	人	参加率	75.0%
開 催 場 所	同志社大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	15	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・統計として説明することが難しい部分や目には見えづらい部分をどのように理解していくかという方法について学ぶことができました。 ・このような機会を与えて頂いてありがとうございました。「一週間長いなあ」とおもっていましたが、あっという間でした。全国の先生方とも交流ができて勉強になりました。また、同志社大学で勉強できたことも一生の思い出になりました。私は福祉の科目の中で援助技術が苦手だったのでこの研修に参加させて頂きました。一週を終え、授業の進め方だけでなく、援助者（教師）としての私のあり方について考えることができました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度新産業技術等指導者養成講習日程及び講師一覧

(教科名:福祉 講習番号:H-2)

委託団体名:全国福祉高等学校長会

日 時	10	11	12	13	14	15	16	
7月 24日 (月)	受 付	開 講 式	講義 「社会福祉援助の必要性について」 黒木保博(同志社大学)	昼 休 み	講義と演習 「社会福祉援助活動のイメージ」 小山隆(同志社大学)	講義と演習 「研修ガイダンス」 倉持史朗(同志社大学)		
151	7月 25日 (火)	講義と演習 「個別的な援助・人を観察することと理解すること」 空閑浩人(同志社大学)			昼 休 み	講義と演習 「個別的な援助・リスクマネジメント」 空閑浩人(同志社大学)		
	7月 26日 (水)	講義と演習 「コミュニケーション技法Ⅰ」 倉石哲也(武庫川女子大学)				講義と演習 「コミュニケーション技法Ⅰ」 福富昌城(花園大学)		
	7月 27日 (木)	講義と演習 「地域を基盤とした援助」 上野谷加代子(同志社大学)				講義と演習 「ケースカンファレンスの考え方」 岩間伸之(大阪市立大学)		
	7月 28日 (金)	講義と演習 「家族及び集団への援助Ⅰ」 山縣文治(大阪市立大学)				講義と演習 「家族及び集団への援助Ⅱ」 山縣文治(大阪市立大学)	講義と演習 「振り返り」 倉持史朗(同志社大学)	閉 講 式

実施場所:同志社大学(臨光館)

I 研修概要

研修名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）中学校技術（I-1-1）					
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 中学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開催期日	平成18年 7月31日（月）～平成18年 8月4日（金）	5日間				
受講人数	計画人数	25 人	受講者数	25 人	参加率	100.0%
開催場所	国立大学法人 茨城大学					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	23	1	0	0	1
		95.8	4.2	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・教材のヒントをかなり得ることができたと思います。来年度に向けて、教材の開発（融合教材も含む）、工具や教室環境の整備等充実させ、「つくる楽しさ」を生徒に指導、支援していきたいと考えています。5日間ありがとうございました。</p> <p>・ものをつくる楽しさや、できた時の感動を久しぶりに感じることができました。普段は生徒作品を手伝う程度の実践（工具使用）しかしていないため、今回の研修では、自分の技術力不足を感じました。生徒に手本を示せる技術を身につけたいと思います。また、この研修を通じて、他県の先生方との情報交換をすることもでき、とても参考になりました。大学の先生をはじめ、院生、学生のみなさんの丁寧なご指導に感謝いたします。自分の県に戻ったならば、各種研修会などで、今回の取り組みを紹介したいと思います。5日間本当にお世話になりました。</p> <p>・技術科教員として必要な知識を身に付けたり、教材研究の視野を広げる機会が得られた。今後の技・家庭教育に何らかの活用に取り組んでいきたい。</p> <p>・物作りと心の関係を、つまり学校の「荒れ」をなくすための材料として考えていくことや、社会の中に多くあるプラスチックについて、もっと広く伝えていこうと思います。（本当は木がいいのですが。）又、情報と物作りのつながり、そして総合と情報との関わりも工夫していきたい。教育現場と大学教育のつながりをもっともっと増して、生徒に生かす手立てをこれからもよりしく願います。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 18 年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, I-1-1)

委託団体名 茨城大学

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
7月31日 (月)	受付	開講式	(講義) これからの技 術・家庭科の教育	(講義) 木工具の調整法	昼休み	(講義) かんな刃口の機 能と調整法	(実習) かんなの調整実習 1			
8月1日 (火)	(講義) 新しい栽培の展開について			(実習) 観察実習	昼休み	(講義) かんな身・裏金 の研磨法	(実習) かんなの調整実習 2			
8月2日 (水)	(講義) プラスチックの 生質について	(実習) プラスチックの性質実験			昼休み	(講義) プラスチックの 加工法	(実習) プラスチックの加工			
8月3日 (木)	(講義) 手作りギアボッ クスの製作技術	(実習) 手作りギアボックスの製作			昼休み	(講義) ボール紙による立 体模型製作技術	(実習) ボール紙による立体模型の製作			
8月4日 (金)	(講義) ハードディスクドライブ部品を用 いた教材製作法			(実習) (右記)	昼休み	(実習) ハードディスクドライブ部品を用い たイヤホンと誘導モータの製作	閉講式			

研修実施場所：茨城大学教育学部

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）中学校技術（I-1-2）					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 中学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成18年 8月 7日（月）～平成18年 8月11日（金）	5日間				
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数	17 人	参加率	85.0%
開 催 場 所	国立大学法人 島根大学					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	14 82.4	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・ 2枚刃かんなの調整、プラスチックの加工について、今回のように細かく研修を受けた事がなく、とても参考になりました。また、講師の先生、附属中学の環境もすばらしく、有意義な研修を送ることができた最大の要因になったと思います。</p> <p>・ 技術科教員が学校に一人だけとなっている学校が多く、加工技術・技能等を指導してもらったり、互いに研修しあったりする機会がほとんどなくなってしまっている。そうした中で、本研修は本当にありがたかったです。実技演習を多く取り入れており、自分自身が、生徒の立場となって研修ができました。難しさや苦労の後にある完成の喜びや技能の向上のためにも、もっと多くの経験を積む必要があると感じました。5日間とても有意義な時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・ 実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名, 研修番号) 技術, I-1-2

委託団体名: 国立大学法人 島根大学

日	時	9	10	11	12	13	14	15	16	
8/7 (月)		受付	開講式 及び ガイダンス	(講義) *本講座の 活用法	(講義) *学習指導要領をふまえた 指導法	昼休み	(講義・実習) *2枚刃かんな・おいれのみの調整(1)	(講義・実習) *2枚刃かんな・おいれのみの調整(2)		
8/8 (火)		(講義・実習) *のこぎりびき・かんなけず りによる部品加工(1)		(講義・実習) *のこぎりびき・かんなけず りによる部品加工(2)		昼休み	(講義・実習) *教育用小型木工機械を使用した製作実習と安全な使用法(1)			
8/9 (水)		(講義・実習) *教育用小型木工機械を使用した製作実習 と安全な使用法(2)			(講義・実習) *プラスチックによる 木材のこぎりびき用具 の製作実習1)プラステ ックののこぎりびき加工		昼休み	(講義・実習) *プラスチックによる木材のこぎりびき用具の製作実習 2)プラスチックの面接着加工		
8/10 (木)		(講義・実習) *プラスチックによる木材のこぎりびき用具の製作実習 3)プラスチックの研削・研磨加工				昼休み	(講義・実習) *プラスチックによる木材のこぎりびき用具の製作実習 4)プラスチックの穴開け加工・ねじ切り加工・組み立て加工			
8/11 (金)		(講義) *ものづくりと力学・・・力学を生かしたものづくり学習				昼休み	(講義・実習) *木工技能の診断と観点別絶対評価			閉講式

実施場所: 教育学部附属中学校技術室

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）中学校技術（I-2-1）					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 中学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成19年 2月26日（月）～平成19年 3月 2日（金）			5 日間		
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数	14 人	参加率	46.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12 85.7	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・上野調査官の講義が1日目にあると、その視点で5日間を考えることができたと思います。 ・今の技術科にとって考えさせられることが多く、またすぐに授業でも活用できることも多く、とても有意義でした。ただ、難しい部分もあり、自分の勉強不足の面を改めて思い知らされました。ありがとうございました。 ・経験から学んできたものに対し、知識という確かな裏づけをつけることができました。また、他の先生方の授業の様子等もわかり、授業の幅として広げていきたいと思っています。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 18 年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, I-2-1)

委託団体名 茨城大学

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
2月26日 (月)	受付	開講式	(講義) 教育の情報化と技術・家庭科		昼休み	(講義) 情報通信技術の 理解としくみ	(演習) 情報通信技術の実験と指導法			
2月27日 (火)	(講義・演習) 製作に生かすシミュレ ーション技術の理解		(講義・演習) 情報システムを構築する 力を育成する指導法		昼休み	(講義) 情報コミュニケ ーションシステ ムの理解	(演習) Blog でつくる情報コミュニケーションシステムの構築			
2月28日 (水)	(講義) コンピュータハ ードウェアの構 成と機能の理解	(演習) コンピュータの組立と BIOS 設定 の理解			昼休み	(講義) 情報通信ネット ワークの特徴と 利用方法の理解	(演習) WEB サーバ, ファイルサーバ構築・管理のしかた			
3月1日 (木)	(実習) P I C (周辺機器接続制御用 IC) マイ コンの理解と製作			(講義) ステッピング・ モータ制御の基 礎知識	昼休み	(実習) P I Cによるライントレーサの製作と自動制御の理解				
3月2日 (金)	(講義) プログラミング の基礎知識	(演習) 自動制御とプログラミングの実際			昼休み	(講義) これからの技術・家庭科教育	閉 講 式			

実施場所：独立行政法人教員研修センター

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）中学校技術（I-2-2）							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 中学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開 催 期 日	平成18年 9月25日（月）～平成18年 9月29日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	9	人	参加率	45.0%
開 催 場 所	国立大学法人 宮城教育大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	7	1	0	0	1
		87.5	12.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・現場では、思うように教材研究ができないことが多い。（多忙であったり、相談する人がいないなど）しかし、今回の研修で新しい教材や情報活用等を研修することができ、勉強になった。すべてできるかわからないが、できるだけたくさんの方の授業の中で生かしていきたいと思えます。</p> <p>・大学という専門学を学べる場で、専門で研究されている各先生方から、多くの知識・技術を得ることができた。技術科は県や自治体で研修できるチャンスが少ない（専門指導主事が少ない）ので、このような取り組みを今後も続けてほしい。機会があればぜひこのような研修を受講したい。本当にありがとうございました。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, I-2-2)

貴団体名 宮城教育大学

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
9月25日 (月)		開 講 式	(講義(実習含)) コンピュータ の基礎1(ソフ トウェア活用 環境の整備)	(講義(実習含)) コンピュータ の基礎2(周 辺装置の活 用)	昼 休 み	(講義) コンピュータの 構造1(ワンチ ップマイコン から学ぶコ ンピュータの 仕組み)	(実習) コンピュータの 構造2(ワン チップマイコ ンから学ぶ コンピュータ の仕組み)		
9月26日 (火)	(講義) コンピュータデ ザイン1		(実習) コンピュータデ ザイン2		昼 休 み	(講義) PCのハードウ ェア構成と設 定	(実習) PCの自作組立 実習		
9月27日 (水)	(講義) マルチメディア コンテンツ概論 (もの作り支 援としてのデ ジタルコンテ ンツのありか た)		(実習) マルチメディア コンテンツ作成 実習(もの作 り支援として のデジタルコ ンテンツの作 成)		昼 休 み	(講義) 著作権の基礎	(講義) 教育現場にお ける情報モラ ル		
9月28日 (木)	(講義(実習含)) LANによる情 報活用(ネッ トワークを使 った授業の活 用)		(講義) サイバー犯 罪の現状と 対策		昼 休 み	(講義(実習含)) インターネット の活用1(ネッ トワークセキ ュリティ)	(講義(実習含)) コンピュータ 制御1(コン ピュータ技術 とロボット制 御)		
9月29日 (金)	(講義・実習) コンピュータ 制御2(ロボ ットとセン サ)		(講義(実習含)) コンピュータ 制御3(オリ ジナルロボ ットの製作と その授業での 活用)		昼 休 み	(講義(実習含)) インターネ ットの活用 2(様々な情 報発信の可 能性)	(講義・協 議) 中学校に おける情 報教育の あり方	閉 講 式	

実施会場：宮城教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）中学校技術（I-2-3）					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 中学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成19年 2月19日（月）～平成19年 2月23日（金）	5日間				
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数	9 人	参加率	30.0%
開 催 場 所	国立大学法人 滋賀大学					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

・すばらしい講師の先生方のお話をたくさん聞くことができ、大変有意義でした。
 ・この短期間の間に多岐に渡る最新・最先端の技術を得ることができ、うれしく思っています。
 大変ありがとうございました。
 ・様々な分野の研修を行う中で、再確認するものもあれば、新たな発見もあり、大変有意義な5日間を過ごすことができました。現場でしっかりと活用していきたいと思えます。

III 研修内容・方法の見直し等

・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名, 研修番号技術, I-2-3)

国立大学法人 滋賀大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16
2/19 (月)	(受付)	(開講式) 本研修 の概要	(講義) 学習指導要領をふまえた 指導法	昼休み	(講義・実習) 基本実習 1		(講義・実習) 基本実習 2	(まとめ) 研究協議 1
2/20 (火)	(講義・実習) ネットワーク 1		(講義・実習) ネットワーク 2	昼休み	(講義・実習) ネットワーク 3		(講義・実習) ネットワーク 4	(まとめ) 研究協議 2
2/21 (水)	(講義) デジタル社会の情報教 育 1		(講義・演習) デジタル社会の情報教 育 2	昼休み	(講義・実習) 情報モラルの指導 1		(講義・実習) 情報モラルの指導 2	(まとめ) 研究協議 3
2/22 (木)	(講義・実習) マルチメディア 1		(講義・実習) マルチメディア 2	昼休み	(講義・実習) プログラミングと制御 1		(講義・実習) プログラミングと制御 2	(まとめ) 研究協議 4
2/23 (金)	(講義・演習) 小学校から中学校への効 果的な接続 1		(講義・演習) 小学校から中学校への効 果的な接続 2	昼休み	(講義) 中学校から高等学校への 効果的な接続		(研究協議) 小学校・中学校・高等学 校の円滑な接続に向けて	(閉講式)

実施場所：教育学部 第2情報演習室, 環境教育実習室ほか

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）中学校技術（I-2-4）					
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係					
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 中学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭					
開 催 期 日	平成18年 8月 7日（月）～平成18年 8月11日（金）			5 日間		
受 講 人 数	計画人数	15 人	受講者数	11 人	参加率	73.3%
開 催 場 所	国立大学法人 鳴門教育大学					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	1 9.1	9 81.8	1 9.1	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・研修を通して、たくさんの先生方と出会うことができ、それぞれの実践を交流する機会がつけられました。また、上野先生の話から、技術の教師として実践していることを誇れるようにしなくてはならないと実感しました。研修での成果をどう広げるかわかりませんが、まず指導計画づくりから考え直し、情報教育、教科「技術・家庭」を中心として、生徒に力をつけられるようにしたいです。</p> <p>・かなりハイレベルの内容で十分に吸収できませんでした。勉強不足を反省しています。大学の先生および文科省調査官の方々が技術教育に対して非常に熱心に取り組まれていることを知り、とても心強く感じました。自分も学校現場で“今以上にがんばらねば”という思いにさせられました。5日間ありがとうございました。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(技術, I-2-4)

委託団体名 鳴門教育大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成18年 8月7日(月)		開 講 式	技術「情報とコン ピュータ」概説	昼休み		計算機器の変遷		計算具教材の開発	
8月8日(火)	マルチメディア と情報技術教育		マルチメディ アと情報技術 教育	昼休み		Web環境とソフト ウェア利用		Web環境とソフト ウェア利用	
8月9日(水)	コンピュータ システムとネ ットワーク		コンピュータ システムとネ ットワーク	昼休み		コンピュータシス テムとネットワ ーク		コンピュータシス テムとネットワ ーク	
8月10日(木)	計測と制御		計測と制御	昼休み		計測と制御		計測と制御	
8月11日(金)	情報技術教育 の捉え方		「情報とコン ピュータ」デ ィスカッショ ン	昼休み		「情報とコンピ ュータ」ディスカ ッション	閉 講 式		

実施場所 高度情報研究教育センター他

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）中学校家庭（J-1）							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 中学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開 催 期 日	平成18年 7月31日（月）～平成18年 8月 4日（金）			5 日間				
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	25	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	女子栄養大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	19	4	0	0	0
		82.6	17.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・充実した5日間でした。食教育の先端であります女子栄養大学の一流の教師陣と設備に感激し、研修を終える事ができます。研修内容すべて食教育にとって必要な内容でありました。

・内容が充実していて、とても参考になりました。毎日の授業実践の中で役立つものばかりでよかったです。一日中講義や実習の内容が充実しているので、時間外（夜）まで指導案作成をするのは少々無理があったように思います。実践発表としての報告（実践事例）があったので、指導案作成が必要だったのか、疑問です。必要ならば、事前の準備がいるのではないのでしょうか。準備をするのも大変ですが。

・栄養教諭のこと、食事摂取基準のこと、はずかしいことに知りませんでした。また、日々の仕事におわれゆっくりと授業案を練るということもできずに過ごしていたなど反省の日々でした。今回、多くの先生方とふれ合い、いろいろな発想で授業を展開されていることも知り、もっと工夫していくことと、なにより講義で授業作りで大切にしていかなければならないことを再確認できました。ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程（女子栄養大学）

(教科名、研修番号)

家庭:J-1

日程/時間	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00
7月31日(月)		受付	開講式 2301教室 10:00 開会(橋本大学教務学生部長) 10:02 挨拶(岡調査官) 10:12 ガイダンス (五明栄養学部長/実施責任者) 10:22 事務連絡(大学教務学生部長) ガイダンス	(講義) 「技術・家庭科の指導と評価」 (担当) 岡 陽子 (文部科学省初等中等教育局教科調査官) (会場) 2301教室 (時間) 10:30-12:00	昼食	(講義) 「中学校技術・家庭の食に関する指導の充実」 (担当) 岡 陽子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) (報告) 「技術・家庭における食に関する指導の実践事例」 (担当) 堀希代子(新潟県新潟市立両川中学校教諭) 菊野享子(埼玉県行田市立忍中学校教諭) (会場) 2301教室 (時間) 13:00-16:00			
8月1日(火)		(講義) 食の現代的問題 「中高生の危険なダイエット」 (担当) 蒲池桂子(女子栄養大学講師) (会場) 2301教室 (時間) 9:00-10:25	休憩十分	(講義) 食の現代的問題 「朝食と脳の働き」 (担当) 香川靖雄 (女子栄養大学教授・副学長) (会場) 2301教室 (時間) 10:35-12:00	昼食	(講義・演習) 「実践力を養う技術・家庭科での食に関する指導」(指導案作成について) (担当) 櫻井純子(前女子栄養大学教授) 仙波圭子(同大学教授) (会場) 2301教室 (時間) 13:00-16:00			
8月2日(水)		(実習) 「基本的操作を取り入れた調理」調理実習 (担当) 島崎とみ子/駒場千佳子(女子栄養大学助教授/助手) (会場) 1F調理教育実習室 (時間) 9:00-12:00			昼食	(実習) 「家族で楽しめる簡単なお菓子づくり」 (担当) 竹澤正喜 (香川栄養専門学校教授) (会場) 1F調理教育実習室 (時間) 13:00-16:00			
8月3日(木)		(実習) 「日常食の調理-食品と調理性」調理実験等 (担当) 安原安代/柴田圭子(女子栄養大学教授/講師) (会場) 2F調理実習室 (時間) 9:00-12:00			昼食	(講義) 食の現代的問題 「食事摂取基準の中学校における指導や活用方法について」 (担当) 石田裕美(女子栄養大学教授) (会場) 2301教室 (時間) 13:00-14:25	休憩十分	(講義) 食の現代的問題 「食の安全性と食品の選択」 (担当) 桑原祥浩 (女子栄養大学教授) (会場) 2301教室 (時間) 14:35-16:00	
8月4日(金)		(実習) 「会食のための献立、調理、テーブルセッティング」 (担当) 高橋敦子/奥嶋佐知子(女子栄養大学教授/助手) (会場) 1F調理教育実習室 (時間) 9:00-12:00			昼食	(ディスカッション) 「実践力を養う技術・家庭科での食に関する指導」指導案発表 (担当) 櫻井純子(前女子栄養大学教授) 仙波圭子(同大学教授) (会場) 2301教室 (時間) 13:00-14:30	開講式 14:40 挨拶(五明学部長) 修了証授与 14:55 事務連絡(橋本部長) 15:00 閉会(同)		

I 研修概要

研 修 名	産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（新産業技術等指導者養成講習）中学校家庭（J-2）							
担 当 課 係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研 修 目 的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 中学校及び中等教育学校で産業教育を担当する教諭							
開 催 期 日	平成18年 7月24日（月）～平成18年 7月28日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	22	人	参加率	88.0%
開 催 場 所	国立大学法人 東京学芸大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12	9	0	0	1
		57.1	42.9	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・宿泊しての研修は少しハードであったが、どの研修も大変勉強になり有意義でした。今後の授業指導にぜひいかしていきたい。自分の指導力向上のために更に研修を深めていくべきだとも感じた。このような研修がもう少し地方でも、そして回数も多く受けられるようになればと思いました。どうもありがとうございました。</p> <p>・今まで一度も出会ったことのない全国の先生と思いを共有できるこの機会は、これから先、子どもたちと向き合っていく上でのヤル気と自信を得る貴重な場となりました。ありがとうございます。今後もつながり続けられたらいいなあと思います。</p> <p>・家庭科の教員は各校にだいたい1名の配置で悩みを相談する場も少なく、全国の先生たちの色々な取り組みを聞くことができ大変有意義だった。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。</p>

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修日程

(教科名 家庭 , 研修番号 J - 2)

団体名 国立大学法人 東京学芸大学

日時	9	10	10:30	11	12	13	14	15	16	17
7月24日(月)		受付	開講式 ガイダンス	(講義)「家庭科の指導と評価」 (担当)岡 陽子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) (会場)総合教育科学系研究棟3号館			(講義) 幼児理解 (担当)倉持清美(東京学芸大学助教授) (会場)総合教育科学系研究棟 3号館			
7月25日(火)		(演習)「保育学習」 パネルディスカッションの形態で、保育学習の展開を話し合う (担当)倉持清美(東京学芸大学助教授) 望月一枝(秋田大学教授) 阿部睦子(東京学芸大学附属中学校教員) 金子京子(さいたま市立大谷場中学校教員) 妹尾理子(早稲田大学高等学院非常勤講師) (会場)総合教育科学系研究棟3号館					(演習)「保育学習」 講習参加者の中学校における保育学習の現状と問題点を出し合う (担当)倉持清美(東京学芸大学助教授) 望月一枝(秋田大学教授) 阿部睦子(東京学芸大学附属中学校教員) 金子京子(さいたま市立大谷場中学校教員) 妹尾理子(早稲田大学高等学院非常勤講師) (会場)総合教育科学系研究棟3号館			
7月26日(水)		(実習)「保育観察」 約5名ごとに5グループに分かれ、適宜保育所で観察を行う。 (担当)倉持清美(東京学芸大学助教授) (会場)小金井市立保育園					(演習)「保育観察」 グループディスカッション (担当)倉持清美(東京学芸大学助教授)他 (会場)総合教育科学系研究棟3号館	(講義)「保育体験学習指導法」 幼児と中学生が関わるために - 保育者側から見た保育体験学習 (担当)井口眞美(東京学芸大学附属幼稚園教諭) (会場)総合教育科学系研究棟3号館		
7月27日(木)		(実習)「保育観察」 約5名ごとに5グループに分かれ、適宜保育所で観察を行う。 (担当)倉持清美(東京学芸大学助教授) (会場)小金井市立保育園 5園					(講義) 幼児理解 (担当)倉持清美(東京学芸大学助教授) (会場)総合教育科学系研究棟 3号館			
7月28日(金)		(講義)「現代の保育的問題」 現代社会における保育の問題を扱う (担当)田村 毅(東京学芸大学助教授) (会場)総合教育科学系研究棟3号館			閉講式					

実施会場： 国立大学法人 東京学芸大学

I 研修概要

研修名	産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修（高等学校実習助手講習）農業							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	高等学校等（特殊教育諸学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開催期日	平成18年 7月26日（水）～平成18年 8月 2日（水）				7日間			
受講人数	計画人数	30	人	受講者数	17	人	参加率	56.7%
開催場所	国立大学法人 東京農工大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	5	7	0	0	3
		41.7	58.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね有意義でしたが、研修内容により、専門的なもので、理解しにくい講義もありました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修日程

(農業)

大学名 国立大学法人 東京農工大学

日 時	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15
7月26日(水)			開講式・オリエンテーション	有馬農学部長特別講演	昼休み	(講義・実習)1 - 動物実習教育の実際	休憩	(講義・実習)1 - 動物実習教育の実際
7月27日(木)	(講義)3 - 農業と農村風景	休憩	(講義)2 - 安全・安心の畜産物生産		昼休み	(講義)2 - 遺伝子組換え技術の基礎	休憩	(講義)3 - 植物バイオマス資源-細胞壁と成分利用
7月28日(金)	(講義)3 - 分光学による物質循環のモニター	休憩	(講義)3 - 外来種問題を考える		昼休み	(講義・実験)2 - 昆虫の形態学的観察-顕微鏡の取扱い-	休憩	(講義・実習)3 - 環境ホルモンによる魚介類の生態影響評価
7月29日(土)	(講義)3 - 人間の福祉と動物	休憩	(講義)2 - 遺伝子組換え生物の応用例		昼休み	(講義)1 - 農業の教育力と農業教育の活性化	休憩	(講義)1 - プロジェクト学習と食農教育
7月30日(日)	休 日							
7月31日(月)	(講義)3 - 森林の公益的機能	休憩	(講義)3 - 木質系材料のエコマテリアル設計		昼休み	(講義)1 - バイオマス利用環境教育	休憩	(講義)1 - バイオマス利用環境教育
8月1日(火)	(講義)2 - ものの形と作用-有機立体化学入門-	休憩	(講義)3 - アジア地域の閉じた農村と開いた農村		昼休み	(講義)1 - 環境教育法	休憩	(講義・実習)1 - 環境教育の実際/自然体験活動実習
8月2日(水)	(講義)2 - 人と動物の共通感染症	休憩	(講義・実習)2 - 病原微生物の検出法		昼休み	(講義)2 - ロングライフ作物の開発-一日持ちの良い花を作るための研究-	閉講式	

教職に関する専門科目(1単位) 1 農業科教育法 1- ~1-

教科に関する専門科目(1単位) 2 現代のバイオサイエンス 2- ~2-

〃 (1単位) 3 現代のエコサイエンス 3- ~3-

研修実施場所 国立大学法人 東京農工大学

I 研修概要

研修名	産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修（高等学校実習助手講習）工業		
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係		
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受講対象	高等学校等（特殊教育諸学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。		
開催期日	平成18年 7月31日（月）～平成18年 8月 8日（火）	8日間	
受講人数	計画人数 30 人	受講者数 24 人	参加率 80.0%
開催場所	金沢工業大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	20 87.0	3 13.0	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の方法および環境につきましては、とても満足しています。来年以降もこのような形でお願ひしたいと思います。内容につきましては、もう少し実験要素が多ければよいなと思いました。 ・プレゼンテーションやチームでの取り組みや作業があったことが大変有意義であった。また、大学側の力の入れ方に大変感謝しています。ありがとうございました。 ・過去に他の大学でもいろいろ講義を受けましたが、金工大のように色々と工夫して下さった大学はほとんどありませんでした。内容、方法、環境の全てに於いて、これまで私が受けた講習の中では最高でした。どうもありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業教育に携わる実習助手に必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修日程

(工業)

団体名：金沢工業大学

日時	第1限9:00～10:30	休憩	第2限10:45～12:15	昼食	第3限13:15～14:45	休憩	第4限15:00～16:30
7/31(月)	受付		開講式・オリエンテーション		講義 [職業指導]職業指導の歴史		講義 [職業指導]職業指導の現状
8/1(火)	講義 [職業指導]職業指導の基礎理論		講義 [職業指導]職業指導と教育課程		講義 [職業指導]職業指導の実際		講義 [職業指導]職業指導の実際
8/2(水)	講義 [職業指導]職業指導の実際		講義 [職業指導]職業指導と進路指導		講義 [職業指導]職業指導と進路指導		講義 [制御工学]制御の歴史と現在
8/3(木)	講義 [制御工学]マイコンによる制御		講義 [制御工学]プログラミング		講義 [制御工学]電気回路		講義 [制御工学]機械構成
8/4(金)	講義 [制御工学]位置制御		講義 [制御工学]位置制御		講義 [制御工学]速度制御		講義 [制御工学]速度制御
8/5(土)	講義 [工業安全]教育機関と関係法令		講義 [工業安全]安全環境		講義 [工業安全]機械に関する安全		講義 [工業安全]電気に関する安全
8/7(月)	講義 [工業安全]化学に関する安全		講義 [工業安全]安全組織		講義 [工業安全]事故未然防止		講義 [工業安全]事故未然防止
8/8(火)	講義 [工業安全]事故発生時の対応		閉講式				
8/31(木)	レポート提出日						

実施会場：金沢工業大学

I 研修概要

研修名	産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修（高等学校実習助手講習）水産							
担当課係	教育課題研修課 語学・産業教育研修係							
研修目的	政府の「科学技術基本計画」、「ものづくり基盤技術基本計画」等を踏まえ、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	高等学校等（特殊教育諸学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開催期日	平成18年 8月21日（月）～平成18年 8月29日（火）			7日間				
受講人数	計画人数	15	人	受講者数	21	人	参加率	140.0%
開催場所	国立大学法人 長崎大学							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答
人数(人)	割合(%)	13	7	0	0	1
		65.0	35.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・水産の専門分野の知識を深めることができました。 ・大変有意義な講習でした。大学の施設見学（船等）をおりまぜて授業をやってほしかったです。 ・今回の講義で学び得られた内容を今後の生徒実習に活かしていこうと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> ・実施経費の1/2派遣者負担を導入した。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成18年度産業教育に携わる実習助手に対して必要な知識・技術を修得させることを目的とした研修日程

(水 産)

団体名 : 長崎大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月21日 (月)		開 講 式	休息 (講義) 水産科教育法 1. 水産教育について (1) 漁業の歴史 (2) 水産教育の始まり	昼 休 み	(講義) 職業指導 ・ 職業指導の必要性 ・ 職業意識の発達	休息	(講義) 海洋環境資源概論 漁船の性能と漁業情報の活用		
8月22日 (火)	(講義) 海洋環境資源概論 200カイリ体制と資源管理	休息	(講義) 水産科教育法 2. 海と生物 (1) 海の誕生とその歴史 (2) 海の利用 (3) 主な水産生物の種類と生態	昼 休 み	(講義) 職業指導 ・ 生徒の職業意識をめぐる諸問題 ・ 職業指導史	休息	(講義) 海洋環境資源概論 海洋植物の生理作用について		
8月23日 (水)	(講義) 水産科教育法 3. 漁業と生産 (1) 魚の習性と漁法 (2) 漁船の種類	休息	(講義) 水産科教育法 4. つくる漁業(栽培漁業) (1) 種苗生産 (2) 放流と管理	昼 休 み	(講義) 職業指導 ・ 職業指導の基礎理論 (1) 選択に関する理論 (2) 職業適心論	休息	(講義) 海洋環境資源概論 移殖・移入と種苗放流 - 生態系と 遺伝子資源の攪乱と破壊		
8月24日 (木)	(講義) 水産科教育法 5. 漁場と資源の管理	休息	(講義) 水産科教育法 6. 水産物の利用 (1) 食生活と水産物 (2) 主な水産加工品と流通	昼 休 み	(講義) 職業指導 ・ 職業指導の法理 ・ 職業指導の諸活動(領域)	休息	(講義) 海洋環境資源概論 水産物の生鮮度について		
8月25日 (金)	(講義) 海洋環境資源概論 赤潮プランクトンの科学	休息	(講義) 水産科教育法 7. 水産に関する法規 (1) 漁業制度・国際法	昼 休 み	(講義) 職業指導 ・ 人間理解の基本的立場と特徴 ・ 自己理解(自己概念の形成)	休息	(講義) 職業指導 ・ 進路に関する諸検査 ・ Vocational readiness test(実習)		
8月28日 (月)	(講義) 海洋環境資源概論 魚介毒とその起源	休息	(講義) 水産科教育法 8. 水産経済	昼 休 み	(講義) 職業指導 ・ 進路情報 ・ 啓発的経験 ・ 進路相談	休息	(講義) 職業指導 ・ 進路相談のありかた ・ 学校教育全体を通じた計画的組織 的活動		
8月29日 (火)	(講義) 海洋環境資源概論 海洋環境とそのモニタリング	休息	閉 講 式						